

高妻山（戸隠八方院付近より）

金谷 昭

## 世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて31年目

—実績と体験に基づいた旅作り—  
「一人では行けない、でも、行きたい」  
アルパインツアーが応えたいします。

**エベレスト・パノラマ・トレッキング**  
13日間 一特別企画— <開空発着>  
出発日 ●10/7 ￥298,000

**エベレスト・カラバートル登頂**  
トレッキング 19日間 <開空発着>  
出発日 ●10/31 ￥394,000

**玉山と雪山、**  
台湾の2座登頂 7日間 <開空発着>  
出発日 ●9/13 ●10/18  
￥214,000～￥218,000

**マレーシア最高峰Mt.キナル登頂5日間**  
出発日 ●9/14 ●11/2・23 <開空発着>  
￥148,000～￥158,000

**白神岳、岩木山、八甲田山登頂4日間**  
出発日 ●10/7 ￥158,800 <大阪発着>

秋はヒマラヤのベストシーズン！  
チャーター便で行く

### ネパール・ヒマラヤ トレッキング

第7回・ジャルウェイズで飛ぶ  
ヒマラヤ9日間  
<関西空港 発着>

①11月 3日(金)～11月11日(土)  
②11月10日(金)～11月17日(土)  
③11月17日(金)～11月25日(土)  
※専用ツアーカタログをご請求下さい。

**ロッキー・断崖ハイクとパノラマ**  
ヘリ・ハイキング10日間<開空発着>  
出発日 ●9/14 ￥526,000

**ボリビア・アンデスの山旅5,300峰登頂**  
とチチカカ湖 11日間 <開空発着>  
出発日 ●9/13 ￥476,000

**中央アルプス、木曽駒ヶ岳、宝剣岳、**  
空木岳縦走 3日間 <開空発着>  
出発日 ●9/6・27 ￥98,000  
※JR飯田線駒ヶ嶺駅集合・解散です。

### ネパール・ヒマラヤ <特設説明会>

◆8/23(水) ◆9/20(水)  
18:30～20:30 入場無料  
大阪科学技術センター405号室  
(地下鉄四つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

◎新ハイ関西企画 (湯浅次男リーダー同行) 好評募集中！ (本文・山行計画の頁をご覧下さい)  
9/22発「マッキンリー展望とアラスカ紅葉ハイキング7日間」 ￥335,000

**出張説明会** 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

アルパイン ツアー サービス 株式会社

大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区本町 1-10-22 (お・国・比 14 番)  
TEL: 06-3444-3033 / FAX: 06-6444-3032  
広島サテライトステーション (大阪支店転送) TEL: 082-542-1560

### ご請求下さい！

アルパインツアーの総合  
ツアーカタログ。  
世界の山旅・辺境の旅  
秋～冬号、9月発行。  
海外・国内のハイキン  
グ・登山コース満載！



般若寺の石仏

長い茎 羽状の葉  
 白 ピンク 紅 蛇の目  
 秋風に揺られながら  
 そっと咲く秋桜  
 自由気ままにそよ風と戯れ  
 心揺らす Cosmos  
 八重咲 コラレット咲 大輪咲  
 虚空にあそぶコスモス  
 乃木将典將軍は  
 弱々しいという理由で  
 大嫌いだっただという  
 丈の高いさまざまな色調の花に  
 かこまれていると  
 さわやかな風が吹きぬけ  
 心ときめく秋がやってくる



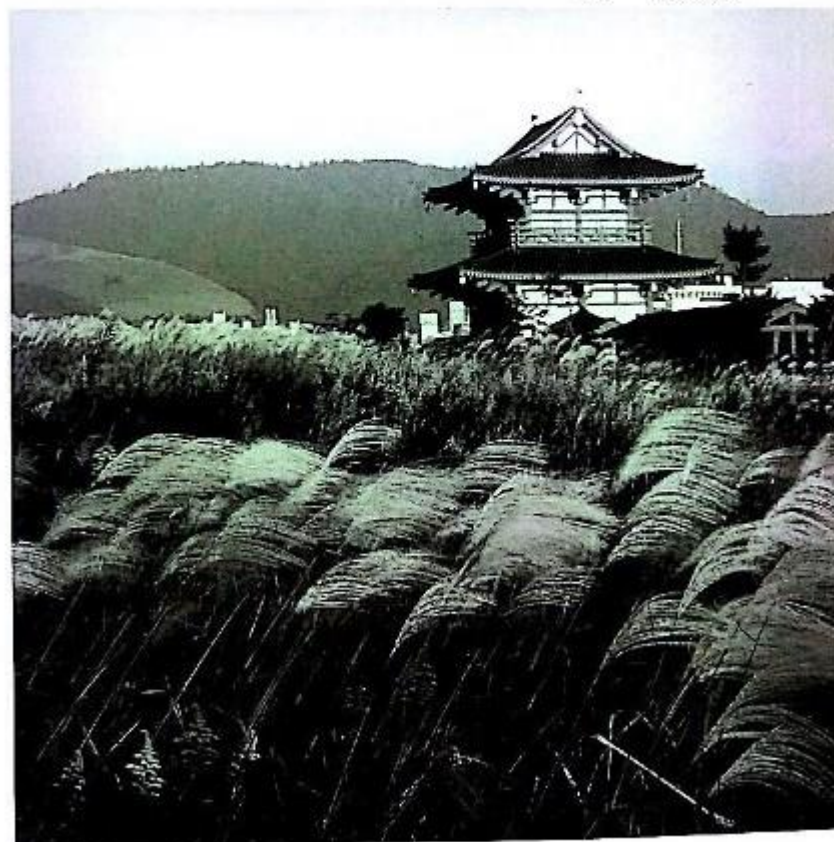
秋色の春日山

Photo essay

# 秋の花



題字 中田 蘭 石  
 撮影 由井 収  
 文 松 永 恵 一



秋風にゆれる尾花 (平城宮跡)

季節の



ツリフネソウ



マムシ草

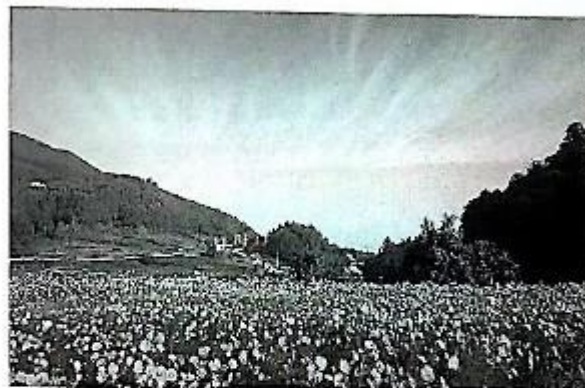


刈田 (比良)

実景

初秋

撮影 武市通治



コスモス畑



初秋



オーレン小屋前にて（八ヶ岳）

中川 光郎



落葉の分岐路（京都北山・品谷山付近）

森澤 元博



宮之浦岳樹林（屋久島）

三浦 弘幸



冠山（奥美濃）

榊原 計國



宿坊にて



三集の滝



ナメ流

●目次

表紙：松田敏男「熊沢岳とテングルマの窟」(南アルプス)

●千石プロフェーサー ●1979年、京都生まれ、京都府立芸術大学卒。1987年より山岳写真、登山家の写真家として、(写真)『南アルプス』の編集、東京1000リレー(白鳥、他)『熊沢岳』等に、取り組まれました。日本山岳会会員、一歩山岳研究家会会員

新川伴作 8冊 関西の山  
200年9-10月 初秋 冊54号

●グラビア

(口絵) 金谷 昭 中川光邦 三澤敏幸 森澤元輝 柳澤計司 奥田英一郎  
 秋の花……………撮影 藤井 収 文 松永 英一  
 季節の実業(初秋)「コスモス畑」他……………武市 通浩 4  
 函根(山のメッセ)……………柳澤計司 奥田英一郎  
 石が語る真中登山……………柳澤計司 奥田英一郎  
 大台遺蹟記……………柳澤計司 奥田英一郎

●紀行

鳥ヶ谷から藤木峠(北アルプス)	柳澤計司	12
千回沢山と若丸山(奥阿蘇)	柳澤計司	14
蛇峠山と大川入山(阿蘇)	柳澤計司	16
運馬 日本登山紀行(番外編)補遺12	柳澤計司	22
「新編相模原山記」(その一)	柳澤計司	26
四阿山から根子岳へ(北岳)	柳澤計司	28
元岳・夏焼山(中央アルプス)	柳澤計司	31
刺山と南河の山々(四国)	柳澤計司	34
姥ノ岳・丹沢山・姥ヶ岳(月夜)	柳澤計司	40
藤白峰と峰ノ峰(北岳)	柳澤計司	44
運馬 二尾山を訪ねて	柳澤計司	48
神秘の池がある特ヶ岳へ(谷津)	柳澤計司	52
比良を歩く 八瀬の滝めぐり	柳澤計司	55
運馬と北海道の山岳	柳澤計司	59
丹生から鹿仰の山、権ヶ岳、新ヶ岳登山	柳澤計司	66
文学歴史探訪ハイイク(和泉郡城山)へ(ナナ林を訪ねて)	柳澤計司	69
コース 日本ノケ山(北岳)	柳澤計司	72
ガイド 二尾山(北岳)	柳澤計司	76
宿坊ハイキングガイド……………柳澤計司	76	
サレステーション……………柳澤計司	102	
せせらび……………柳澤計司	104	

●巻頭言

今や、世間はデジタルの時代。何もかもが急ピッチで、「ニブイ・ドロクサイ・ノロイ」のアナログのイメージは嫌われ、便利・速い・きれいが最優先で、デジタルがいつに比べてソフトやハードもすぐにバージョンアップ。あずかに改良された新商品が安値で提供され、外形が美しくカッコだけ機能的ならすぐ飛びついてしまいます。ビジネスの分野もネット取引やネット販売が主流を占めるようになってきました。

私は少々不便でも、世からあるアナログに愛着を感じます。特に、柳澤計司は山歩きとはアナログが重要。山頂に到着するまであと何分かかるのか、休憩してから今まで何分歩き続けたのかを知るには、数字を計算しなくても、針がすぐ応えてくれます。時間の勘が目で実感できるからです。

デジタル化による世界の情報通信システムに遅れをとるまいと、柳澤計司は家でコンピュータ(こ)にのめりこみながらキーボードを叩きマウスを動かしていると、頭の先から汗、指の先まで寝れます。そんな時はハイキングでもして足腰も使ってみてください。

新ハイキングガイド(北岳) 柳澤計司



克



克

## 随想 (山のエッセイ)

### 石が語る講中登山 綱本 逸雄

街のビルの谷間にひっそりた  
たずむ石灯籠をよく見かける。  
昔の常夜灯だが、今でいう街灯  
の役割を果たした。

よく見ると、「愛宕山」とか  
「愛宕大権現」などの銘が、灯  
籠型なら火袋の下に平(一般に  
円柱、笠笠型なら塔身)一般  
に角柱の正面に刻まれている  
ものが多い。これらを総称して  
愛宕灯籠といっている。

私の住む京都府向日市の旧西  
国街道沿いにも、別明している  
だけで七基(高さ145、122、0  
等)ある。現在は国道171号  
線を西国街道といっているが、  
旧道は太閤秀吉が朝鮮出兵のた  
めに軍用道路として造ったもの  
だ。「京の七口」の一つ、「東  
寺口」を起点に桂川の久世橋

(旧「久世の渡し」、向日・長岡  
京市を経て兵庫縣西宮市以西の  
西國へ向かう。

七基の愛宕灯籠は、久世橋西  
詰付近から向日町競輪場東側の  
旧道まで分布している。距離に  
して約2kmの範囲だ。年号銘を  
見ると古くは安永五年(1776)  
から、昭和十二年(1937)に  
またがっており、江戸時代製は  
四基である。いずれも側面に  
「町(村)内安全」と彫られてい  
る。笠の形は火灯籠形式をはじ  
め様々で、上端の宝珠が失われ  
ていたり、笠や塔身の一部が大  
きく欠損しているものもある。

安永銘の石灯籠は江戸時代様  
式を示す神前型といって、字が  
三味線のぼち型であり、乙訓地  
域でよく見ると。あと六基は四角  
柱塔身の等塔型だ。

江戸時代の古絵図類を見ると、  
西国街道に沿って各村ごとに茅  
葺きの民家がひと塊りになって

点在している。まわりは見渡す  
限りの水田で、夜になると道案内  
役の常夜灯が沿道に点々と灯っ  
た情景が浮かぶ。住宅の建築ラッ  
クが始まった1960年代の  
高度成長期までは、旧村の面影  
はまだ残っていた。

愛宕灯籠は愛宕講供養塔とも  
いう。京都市右京区の愛宕山に  
は愛宕権現がまつられており、  
江戸時代には防火の神として民  
間信仰が全国に広まっていた。  
各地に愛宕講が組織され講員の  
愛宕詣りが行われた。燃束の少  
ない当時の庶民にとって、寺社  
参詣は手を振って自由に居住  
地を離れられ、行業のよい機会  
だった。

愛宕講の風習は北は東北地方  
西は中国・四国地方に及んでい  
る。近畿地方には講を代表して  
交待で参る代表講があった。そ  
れを記念して建立された愛宕講  
供養塔が京都市を中心に分布し  
ていて、常夜灯を兼ねて上部に

灯明を供える空間を設けている  
ものが多い。

また、京都までほるかに遠い  
地方の愛宕講信者は、手近な山  
に愛宕神社を勧誘してお参りし  
た。そのため全国に「愛宕山」  
が分布する。江戸の愛宕山(東  
京港区、286)は、後に192  
5年NHKの前身ラジオ放送局  
JOAKがわが国で初めて開局  
され、山名が放送局の代名詞に  
なったことはよく知られる。

さて、わが町の愛宕灯籠もか  
つて愛宕講が存在したことの証  
である。「乙訓郡誌」(1940  
年刊)によると、「愛宕講 愛  
宕大明神を祭り頭家(代表者毛)  
で酒食を共にし、後日頭家の者  
が愛宕神社に参詣し、お符、標  
の杖を土産に配る。このお符は  
『火の要心』の呪として庵の間の  
柱に貼る。またこれに付随し  
て町内に愛宕灯籠とて石灯籠あ  
り、町内で毎夜、常夜灯を  
点す」と記している。

昭和この頃まで、講は旧乙  
訓郡内各所に残っていたことが  
うかがえる。戦後廃れていくが、  
文化十二年銘灯籠(元梅ノ木町)  
について近所の主婦は、「昭和  
三十年代まで、まわりは水田と  
竹やぶで暗く、町内で交待で毎  
夜ロソクを点した」とその名  
残を語っている。

また、愛宕灯籠は建立時の世  
相も反映している。昭和十二年  
銘の「愛宕山常夜灯」(中梅ノ木  
町)は、阪急東向日駅南の  
踏切傍にあるが、近所の銭湯の  
老主人は「愛宕講はなかったが、  
町内の石集兵が無事帰ってくれ  
るよう安全を祈って、また愛宕  
権現は勝軍地蔵(未地仏)とも  
いい、「勝軍」に因んで、「報  
争」に勝つようにと建立した。  
でも、第二次大戦末期は灯火管  
制で、灯明は禁止だった」と語っ  
ていた。いわば戦争遺跡であ  
る。

民間信仰にもとづく集団登山

の風習は講中登山といひ、向日  
市内にも行者講がある。当地の  
氏神・式内社向日神社境内奥の  
岩窟内に、山岳修験道の始興、  
役行者像がまつられている。  
元は安永六年(1777)6月、  
市内北方の物集女阿の行者講信  
者たちの発願で造立・安置され  
ていたが、1950年8月、向  
日神社氏子らで組織する行者講  
「向日社友信会」が現在地に遷  
座し、今も参詣が絶えない。

乙訓各地に行者講もあつたこ  
とが「乙訓郡誌」にみえ、「行  
者講 役行者を祭る講で町内又  
は講中で行い、講中で行者祭り  
(大峰山詣り)をする時は先達を  
選び準備万端の世話をすると  
ある。

愛宕講や行者講の存在は、江  
戸時代から集団登山があり、昨  
今流行の中高年の団体登山より  
もっと大規模で、組織的に習俗  
として全国的に行われていた一  
端を物語るものだ。



## 随想 (山のエッセイ)

長に從うボーイは、副隊長以下小・中・高校生の混成チームによる総勢17名であった。

彼は奈良高校から大阪の大学に入り、卒業後「奈良交通」に入社した。休日は大和郡山車でBSの隊長や、日曜学校の教師を努め、社会福祉活動にも情を注ぎ活動家だった。

M隊長と副隊長はそれなりに山の経験も深く、ボーイは高校生が菊スカウト章の上級章を、以下も一級、二級章を持ち、ある程度の訓練を重ね、山の経験者でもあった。

日出ヶ岳に登頂後、シヤクナゲ坂を通過し登倉小屋に向かう途次、気象の急変で予期せぬ事態となった。

現場は日本の最多雨地帯であり、生い茂る原生林と灌木帯、奇岩・奇洞・断崖である。クマザサとシヤクナゲの大密林、言わば「万丈の山・千仞の谷」ともいえる所だ。晴れた日でも昼

やかな彩りを添えてくれる。それらの花に交じって「シヤクナゲ」が三種類あり、「アンネのバラ」とともに特に目をかいている。このシヤクナゲとバラを見るたびに、私は一人の友人と少女の死を思い出す。

当時、友人は私と同じ年の22歳。少女はアンネ・フランク（アンネの日記）の主人公で14歳。亡くなったのは、1975年と1974年。共に今生きていれば60歳と三つ年上の71歳である。

友人の事故が起きたのは、昭和五十年（1975）8月10日。真夏の太陽がキラキラと照りつける蒸し暑い一日だった。昼間の暑さは夜になっても冷めやらず、私は寝返りを繰り返していた。こんな夜遅く電話が鳴った。いったい何だろうと訝りながら、泫々と受話器を取り上げて愕然とした。

「M隊長が三重県の大杉谷で



遭難の試頭碑

お暗く、先程までの好天もまたたく間に吹きおろすガスにより視界が悪くなった。

どしゃぶりの雨と強風。道は水路と化し橋々の倒壊で行く手を遮られ、BS隊は進路を見失った。茫然自失の隊員たちを鼓舞したのち、副隊長に後事を託し、M隊長はルートを戻しに行つてついに帰らぬ人となったのである。

当時私も、友人のひとりとして捜索に参加したのであるが、現地の苛酷な状況に辟易した。身の丈をはるかに超す「ブッシュ」のなかに身を泳がせ、稜線から谷間に向かって一斉捜索した。隣の見守り隊員との距離は3メートル。大声を発し、声のみでお互いの位置を確認しつつ、捜索を進めた。たのだが、大杉谷の恐怖は未だに忘れられない。

立派な人生観をもった彼を突然に失い語る言葉もなかった。人には必ず死がやってくると分



## 大台遭難記

三上 勇

宗教登山の講は、これら以外に富士山・本曾の御嶽・紀伊の熊野・出羽の月山・九州の英彦山など有名な山岳で行われ、江戸時代に盛んに富士講など各講が組織されたことは、山崎安治著「日本登山史」（白水社）や宗教民俗関係書に詳しい。しかし、各地の講中登山史を石仏・石塔を通して具体的に調査した例はあまり見かけないと思う。

私も家族も草花が好きだ。お隣さんの影響もあって、いつしか見れば真似で、草花を育てるようになった。プロの手をかりないわが家の庭は、よそ様に比べいささか見劣りがする。しかし、四十五坪の庭には、大小50

種の花が咲き、四季折々に華

遭難されました」との知らせを受けた。電話は、大和郡山市の日本ボーイスカウト団（BS）本部長の北野氏からであった。

翌日早朝には、警視庁の三重県警察から「奈良交通」本社に第一報が入り、直ちに緊急会議を招集、救助隊を組織して現場に向かった。情報はその日のうちに関係者に知らされ、奈良県山岳会と郡山岳会、奈良・三重両県の営林署・警察・森林関係者、天理大学及び同大学ワシントン・タイゲル部と天理放鷹会を守る会、大和郡山キリスト教会と親類縁者、友人並びに大阪の出身大学関係者らによる大捜索となった。

結果は捜索以来27日後に、M隊長は奈良県山岳遭難隊により遺体となって発見された。

8月10日、BS隊は近隣の屋根・大台ヶ原（主峰・日出ヶ岳1700m）で、前日の上曜日から登山訓練に入っていた。M隊

思いっきり「秋」を満喫した

## 島々谷から徳本峠

榊原計国

北アルプス

島々谷から徳本峠(21355)へのルートは、昭和八年に釜トンネルが貫通するまで、上高地・槍・穂高へのメインルートであった。日本アルプスの父・ウエニストンもこの道を梓川へくだり、槍・穂高の登頂をめざした。もちろん、それよりはるか以前、樺太上人以前から里人たちは利用されていたようだ。それらを思い起こさせる痕跡もいくつか残されている。

私は、明神を少し過ぎた梓川との出合の道標によってこの道筋のあることを知り、いつか先人の思いをたどりながらこの道歩いてみたいと思っていた。ただ、そのためには2日間が必要となり、なか

なか踏み込めないでいた。

そんなある年の秋、思いっきり「秋」を満喫できる山はないものかと探していたところ、「秋は、島々谷から徳本峠を越えるルートがなかなかよい」との話を聞きつけ「これで長年の夢も果たせるな」と、「か弱き相棒？」を連れて秋を楽しまに出發けた。果たせるかな本道にすばらしい「秋」があり、それは単に「歴史の道」としての興味だけではなかった。

新島々に車を置いてバスで島々留まで向かったのだが、ザックを担いで島々留で降りる人なんて目撃めったにいないのか、運転手が私たちを降ろし忘れた。しばらく行き過ぎた所で反対側から来たバ



時の宿・徳木小屋

スに乗り換え、島々留まで戻った。こちらも秋本番の風景に見とれていて、補給ダムを過ぎるまで全く気づかなかった。

バス停からすぐの島々谷川のもとに來ると「徳本峠入口」と書かれた道標があり、「上高地へ20分」とある。ここから2股までは車も通るゆるやかな傾斜の林道となっていて。普段なら運屈な林道歩きも、秋真っ盛りのさよきは心躍る楽

しいものになった。

9時過ぎに歩き始める。二股までは1時間30分ほどの林道歩きとなるが、あたりの山々は本当に美しい。雑林は見られず、今は赤や黄色や緑の彩々に色が混じる。まさに秋本番だ。



さらにもう少し奥へ進んでゆくと、さまざまな葉が散ってくる。大きな葉っぱはヒラッ、ヒラッと優雅にゆっゆりと、まるで舞うように落ちてくるし、小さな葉っぱはハラハラ、ハラハラと、過ぎゆく秋に涙を落としているかのようだ。私はこの時点でもう、今回の山旅に十分満足してしまっただ。

二股からはいよいよ本格的な山道となる。たいした傾斜もなく、これがまた雰囲気の良い道だ。この道は補道として長い歴史の中からできあがったもので、今ではまわりの自然に溶け込んですっかり安定したものとなっている。

必要な所にはきちんとした橋が架けられ、足腰の悪い所には木道も付いてある。折道標や案内板もあるが、段を越すものではなく、まわりとつまく調和した必要最低限のものとなっている。それどころか、島々谷南沢の岩壁沿いに架けられた木道を見ると、その維持には計り知れない苦勞があるだろうと思われる。そこには自然に対する理解や登山者に対する愛情すら感じさせるものがある。

もどり橋を過ぎ、流れ岩から岩魚留小屋のあたりは、動きゆく秋の最後の静き

を見せていた。秋にひたたり秋のなかを行く。本道にすばらしいコースだ。

岩魚留小屋に着いたのは13時過ぎ、ここまで2股から2時間30分といったところだ。夏の時期には管理人も常住しているとのことだが、今のシーズンは廃屋にしか見えない。ただ、この小屋に泊まったことのある人から聞いた話では、前の沢で捕れた魚などをおかずにつくもてなしてもらったということだ。次はぜひ岩魚留小屋での一泊を考えてみたい。

岩魚留小屋の裏には大きなイチョウがある。大人6人が手をのばしても囲み切れるかどうかというほどの大きさだ。イチョウは中国原産の落葉喬木で、本来日本にはないものであり、これほどの大木は古くからの寺院や神社にしか見られないはずだ。となると、人によって植えられたとしか考えられない。この大イチョウの存在は、この道の歴史の古さを物語るものだとはいえるだろう。

標高1280mにあるこの小屋を過ぎると、まわりはすでに晩秋の趣だ。落葉してしまっただけで開けた感じになっている。力水までまさらに谷沿いの道を行く。左右にいくつか支流を分け、南沢も源流



の風情となってくる。力水までは岩魚留小屋から1時間30分ばかり。ここからは沢を離れて、右手の時をめぐして標高差4000呎を一気に登る。曲がりくねったつづら折りの道で、傾斜はさしてきつくない。昔はここを通過して、鳥ヶ宿の人たちは牛をひいて徳沢の放牧場まで往復していた。

力水から1時間余りたどり着いた徳本峠の小屋は、そのたまたまは「峠の小屋」そのもので、何か郷愁を帯びた言葉にびびったりのものだった。後トンネルが出来るまでは、槍・穂高や上高地に向かう人たちが活況を呈していたこの峠も、その必要がなくなつてからは、昔を懐かしむ登山者が通るだけのものとなつていく。

建てつけの悪い戸を開けて中に入り、荷物の整理をしていると、「泊まるんなら先に受付を済ませてくれ」と少々乱暴な声が飛んできた。その何とも無愛想でぶっきらぼう、ヒゲもじゅの熊のようないかにも山男といったおやじが小屋の主であった。そういえば今頃、やっているかどうか確認しておこうと、新鳥々々から電話を入れたときも「泊まるのか泊まら

ないのか。泊まるんなら予約してくれ」というものだった。由小屋に泊まるのに予約を入れるという習慣のなかった私は少々戸惑い躊躇もしたが、いままさか予定を変えることもできないので、「お願ひします」と言つたものの、そのおかげらばうな愛想のない言い方には何か自分が招かれざる客のような感じさえしたものだ。ほかの登山者にも同様な態度で、予約もなく遅くに来た登山者には「もう食事の支度はできないからインスタントカレーぐらいしかないぞ」と言い放つていた。「全く客を客とも思わないような、横暴な主人だな。こんなさびれた、外れた所にある山小屋のおやじなんて所詮そんなものか」とその時は思った。

しかし、その思いは夕食を見た瞬間に一変した。たぐさんの品数が並び、その素朴な山の料理の一品一品に、彼の深いもてなしの心が感じられたのだ。おそろく彼は昼間に自分の足で山々を駆けめぐつて食材を集め、丹誠込めて作つてくれたのだろう。このことが十分に感じられた。彼にとつてこの小屋に来る登山者は、お金を落としてくれるお客様ではなく、等しく山を愛する友人なのである。あのぶっ

さらばうな「泊まるのか泊まらないのか。泊まるんなら予約してくれ」と言う言葉も、今思えば「せつかく来てくれるのなら、精一杯もてなしたい」からではっきりしてこれとの気持ちであつたようだ。

あとでわかつたことだが、翌日に予定していた霞沢岳(2645・8呎)への登山道も、彼が、この徳本峠の小屋へわざわざ来てくれた人たちに新たな魅力を提示しようと、友人の力を借りながら原生林を切り開いてくれたものだった。その苦労は並大抵のものではないことは容易に察せられる。また、荒れるがまたたつた蝶ヶ岳への縦走路も整備し、大天井岳から霞沢岳までの長大な尾根を歩きやすく筋立てられたのだ。

翌朝の朝飯も彼の手作り料理が並び、本当においしいいただいた。ほかの近代的な山小屋とは違い、ヘリコプターなど利用できるはずもない。すべて彼が明神から3時間かけて担ぎ上げねばならぬのだ。その中には調理に使う鍋、のガスボンベまで含まれているというのだから恐れ入る。

2日目は、相棒はそのまま先に明神へくだつてもらい、私一人が霞沢岳を往復

することにした。きょうはまわりの山々にガスが立ちこめ、爽しみた峠から明神岳や奥穂高岳などの展望は得られなかった。

霞沢岳へは従来まともな登山道がなく、上高地から道のない八右衛門沢をつめるよりはかかった。そのため霞沢岳は「北アルプスに残された唯一最後の秘境」とも言われていたのだ。そんな霞沢岳をこの冬、白骨温泉から雪をかぶつた姿を見たときは、まことに奇蹟に見えせむ登つてみたいと思つた。

小屋から少しくだり、明神への道を右に分けてしばらく行くと、ジャンクションピーク(2438呎)に向けての直登が始まる。標高差2500呎余りを一気に登るのだが、ここがこのコースの最大のがんばりどころだ。ジャンクションピークはきのう歩いてきた鳥ヶ谷南沢側に向けて切れ落ちていたのだが、きょうはガスで何も見えない。

ジャンクションピークからしばらくはゆるやかな稜線を行く。あたりは、もううっすらと雪がおおっている。ちよつとした二重稜線になっている所には水溜りもあつたが、池というほどのものでもな

い。さらに進み、左側がガレている所を過ぎるとまた急登が始まる。標高差即ちばかりを登るとしばらくはゆるやかになり、次の急登、標高差1700呎を登りまるとK1ピークにたどり着く。ここから六百山(2445・8呎)へは右に稜線をとどるが、登山道があるわけではない。霞沢岳へは左の稜線をたどり、もう一つのピークを越えて行くことだり誓った。

徳本峠から2時間ばかりの急登となり、途中はガスにおおわれほとんど何も見えないので、ゆっくり写真を撮つたりあたりの山々を眺めながら地図を見るということもなく来てしまった。まわりのハイマツは白く雪をかぶり、山頂では雪さえ舞つてきた。そう、ここはもう冬なんだ。今回は山頂から白骨温泉を眺めてみたかったが、それもこの天候では望むべくもない。そそくさと山頂をあとにし、またまた急登で峠へと向かった。

先に行つた相棒のことも気にかかり、結局4時間で霞沢岳を往復してしまつた。これでは単に山頂を踏んできただけのもので、本意の意味で霞沢岳を登つたことにはなっていない。ぜひ、また会いに来ることにしよう。峠でひと休みして、相

棒の待つ明神へ向かう。

(平成8年10月19日、20日歩く)

○徳本峠小屋の主、小松さんはこの翌年に山を下りられ、今は新しい主となつているが、そのあとの人もなかなかすばらしい人だと聞いている。

○徳本峠やこのときの小屋主の小松さんのことは、中西光三氏の山岳エッセイ『一匹のさまよい』(リベラル社)に載っている。私はこの本を徳本峠小屋で入手したが、10編の各エッセイがとてもおもしろく山の紀行文としては秀逸のものである。

○平成11年の集中豪雨で一時このコースも通行止となつたが、すぐに復旧し今は問題ない。

△コースタイム▽

鳥ヶ宿(1時間30分)二股(2時間30分)岩魚留小屋(1時間30分)力水(1時間30分)徳本峠(3時間30分)霞沢岳(3時間)徳本峠(1時間30分)明神

△地形図▽2万5千1波山・上高地  
△連絡先▽  
徳本峠小屋 0263(95)2545

やぶ山に登る

# 千回沢山と若丸山

宮脇 慎典

奥美濃

千回沢より不動山



ここ数年、奥美濃のやぶ山に魅せられ、暇を見つけては一人でこの辺りの山歩きを楽しんでいる。道無きやぶ山は残雪期に登りやすく展望もよいが、無雪期、沢をつめやぶをこいで登るのも山頂に立ったときの感動が格別である。穏やかな秋の晴天の日、奥美濃のやぶ山、千回沢山(1246m)と若丸山(1286m)に登った。いずれも交通の便が悪く林道の状態も悪いが、あまり人が入らない奥美濃の深遠部であり豊かな自然が残っていた。

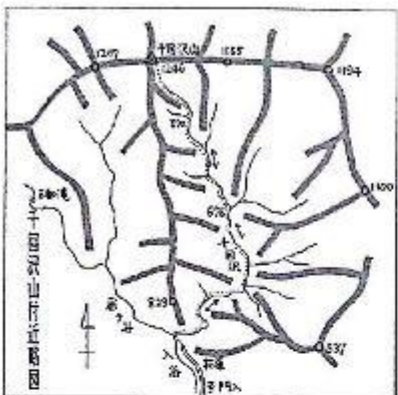
## 千回沢山

8月下旬、蕎麦粒山に登った帰りに下見したときは、藪から徳山方面への道

から門入への道は問題ない。山の斜面に建設中の道路は、ダムが完成したときの道だろうか。

門入に6時過ぎ到着。適当な空地に駐車し、入谷の杉林の林道を歩く。林道は途中大きなてこぼこや水溜まりがあるが、四駆なら林道終点まで行けそう。林道終点から少し歩いて沢におりた所が越ヶ谷と千回沢との出合となつている。対岸に作業小屋が見える。

沢靴に履きかえ、右の千回沢を登る。谷は広く穏やかである。しばらく歩くと5分程の滝に出る。左の斜面を捲く。次



が通行止だった。それで今回事前に羅敷村役場に道路状況を確認したところ、途中で工事をやっているが門入まで入れること、冠山峠方面へはまだ通行止とのことなど親切に教えてくれた。

準備を済ませ、22時大坂を出発。名神大垣インターを降りて国道417号線に入る。横山ダムの所で夜間道路工事のため、翌朝5時まで通行止。少し手前の道の駅「藤橋」で仮眠することにする。見上げれば満天の星である。星が大きく明るい。「星のふる里」との案内板もあり、なるほどと思う。こんなにすばらしい星空を見たのはいつだっただろうかと思いつつながら眠りにつく。

の3分滝も左を捲く。いずれも捲き道が出来ている。谷に出合うごとに地図とコンパスで進路を確認する。676m地点には9時頃到着。休憩にはよい所だが、古い弁当箱が散乱し興奮めだ。少し登ると右岸に大きなカツラの木がある。黒々と歩いていると、乾いた岩に濡れた足跡を見つけた。どうも近くに先行者がいるようだ。登るにつれ谷の幅は次第に狭くなり、両側からやぶが迫ってきた。やぶこぎしながらの登りとなる。

870m地点で二保となり、右をとる。ここで先行者の足跡は消えた。念のため、コンパス・高度計で予定通りのルートであることを確認する。左に曲がり気味に登っていくと稜線が迫ってきた。谷は潮れてガレ場となり、谷というよりは登山道といった感じだ。これを登りつめると、突然谷は消えやぶに変わった。これがネマガリタケの密林したやぶで、かつ急斜面であり沢跡が滑ってなかなか突入できない。腕方にまかせて楢引にもぐり込む。無心に登っていると右上方から人の話し声が聞こえてきた。そちらの方に進むと、そこが山頂であった。

狭い山頂に先行者のパーティが坐っ

翌朝5時過ぎに工事現場を通過。ちょうど作業が終了して作業員が道具をトラックに片付けているところだった。藪から徳山方面への道に入り、徳山ダムの工事現場を経て、薄明の中、全戸が隣村した旧徳山村を走る。だれもいない寂寥としたなかで、一ヶ所、黄色の境界線が明々と点滅しており、あたかも映画の一シーンのような不思議な雰囲気だ。旧徳山村

で歓談しており、まさに一人分坐れるように詰めてもらう。「千回沢山でまさか人に会うとは思わなかった」とリーダー格の方から声をかけられる。話を聞くと、そのパーティは最後の所で一つ谷を間違えたため、中央尾根を登ったとのこと。下りのルートを引かれたので、今私が登ってきたやぶを指差し、沢を目がけてくだるように答えた。パーティが去ると、私だけの静かな山頂となった。山頂からは蕎麦粒山方面が見える。尾根伝いの不動山へは深いやぶだ。眼下には今登ってきた千回沢がうねりながら足下に突き上げている。見渡す限り豊かな自然林で、まさに奥美濃の深遠部といった感じである。

帰路は往路を戻る。沢に出るまでは転げ落ちそうなやぶの急斜面である。滑らないように注意してくださる。よくもこんな所を登ってきたものだと自分ながら感心する。ガレ場からは長い長い千回沢をくだる。いい加減に疲れてきた頃、作業小屋が見えてはっとする。沢歩きから解放され、門入への林道を歩く。

門入に近づくと秋の日はすでに傾き、ススキが銀色に輝いていた。正面には大

きな蒸気機山のシルエット。どこことなく懐かしい景色を見ていると無事登頂できた満足感がこみ上げてきた。

(平成11年10月10日歩く)

### 若丸山

北陸道の福井インターから国道158号線で大野市に抜け、国道157号線を福井市へ向かう。雲川ダムを過ぎた頃から道が急に狭くなり、国道というより林道といった感じである。途中、九頭竜湖へ向かう道路は通行止となっていた。国道157号線から熊河川沿いの林道に入るとさらに道が悪くなり、谷側の路肩が崩れかけた所や山側から土砂が崩れ落ちた所があり、十分に注意して走る。さらに進むと山側からのやぶで極端に道が細くなり、だんだん不安になってきた。カーブミラーがやぶのなかに埋もれている。車の両サイドをやぶで掘りながらやっとのことで「くまのこたにはし」に到着する。

橋を渡りトノ又谷に入った所に車三台程度が駐車できるスペースがあり、そこに駐める。もっと手前の適当な広場に駐車して歩いたほうがよかったかなとも思っ

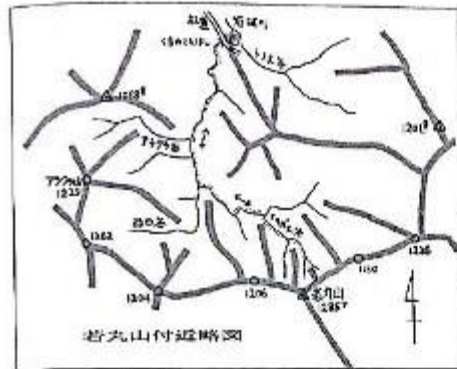


若丸山より能郷白山

かれないように注意して進む。20分程で若丸山頂上。  
狭い山頂だが、360度見るものながく奥美濃の大展望台である。白山・荒島尾・姥ヶ岳・能郷白山・出倉・花房山・冠山・釈迦淵・千回沢山・不動山・高丸・葛支根山。見渡す限り山また山である。そして豊かな自然林がよい。雲一つない青空の下、雄大な景色を走り占めするのはもったいない気持ちだ。  
立ち去りがたい山頂を後に、帰りは同じ道をたどる。山頂からくだるとき、い

た。

橋の右岸側から沢におりる。沢は広くて明るい。水深も浅い。所どころに兩岸にショートカットがあるが、けっこうやぶがうるさく、沢を歩いたほうが楽だ。アラクラ谷・西目谷と順調に過ぎ、東にカーブし、一つ目の谷をやり過ごし、ナリガ又谷に到着する。うっかりすると通り過ぎる感じの谷である。地図とコンパスで谷の方向を合わせ、間違いないことを確認する。



若丸山付近略図

つの間にか北側に逸れたため、やぶの急斜面を右側に軌道修正し稜線に戻る。やぶ山は登るときよりも下りのほうが要注意だ。奥境尾根からは、登りの際要所に付けてきた赤布を回収しながらくだる。支尾根から上の二俣におりる所が急で滑りやすく、念のため補助ザイルを出す。その後は沢をのんびり歩いて駐車場の橋まで戻るだけだ。途中、安堵感からか不注意にも浮石で滑り下半身がすず濡れとなる。さすがに身を切る冷たさだ。

晩秋の午後、北側の谷に陽は届かず、紅葉はすでに光彩を失っていた。  
(平成11年11月7日歩く)

### △コースタイム△

- (千回沢山) 門入 (45分) 破ヶ谷出合 (1時間40分) 676峠 (2時間30分)
- 千回沢山 (3時間30分) 破ヶ谷出合 (1時間) 門入 (若丸山) くまのこたにはし (1時間06分) ナリガ又谷出合 (20分) 二俣 (25分) 上の二俣 (1時間30分) 若丸山 (3時間) くまのこたにはし

### △地形図△

2万5千ニ広野・美濃徳山・冠山

ナリガ又谷は最初左にカーブしたのち、直進してどんどん登っていく。谷は流木が散乱しけっこう荒れている。途中、谷の中に巨岩がある。登るにつれ小滝が連続するが、問題なく直登できる。30分程で二俣となる。ここは左をとる。なおも小滝が連続し、516峠の滝が現れるが、これも問題ない。突然15分ほどの垂直の滝に直面する。直登は無理で、左の小沢から草付きの斜面をトラバースする。滑りやすく立木も少ないので緊張した。大きく高登いたほうがよい。おりた所が上の二俣。

ここでどちらに進むか迷ったが、結局中央の支尾根に取りつくことにした。やぶの急斜面をひと登りでブナが散在する支尾根にのる。尾根を登るにつれ徐々に稜線が両側から近づいてくる。やがて背丈を超えるネマガリタケのやぶに突入するが、稜線の光が漏れていてたいした距離ではない。

福井・岐阜の奥境尾根となっている稜線に出るといきなり視界が開ける。西に黒々とした若丸山、東には雄大な能郷白山。やせた稜線にはかすかな踏み分けがある。岐阜奥境が落ちており、足を引

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの合目部で更に割引します。



とスキーのヨシミ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL 06(6772)7231

JR天王寺駅  
北出口右へ  
歩道橋渡ってスグ



# 新ハイ例会・自然観察山行

## 蛇峠山と大川入山

鷺見守康

南信

蛇峠山と大川入山は中央アルプス最南端の山で、国道153号線(三州街道)の走る治部坂峠を挟んで向かい合っている。矢作川水系と大川川水系を分ける治部坂峠は、国道153号線沿いで唯一、標高1000mを超える峠だが、リゾート開発でスキー場や温泉施設などが整備され、冬は名古屋方面からのスキー客で賑わいを見せている。

平成11年10月、この蛇峠山と大川入山を一泊2日の例会山行として20人で歩いた。集合地の岐阜では雨を覚悟の出発だったが、両日其晴れるといううれしい誤算であった。

この山行は、当初予定していた飛騨の

三方岩岳と初雁山からの変更であった。初雁山の登山口となる天生峠への道が9月の集中豪雨によって通行止めとなり、復旧の時期がはっきりしない。ぎりぎりになってのコース変更では宿の再手配などが難しく、当初の予定を早めに断念し、私の計画では後日となっていた蛇峠山と大川入山を繰り上げて実施した。

### 蛇峠山

蛇峠山は標高1663.9m。山名からヘビが多いのでは、と想像する向きもあろうが、昔、麓の農家に住んでいた大蛇が、体が大きくなって治部坂の池に引越したという伝説があり、それが山名の

大川入山から望む蛇峠山



由来となっているようだ。

山頂はNTTなどのアンテナ・レダーが乱立する情報通信基地となっており、麓の治部坂高原はスキー場や別荘地として開発されている。そのため、登山対象の山としてはすっかり魅力を失ったものの、けっこう草花の彩りもよく、手軽に登れる南アルプスの展望台としては捨てがたい。

登り口の治部坂峠に到着したとき、11時30分を過ぎていた。現在、登山道は馬の背から始まっているし、昼食はやはり山頂でこの思いもあって、馬の背までバスで乗り込んでも時間短縮を考えたが、運転手が紫色を示した。

これがかえって幸いしたのかもしれない。結局、山頂での昼食は無理だったものの、下りの際には、開発で埋もれたままの旧登山道のはば全線を初めて歩くことができた。

スキー場駐車場からの車道を歩いて行くとき看板があり、「スキー場1馬の背1蛇峠山」とある。この矢印に従い左に道路をとってそのまま車道を行く。一方旧登山道は、反対方向の右へ進み、次に「みどり」に別荘地内に立ち入らないよう

に」という看板を見たら、そのすぐ手前の小橋を渡り、別荘地内に立ち入るような形で進んで行く(したがって、馬の背まではやはり車道を利用した方がいいだろう)。しばらく車道を歩く。蛇行する車道は旧登山道を寸断してのびているようだ。途中から踏み跡の残る旧登山道にも足を踏み入れ、1時間ほどで馬の背に立った。馬の背は草原状のこんもりとした丘で、四囲の見晴らしもよい。西方向にはあす歩く予定の大川入山が、優美な三角錐の山容を見せている。「昼食はここがいい」というメンバー多数の声に正されて昼食休憩とする。

馬の背からは樹林のなかの登山道を見つけた。樹林のなかで、紫色のブドウのような実を付けたツル状の植物を目にした。

メンバーから名前について質問がとぶ。果実には見覚えがないものの、葉の手ざわりにはかすかな記憶がある。モクレン科のサネカズラに限らしたっけりした気持ちのよい感覚だ。多分、同科のマツブサだろうと思うが、確信がもてない。

やがて、車道に合流して頂上部に至る。車道沿いではキク科のアキノキリンソウ、ノコンギク・ヤマハハコ、キキョウ科ツリガネニンジン、リンドウ科ウメバチソウ、リンドウ、ユキノシタ科ウメバチソウ、マツムシソウ科マツムシソウなどの花を見る。メンバーにとって、マツムシソウとの出会いが予想外だったらしく、喚声がある。東海地方に暮らす者にとっても、マツムシソウは信州のムードがいっぱいの花である。ここはまぎれもなく信

## 近江の山を歩く

草川啓三著

菊安判・二〇〇〇円

新刊  
「近江の山頂、夢幻の谷、馬の鹿村、源氏の山、山寺の秋...」近江の四季50山。珠玉の山は又々書き添いのカラー写真で綴り、美しい近江の風景が広がる。

## 大和まほろばの旅

内田嘉弘著

四六判・二〇〇〇円

「奈良東北・中部の山一山の辺、大和高原、宇陀、室生、初瀬、飛鳥、金剛、生駒」古代史探訪も併せた名山ハイキング。約60山地図、参考タイムつき完全ガイド。

ナカニシヤ出版

東京都左京区吉田二本松町2  
☎075-751-1211 〒606-8316



大川入山山頂へ。クマイザサの道

ジロモミ・コメツガ・トウヒ(マツ科)などは避暑山帯の住人である。さらにもっとグロバルな目で見れば、大陸のタイガに広がる針葉樹林の主である。それらの樹木がつくる林相は独特な美しさで、空気がすがすがしい。足元にはリンドウ科のハナイカリが咲き残っている。日本海型植物であるキタ科のクルマバハダマの花やスイカズラ科オオカモノキの突も

見られた。やや陰湿な林の最低部(約1600m)を抜けた平な展望地に出る。ここからクマイザサ(イネ科)の広がる大斜面をジグザグに登って行く。コース中で最も苦しい所だが、この南斜面が大川入山のもう一つのセールスポイントである。丈の低いササ原は陽光にきらめき、渡る風は頬にやさしい。登るにつれ刻々と周囲の景観も広がり、背後にはきのこの蛇峠山が見えてきた。横岳からの道も一望でき、爽快そのものである。

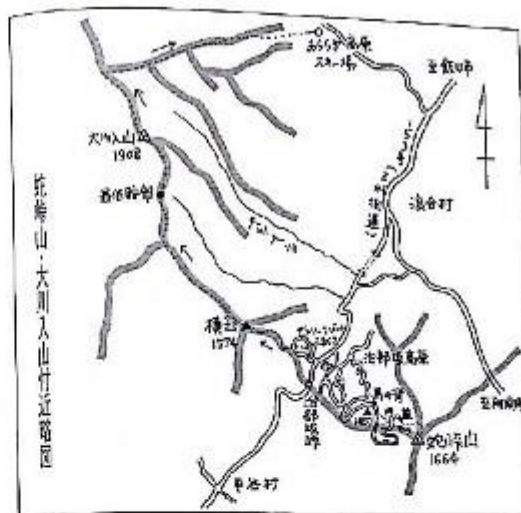
ササ原の急斜面を登りきった山頂(1908m)からは、西・中央・北アルプスなど、まさに絶景である。とりわけ南アは、高くなった陽を受けて山腰もあざやかに、全景が一直線に並んでいる。大川入山最奥のセールスポイントである枝群の山岳展望とともに、私には眼下の茫洋たる伊那谷の明るさが目に染みわたった。

山頂周辺の片手間に食事をするというせわしい休憩時間を軽く間に過ぎ、出発。山頂を通り過ぎて行くと、前方に恵那山の姿が見えてきた。この角度から見る恵那山は意外なほど貧弱な山である。

いったんくんだり、北奥のピークに登る。北側から見ると大川入山の様相は南面からとはあまりにも異なり、同じ山とは思えないほどだ。

北のピークからは長大な尾根を歩く。途中、ダケカンバやシラカバ(カバノキ科)など、さわやかな雰囲気のある林を見ながら、あららぎ高原スキー場へとくだった。(平成11年10月16日17日歩く)

▲参考タイム▼  
 (10月16日)  
 JR坂垣駅 8・50 ~ 9・10 (バス) 治部  
 坂峠 11・30 ~ 15馬の背 12・30 (昼食)  
 13・10 蛇峠山 13・50 のろし台 14・00  
 1馬の背 14・45 治部坂峠 15・30 ~ 50  
 (バス) 豆谷村 16・00 (民宿泊)  
 (10月17日)  
 民宿 6・40 (バス) 治部坂峠 6・50 横  
 岳 8・00 大川入山 10・00 (昼食) 11・  
 00 さららぎ高原スキー場 13・10 (バス)  
 恵那温泉 13・40 ~ 14・20 (バス) JR坂  
 垣駅 16・15 (解散)  
 \*バスは貸切バスを使用した。  
 入地形図V2万5千II混合



の半分を占めて雲が広がっているが、ひんやりと澄んだ大気が、きょうの晴天を予感させる。

再び治部坂峠でバスを降り、国道を隔ててきのうとは反対側の山麓に入る。「デンソーリゾート治部坂こまくさ」の建物を右手にして進むと、まもなくT字路となり右へ折れる。登山口の指路標を見て左の山道を進む。やがて、槍ヶ岳の尾根となるが、このあたり、イワウメ科イソワチマの群生が見られる。

カラマツ(マツ科)林のなかを九十九折りに登って行く。と見通しがきくようになり、右に大川入山の姿が見えてきた。山肌をササ原がおおい、見事な三角錐を描いている。そよ風が肌心地よい。

まもなくふり返ると、東の空に南アルプスのシルエットが浮かび上がってきた。大気はあくまで澄み、雲が消えゆく空はやわらかな逆光に輝いている。喚声とともに立ち止まり、隊列が所どころで途切

れる。おそらく年に数回しかない晴天のおかけなのだろう、すばらしい展望である。

崩壊した急斜面を登って横岳の山頂(1574m)に到着。横岳山頂は案内板があるだけのどうということもない小広場だ。

横岳から稜線を北に向かう。比較的平坦なもの、なかなか長い被線で13ヶものコブを越えて行く。

この被線歩きは大川入山のセールスポイントの一つというべきではないだろう。樹間からも眺められるし、いくつかのコブの上は休憩所となり、見晴らしもきく。さらに樹木がとてもしよいのだ。何より針葉樹に出会える。

この大川入山は信州の山とはいえず、愛知県からごく近い所に位置している。この新ハイ山行では、アブローチを北の飯田方面からとったが、以前、愛知県の南からアクセスしたときは、その地理的感覚をひきずったままの私にとって、この尾根上の針葉樹の存在は決定的であった。

カラマンは植林されたものだが、ウラ

連載

『新篇相模国風土記稿』(その1)

浅野孝一

『新篇武蔵風土記稿』が完成するや幕府は『新篇相模国風土記稿』の編纂を命じた。編纂には間宮土信以下二十七名の幕臣に選ばれた。

『新篇武蔵風土記稿』は、多数の編纂者が携わったため、記載内容等に若干の不統一のさらいがあった。本書では記述の内容を整理統一するための充実した編纂方針が示された。詳細に記録され、古文書などの引用・史料も豊富に採用された。

丹沢の山々に関しては、武田久吉の文章を読んで『新篇相模国風土記稿』のあるのを知った。さらにその地誌を完全にマスターするようになったのは六十歳台

になってからで、私にとっては大変遅い知識の吸収であった。

そして、それまであまり食指の動かなかった丹沢山塊周辺の低山を私も歩くようになった。まず関東における修験道の原点であった八菅山に登ってみた。

八菅山は標高2266mの低山であり、後、行者にまつわる伝説を秘めている山である。

八菅山の山名について『新篇相模国風土記稿』の村里部要事郡巻之四八菅村の項に「村ノ西ニアリ。山上ニ七社権現鎮座ス。……此山ハ。山中ノ修験等ガ指揮スル所ニシテ。……相伝フ日本武尊東征ノ時。此山ヲ望ミ形ヲ竜ニ似タリトテ。

もので、多くの登山者はそう信じている。

『甲斐国志』にはこの伝説はないが、同志の第五十四巻古跡類十六之下、郡留郡部内前ノ項に「サガゼノ古道……少シ平ナル地ヲ信玄屋敷ト云伝フ永原山小田原へ責人キ時信玄此道ヲ通行シ山中ニ宿陣アリシトナン……」また『新篇相模国風土記稿』の政新部分にも「……西方ノ甲州界ニ城ヶ尾ト云ヘルアリ。一ニ信玄屋敷トモ。信玄平トモ唱フ。」と記している。

いずれの地誌にも大越路の説明はなく、明治期以後の名称と推察することができ、ここに地名探索と古地誌の記録を説む楽しさを味わうことができる。同じ事例は『新篇武蔵風土記稿』にも記載のない在野近々の類振録の義経東下りの伝説があり、これと相違するものがあると考えることができ。

小仏峠について村甲部津久根巻之二には、武蔵と相模境にある小仏峠のことが記されている。「小仏峠、武州多摩郡上長房村ノ内、小仏宿ノ西隔ニアリ。武相二州境界ノ峠ナリ。甲州街道ノ一節……往昔ハ頂上ニ関アリシガ。是ヲ小仏関ト

呼ブ。或ハ富士関ト称ス。夫ヨリ少シク北ニ寄り。景信山ト唱テ。一区ノ地アリ。北條氏熊家宿。機地監物ガ警備セシ構ヘノ跡ナリト云。

この峠を越えるのは桜の咲く頃がよい。峠に近づく左手の浅い谷をへだてて雑木林の間に山桜を見る。かつて小仏峠に庚所があり富士見関と言われていたが、今は杉の林が繁っていて相模方面の眺望はない。

小仏峠から西に尾根伝いに進み、陣場山に登る。さらに和田峠を経て連行峠三関山に達する。風土記稿は三関山について「三関峠(正保元癸ノ改ニ三関岳ト書ス今ハ三関峠ト書ス三関岳ノ西道アリ)武相三関接境ノ峻嶺ナリ」と記してある。

山頂に至る途中に甘草水の湧き水がある。その由来について同巻中に「甘草水露山ノ東北湖十餘町ニアリ。景行天皇四十年日本武尊東夷征伐ノ時三関峠ニ軍ヲ懸ヒ給フニ山上ニ水ナク諸軍勢渴ニテヘズ爰ニ於テ尊鋒ヲ以テ岩頭ヲ撃テタマヘハ清泉忽湧出シ軍士ヲ養フニ足レリ尊大ニ喜ビ狹野尊ノ賜ナリトノタマヒ即泉ヲ甘草水ト名一づけたとあり。水場一帯は4月中旬には桜の花で満開となる。

蛇形山ト名ツケシトナリ。……又八菅山ト号スルハ大宝三年。七社権現精湖ノ時寄居アリテ。名ツケシト云。……」と記す。

このあたりには大山・塔ノ岳・仏果山・経ヶ岳・華厳山・辺室山・鏡ヶ岳など修験道に関連する名の山が多い。

丹沢山塊の前衛の山として、仏果山・華厳山があり、共に山中に座標石とか経石を埋めたなどの伝説が語られている。

それ等の山の中に、現在辺室山と呼ばれている山がある。この山の本来の山名は邊寶山(信無保守座)と呼ばれていたが、いつの時代にか邊寶山を写し間違えて、「寶」のくずし字が「室」に書き違えられ、現在はヘンムロ山と呼ぶようになっている。

また、この近くに物見峠がある。解説に「西方ニ在丹沢山御林見守ノ者通行ノ道ナリ。……峠ヨリ大住高坐ノ二那及鎌倉武州江崎武州多摩陸奥等ノ那中ヲ眺望ス」とあるが、現在は樹木が繁茂していて峠からの眺めはない。

山中に大越路という峠がある。その名の起こりは武田信玄の軍勢が小田原攻めの際、大の案内によったとの伝説による

また、和田峠への途中に陣場山がある。風土記稿に諏敷山にある陣場山と比定することができ。記述には「廣取山(山名の起音ナラズ)頂上ニ鐘撞堂跡ト唱ル所アリ村民伝へ脱ク永原天正ノ頃武田家ノ所領セシ時小山田左兵衛尉信茂命ヲ承テ不慮ノ警備ニ洪鐘ヲ是山ノ頂ニ懸テ合図ヲナセシ所ナリト云フ。

現在の陣場山山頂には白馬の大きな像があることから陣馬山と呼ばれている。(以下省略)

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)  
・中型 (28人乗り)  
・中2階 (45人乗り)  
・大型 (55人・60人)  
いずれもエアコンまでからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪府瑞池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06 (6745) 3911・FAX 06 (6745) 3993  
夜間・電話 06 (6242) 2371・FAX 06 (6242) 2372

秋風に吹かれながら

# 四阿山から根子岳へ

北信

妻鹿弘子

「秋風に吹かれながら四阿山へ登ろうか」と言うく、たちまち仲間が集まり、長野行きは夜行バスで出かけることになった。同行者は新ハイで活躍のメンバーたちである。

早朝長野駅前に着き、顔を洗うなど出発の準備をしていると、通りかかったバス運転手が「どこまで行くの？ 鳥居峠？ じゃあ、タクシーを交渉してあげよう」と、さっさと値引き交渉をしてくれた。タクシーも親切な運転手で世間話で盛り上がり、1時間はあっという間だった。濃いガスのなかを鳥居峠に降りると、十数台の車が駐まっているが人影はない。登山者の車だろうか、入山者は多そう

だ。

簡単な明食を済ませて歩きだすと、ガスが切れ、空はほとんど暗れてくる。朝日を受けてカラマツが黄金色に輝き、真っ青な中空に四阿山が秀麗な姿を見せる。いつ見ても「たおやかな」という言葉が浮かぶほどに優しい山容である。しかし、いくら美しい山を仰ぎ見ながらでも、2・5kmの林道歩きは長い。気温も思ったより高くじっとり汗ばんできた。森林作業の軽トラックが通り過ぎた時は、思わず羨しそうな目で見送ってしまった。

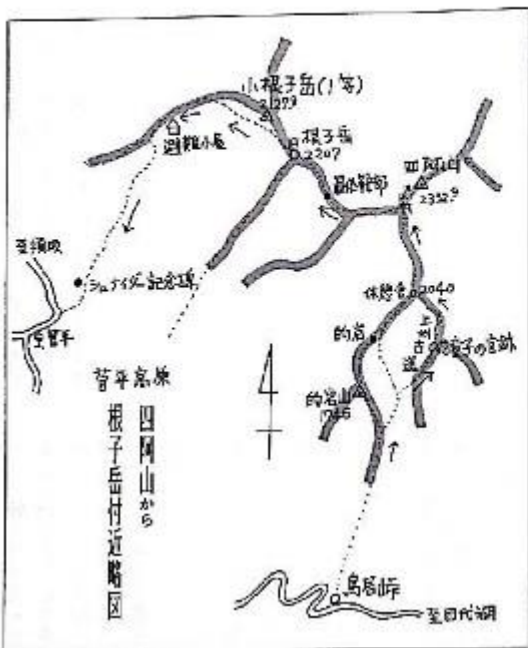
ようやく山道にかかる広場に着くと、入れ違いに先行者3人が出発していった。それっきり人の気配のない静かな道だ。

であったが、今も整然とした美しい林だ。

登り着いた尾根は賽の河原と呼ばれる小石のゴロゴロした広場である。眼前にそびえる巨大な浅間山の山頂はまだ雲の中だが、浅間隠山・鼻曲山・榛名山など上州(群馬県)の名山が一望でき、眼下はカラマツの黄葉に埋め尽くされた丘がはるか向こうまでうねっている。青空

にカンボクの紅い実が輝き、咲き残ったマツムシソウがゆく秋を惜しんでいる。あまりの美しさに立ち去り難く、登り始めたばかりなのに30分もコピータイムをとってしまった。

花童子の宮跡まではクナモミジのなかにシラカバ・カラマツ・コメツガなどの樹種がおもしろく、つい立ち止まって枝振りなどの品評会をしてしまう。いつ山



頂に着けるのかと心配になるが、今夜も夜行バスで帰るので時間はたっぷりあり、急ぐ気にもならない。突然足元から野ウサギが飛び出し、シラカバの下を走ってゆく。ホシガラスもやってくる。こんなに静かな白岩山であったのかと意外な気がした。10時に的岩と

根子岳とのコルから見る四阿山



た。カラマツの植林帯を少し登るとココロに太ったグレイの美しい毛並みの鼠? が慌てて落ち葉の下を逃げてゆく。カラマツ帯を抜けるとあたりはすっかり葉を落として明るくなったミズナラの林に変わる。梢で数枚の残葉が馬を浴びてかすかな風にゆれている。ここ1700m付近のミズナラは、かつては炭焼きに利用されていたという説明板が設置し

の合流点に到着した。鳥居峠に車を置いて的岩に登り、花童子コースをくだるのがポイントなようだが、その他にもルートは多い。近年復活された花童子コースは元々信仰の古道で、小さな石の祠がいくつも安置されている。花童子の宮跡は隠れらしき材木が朽ちて重なっていて寂れである。

2100mを超えたあたりから岩っばい道になり、山の雰囲気が変わってくる。岩を東に絡めば嬉しいの広い畑が眼下に広がり、西に絡めば菅平はすっぱりと雲海に隠れていた。

四阿山(2333m)山頂にはちょうど12時に着いた。すでに大勢の登山者が昼食をとって、場所探しに困るほどである。私たちは上州峠を過ぎ信州側の裏に廻った。静かな山だと思っていたが山頂はやはり百名山の賑いだった。360度の展望だが、この日は頭上だけ青空で四阿山のピークはガスのなかに出たり入ったりしている。水の塔山・竜の登山に並んで形を削ぎぬ薬料山がハッキリ見える。北アルプスも雲上に時々顔を出す。すぐ後ろの黒津白根山はガスの流れが早く一瞬の間に現れたり消えたりするので落ち

着かず、山頂同定は諦めた。よく晴れているが気温は8度。山は冬がそこまで来ている。寒くなってきたので昼食を切り上げ、根子岳に向かう。

中西阿山分岐は一面のガンコウランで何組かのパーティがここでも昼食をとっていた。根子岳へ向かう人は少なく、分岐を過ぎるとまた静寂の山に戻った。

薄暗い針葉樹林帯のくぐりには段差がきつくと、苦むした岩や木の根が滑りやすいため、思わぬ時間をくった。時折、樹間からササにおおわれた根子岳の急登が見え、胸突くかのように感じた。山頂直下の大きなガレが不気味に口を開け、ナイフリッジを境に信州須坂側から猛烈なガスが吹き上げている。その迫力にメンバーが「悪い」と言うのを「大丈夫、大丈夫」と強く受けながら、内心「手強そう」と少しひるんだ。

最低鞍部に13時30分着。ふり返れば針葉樹林と岩におおわれた四阿山のピークが見え、前方を見上げれば明るいササ原の根子岳への登りが続く。全く別世界のような二つの山のコルはゆったりとしたのびやかさで開放感に満ちていた。根子岳への登りは見かけほどきつくは

なく、頭上にドームのように突き出した大岩に簡単にたどり着いた。その上にもう一つ、さらに上にもう一つと、三つの岩場を過ぎるといよいよナイフリッジだが、これも難なく過ぎて14時15分に山頂に着いた。

広く静かな根子岳(3337m)山頂で4〜5人の登山者が思い思いの方向で休憩していた。河に参拝し方位盤を見るが、とても寒くて長居はできない。小根子岳に向かって早々に下山した。

道は小根子岳の下を巻いて行く。途中、ピークに向かう道が膝丈ぐらいのササを分けて細々と続いているが、寄り道するほどの元気もなく、黙々とササ原をくぐり進む。ここから見上げる根子岳は山と山より明る高嶺である。ササのなかに点在する緑のシラカバ、そして燃えるような白い幹のシラカバ、そして燃えるような赤は何だろう。青空にのびたスカイラインはあくまで優美である。

雲海に浮かぶ北アルプスを真正面に見ながら、雲の下に沈む菅草をめぐるとどんくさる。広大なササの斜面は行けども行けども全く変化がない。同じ景色同じ傾斜を1時間もくぐり、やっと避難

小屋に着いたが、まだ、こんな所かと改めてうんざりした。

雲海が目前に迫り、細かな霧が流る。どうとう雲のなかに入った。20歩程歩いてふり返れば、青空もスカイラインも嘘のように消え、グレーの闇に閉ざされている。20歩戻れば、まだあの明るい景色はあるのだろうか？ 騙されているような不思議な気分だ。

スキーシーズンに備えてこの一帯の設備点検をしているらしい人声が霧のなかから聞こえるが、濃いガスのため姿は見えない。リフトを何基も通り抜け広大なスネー樹の老の斜面を「パス停」と書かれた矢印方向へくぐると、やがてシュナイダー記念碑の大ケルンが見え、その下に灯をともし始めた街があった。

思い返せば、どこをとっても絵になる美しい一日だった。

(平成11年10月30日歩く)

#### ▲コースタイム▼

鳥居峠(4時間) 四阿山(1時間) 根子岳(3時間) 菅原高原

▲地形図▼  
2万5千Ⅱ四阿山 5万Ⅱ須坂・上山

## 南木曾の二つの山

# 兀岳・夏焼山

木曾地方には、かつて探検者の信仰の山の代表としての木曾三岳という表現がある。三岳というのは、南木曾の兀岳・南木曾岳のことである。御嶽は3000mに有名な山で、富士山や白山と並ぶほどに有名な日本を代表する山だ。木曾駒ヶ岳は中央アルプスの最高峰で、全国的にも知られ、有数の魅力を持つ山である。しかし南木曾岳はというと、山好きな人にも知られていないとまでは言えないだろう。標高も1600m程度、他の二山に比べて半分しかない。しかし、登ってみると信仰の山独特の雰囲気があり、サ原と大岩と大きな針葉樹林との組み合わせが魅力的な山である。そして、2万

## 松田敏男

### 中央アルプス

5千分の1の地形図にも他の二山と同様、その山の名前が地形図名となっている。それら三山と同じ扱いの山として、南木曾岳の南に兀岳という地形図がある。地形図名の付け方としては、少しぐらい名前が知れている山があっても、入里があればその地名が優先的に採用されているのだから、山の名前の地形図は本当に山ばかりと云える。そんな訳で兀岳という未知の山に対して、長年にわたって行きたい気持ちを持たせていた。

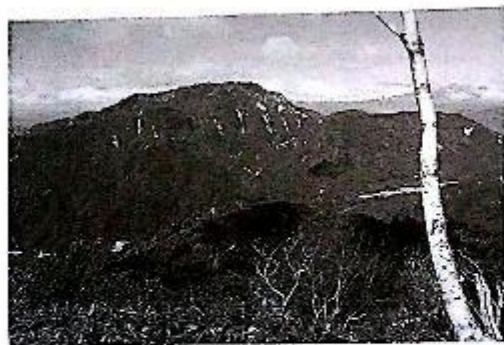
岳洋社のワンデルングガイドという山の紹介本シリーズに「木曾谷の山と街道」というのがあり、その中に兀岳の項を見つけて地形図を買った。地形図を広げて

夏焼山より兀岳を望む



みると、予想に反していくつかの集落があるではないか。そのような生活の地名をさしおいてまで山岳名を冠しているのだから、期待度が一気に高まった。また、本の兀岳の小見出しに「中央アルプス南部の竅山」とあり、紹介文の「ほとんど山登りの対象とされていない静かな山」という一文を読むに至り、行きたい気持ちをいっそう深めたのだ。大





夏焼山より南木曾岳を望む

に中央アルプス南側の山々、そして西北には御岳が望まれる」という山頂へ急いだ。秋晴れの絶好日和。遠望のきく午前7時。背丈のササが山頂直下で低くなつて大展望となることを思い描いて自然に早足となった。これだけしゃかりと切り開いてあるのだから、まっとすばらしい山頂なのだ……。

7時40分、頂上に着いた。東から北に

かけて雑木林が大きく育ち、高い山など何も見えなかった。雑木林のなかに分け入って疎かな林間を探したが無駄だった。早足で横移動して幹と幹の間から遠くの山を見透かそうとしたが、仙丈ヶ岳らしき形がおぼろげながら分かる程度だった。3人は坐る気もおこらず、大平峠に戻って、その北にある夏焼山へ転進しようとした。

同じガイドブックの夏焼山の項にも「山頂からの展望は素晴らしい」とある。これに賭けることにした。

40分後には車の前を通過し——時高さんだけは車の前に戻ること回避して、頭につきちり尾根上をたどって夏焼山に取っつこうとやまのなかに突っ込み、トンネルの上の丸いコンクリートの上を越えた(いわゆる穴をあけたトンネルではなく、トンネルの壁のマンタクリートが上越のみ露出しているのだ)——整備された登山道に入る。

こからはしっかりととした広葉樹林の明るい道だった。途中で仙丈ヶ岳がはっきりと見える地点があった。来てよかったと喜びが湧きあがり、自然に早足となった。美しい樹林帯のなかの尾根道が東に

のびている合流地点に出た。あとは西へ少し登るだけだった。

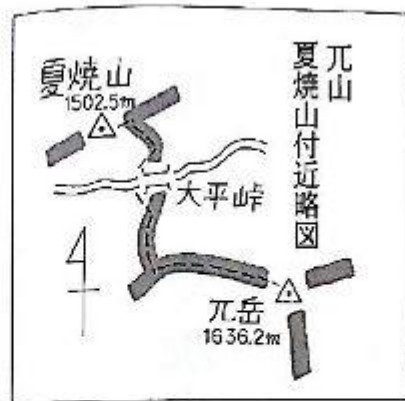
山頂には展望をさえぎる木が少なく、御岳と乗鞍岳がゆったりと線を引いて並んでいた。その左前には南木曾岳が大きくわだかまり、南方には志那山、ふり返れば逆光のなかに少しかすみがちに赤石房や聖岳などが遠望できた。いい所に来たものだ。兀岳がどでんと間近に鎮座しているのも、ほほえましかった。

私たちは早めの昼食にした。まずは韓国産マツタケを金朝にのせてゆっくり焼きたながらビールを飲んだ。大においしかった。液めども尽きない湧水のような恵びに浸った。

山頂でずいぶんゆっくりたつたりだったが、車の所に戻ったのはまだ11時20分だった。しかしそんな短さを感じさせない、ゆったりとした時間の流れを味わえる山行だった。

(平成11年10月17日歩く)

△コースタイム▽  
大平峠(1時間) 兀岳(40分) 大平峠(30分) 夏焼山(20分) 大平峠△  
△地形図▽2万5千1兀岳



平峠から距離にして近いが、やぶの濃さによって夜行日帰りの往復登山というのが精一杯かもしれない。そう思っただけで出た。

今回のメンバーは時高さんと高橋さんと私の3人だ。夜道を西(木曾)側から大平街道の九十九折りを登りきり、大平峠のトンネル手前の小さな広場に車を置いてテントを張った。

帳の標高は1350m。山深い匂いが一帯を包む。深まりゆく秋の夜の涼感に、きょうもまたいい所で夜を過ごせることに幸せを感じた。


朝まだ暗いうちから起きて、朝食の準備の合間に登山口を偵察すると、朽ちかけた「兀岳」の標識を発見した。何とトンネルの手前、西側に標識があるではないか。ガイドブックには「登山口さえもはつきりしない」という記述があつて、「トンネルの東側のかすかな踏石跡」を登って、「この踏石跡は奥に進むにつれてブッシュに吞みこまれて分からなくなってしまう」というふうになっているのだが、ずいぶん話が違つてきそうなる予感がした。

明るくなった6時40分に出発する。明確な登山道だった。はじめとした樹林のなかを通り過ぎると乾燥しきつたササの斜面の幅の広い切り開きに変わった。背丈程のササのなかで、一ヶ所だけ背伸びすると御岳が一瞬見える地点があつたが、それからはずっと何も見えない、大空とササだけの単調な道が続いた。本の記述のような「迷いやすい複雑な地形」のことなど考える必要はなかった。ササに付いたほこりが汗をかいた首筋にくっつくような道だった。一山頂は三角点の標石があるだけの簡素なものだが四圍の眺望は素晴らしい。東に南アルプス、北

## KOBEの登山専門店


### 風を背中を感じます

● スナックザック……汗対策のザックです。



- ウォーキングスナックタイプ  
ベンチレーションサポートパッドにより背中は常に快適。バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。新案マグネットを装備。アルミフレーム内蔵。  
日帰りから一泊山行に最適、かつぎ易さで定番のアタックタイプです。
- カラー：レッド×ブラック・ブルー×ブラック  
グリーン×ブラック
- 容量：28ℓ ● 重量：1,450g
- 素材：ナイロンUSコーデュロイ
- 価格：¥14,000→新ハイキング価格

—イモック山遊行くらぶ—  
春夏秋冬、シーズンに氣に  
せす登山・名山・名山を訪ね  
ます。詳細はお問い合わせ  
下さい。

  
**神戸ザック**  
 〒650-0027 神戸市東灘区大塚町9丁目1  
 TEL (078) 621-5851  
 FAX 621-3024

# 剣山と周辺の山々



生駒 聳峰

四国第一の高峰で「日本百名山」にも選ばれている剣山をめざす。剣山はすでに登ったことがあるので、今回はその周辺の山にも登る計画を立てる。

私の手元には『四国百山』（高知新聞社）という本がある。今の登山界は百名山ばかりだが、地方の山だけに限られた百名山は地元の人にとって、すぐに実行できず重宝する本である。

この本に採り上げられている山は、一般の人でも登れる山が主体だが、関西在住の私たちには未知の山が多い。しかし、内容を調べてみると、短時間で日帰りできる山ばかりで、楽しい山登りができようである。

山の中に、と思わせるくらい立派である。

(平成12年4月27日歩く)

△コースタイム▽駐車場から約90分

△地形図▽20万1剣山 5万1阿波富岡

雲早山 (1496m) 2等三角点

剣山から徳島市にのびる剣山山脈には数々の名峰がある。その山脈の稜線沿いの両面に、日本一長い剣山スーパー林道が走っている。平均標高1000m、1200mの山岳道路で、全長87.7km。展望はすばらしいが未舗装で普通車では少し走りづらい。

この林道沿いに雲早山・高城山・天神丸の三山が並んでいる。このスーパー林道の中間の土須峠には、国道193号線が横断していて、徳島方面からは192号線山川町経由で入れる。国道といっても、神山町から峠への登りは狭い急カーブの連続で、ほとんどと高度が上がらぬ。広がる展望はすばらしいの一部に尽きる。もっとも、ハンドルを握るのは緊張の連続であるが、なにしろ土須峠は剣山脈を横断する峠である。

土須峠の雲早トンネルを抜け、左折して剣山スーパー林道に入る。今までの舗

四国には2000mを超える高峰はないのだが、地区を見ると四国山脈を中心に山々が広がり、四国は山国ではないのかと認識を新たにさせられる。

今回の剣山はともかく、周辺の山々はこの「四国百山」の本を参考にしようとした。

中津峰山 (773m) 2等三角点

徳島市と勝浦町の境にあり、徳島市の森林公園になっている。八合目くらいまで林道が通じ、休憩舎やトイレ・キャンプ場・駐車場が整備され、遊歩道があちこちに通じている。山ではマイカーで来た人たちが、山菜

装道から砂利道に変わり、急に速度が落ちて不快走行となる。2つばかり走ると橋のたもとに登山口の標示が立っていた。手前に5、6台は駐車できる。このあたりのブナ林は未だに芽吹きもなく、冬枯れの様相だ。

道は沢沿いに登って行く。やがて沢を渡り、左の瀬川沢沿いに稜線をめざす。最後はササのなかを峠に登りつくと、正面に高丸山が大きくそびえる。この山にはあす登る予定だが、ここからの縦走も可能である。右に大岩を巻いて山頂に向かう。

山頂には狛犬を従えた三神社がまつられていた。雨乞いの神様らしく、山名も雲の流れを早くとの、雨を乞う願いがあろう。展望はすばらしく、高丸山にのびる長い尾根に踏み込みたい欲望にかられる。西にはこれも登る予定の高城山がそびえるが、なんと山頂近くに大きなレーダードームの姿が見え、少し落胆した。剣山らしい姿がはるかに望まれた。

下山後はそのままスーパー林道を東に走り、上勝町の月ヶ谷温泉にくだったが、よくもこんな山の上に長い長い林道を造っ

雲早山より高城山を望む



採りや食事を楽しんでた。

遊歩道をゆっくり歩いて30分足らず。山頂には天神神社が防壁のような石垣に囲まれて鎮座し、休憩舎や案内板が設置されている。穏やかな山頂である。登山道が四方にのび、途中の展望台では徳島市街や眉山、紀伊水道の海が望まれた。下山後は神山町に走り、神山温泉で汗を流す。村おこしの温泉はどこでもこんな

たものだと思った。

(平成12年4月28日歩く)

△コースタイム▽登山口から約1時間

△地形図▽20万1剣山 5万1雲早山

高丸山 (1439m) 3等三角点

昨夜は月ヶ谷温泉に泊まった。泊まったと言っても、温泉は汗を流すだけ、いつもの通り川原の駐車場の車内で寝た。高丸山は剣山土俵から南に派生した稜線上のピークで、登山口は上勝町の八重地トンネルの手前から入る。徳島では名の知られた山らしく、県道を走っていても所どころに標示があり、簡単に登山口に到着する。

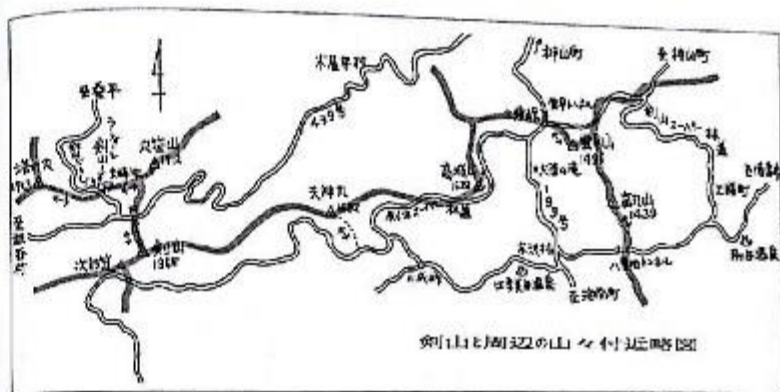
登山口には5、6台の駐車スペースとトイレがある。パイプからは絶えず清水が流れ出ていた。車は林道脇にいくつでも駐められる。始めは舗装された幅の広い道を登る。やがて舗装が切れ石仏の水場で二分する。直進する方には山小屋とあり、左は頂上とある。どちらからも登れるようだが左へ頂上をめざす。植林のなかの登りはすぐ峠になり、ここから本格的な登山道となる。ササの灌木帯にジグザグの歩みや



高丸山より、右登早山・左高城山

**天神丸** (1632m) 2等三角点  
 スーパー林道をさらに西に走り天神丸の登山口に到着する。立派な道標と整備された道のびていた。きょうは登山口の籠居だけのつもりだったが、ガイドでは40分とあり、道も良さそうだが、何とか明るうちに下山できそうなので登ることにする。

登りかけると年配の夫婦がおりに来て



剣山と周辺の山々付近略図

「今から登るのですか」とびっくりしていた。当方も、いくら短時間で登れる山ばかりとは言え、一日三山の神登山と思わなくもなかったが、何しろスーパー林道の悪路は二度と走りたくない。天神丸は戦国時代に見張り所であった山で、その中でも一番高い所で二天の陣の城から眺めたと語り山腹に出る。ササのなかの濡れ沢沿いまで登り山腹に出る。ここも木々は眠ったままだが、雪解けの草原にはコバケイソウが青々と葉を持ち上げていた。距離は1.5km、30分程で山頂に到着する。頂には「木屋平の展望」と案内板が立っていたが、植野は狭い。地上には夕陽が落ちていた。  
 川成峠から舗装の林道を大沢村にくだる。舗装路に入ってひと息つけた。まよるはその名も美しい「四季美谷温泉」泊とする。「四季美谷」とは美しい名だが、実情は仏花の「シキミ」の木が多い所からの当て字だそうで、意味はだいぶ違うようである。それにしても、登山後の入浴は疲労を回復させてくれる。  
 (平成12年4月29日歩く)  
 △コースタイム 登山口から約30分  
 △地形図 20万 1 剣山 5万 1 登早山

**塔の丸** (1713m) 3等三角点  
 またまた国道193号線に戻り土須峠に登る。狭い曲がりくねった道だが、舗装路は快適である。昨日入ったスーパー林道の入口を過ぎ、一昨日通った東の分岐を見送ってトンネルを抜ける。スーパー林道を右に左に迂回する。やがて神山町にくだると、今度は438号線を剣山に向かっている。野を越え山を越え、と言いたいところだが、山を越え山を越え、で木屋平村を走る。行く手には剣山が大きな山容を現し、山頂の山小屋がくっきりと見える。ジグザグに高度を上げトンネルを抜けると、見の越のリフト駅前に到着した。マイカーやマイクロボスが20台ばかり。教習のみやげもの屋と食堂があり、剣山神社も休日とあって賑わっている。もう正午近いので剣山登山はあすにし、午後は塔の丸をめざす。少し進ませて夫婦の登山口に車を駐める。  
 林のなかをゆるやかに登って行く。やがて林を抜けると一面ササの原となり、二つばかりのピークの先に山頂が円く盛り上がりが見えた。ササ原の縦走路は展望も良く快適そのものだ。左には剣山か

ずい道が付けられていた。  
 この山頂の展望もすばらしく、きのう登った登早山が正面に見え、剣山山脈が長々と延び、高城山・天神丸、はるかには剣山までが望まれる。山腹をぬうスーパー林道が山を割っていて素晴らしい。山頂には石神と石仏と等三角点。東にも下山道がのびていた。昨日登った登早山を眺め、昨日眺めた高丸山に登った。感無量、登山の醍醐味を十分に楽しんだ。  
 下山にかかると、徳島市あたりから来た人たちが次々と登ってくる。折から大聖連体に入ったこともあるが、地元ではけっこう人気のある山らしい。  
 (平成12年4月29日歩く)  
 △コースタイム 登山口から約1時間  
 △地形図 20万 1 剣山 5万 1 登早山  
**高城山** (1632m) 2等三角点  
 八重地トンネルを抜け国道193号線に入る。今度は南から土須峠に登ることになる。  
 大峠と大釜の二つの名滝を眺め、峠の手前から西にスーパー林道に取りつく。相変わらずがたがたの砂利道で、速くは走れずハンドルを持つのもうんざりする。

やがてファガスの森・高城キャンプ場に到着する。こんな山の中なのに食堂が営業している。あまり早くはなかったがカレーライスで昼食する。カッパラーメンよりはまあよしとしよう。休日でバイクの若者がたくさん入っていた。  
 高城山はここからも登れるが、少し先の林道口のほうが距離が短い。山の管理小屋の前に標示があり、マイカーが1台駐まっていた。  
 彼線の道は北側が急峻に落ち込み、南下からはバイクの騒音が響いてくる。小さいピークを乗り越え、リーダードームと頂上が見えた。最後はかなりの急斜面で急が切れた。  
 頂上の展望はまずまずで、はるかに剣山も望まれたが、それより何より隣のピークの巨大なドームが気になった。  
 下山後、西に走って高城山の西側に回り込むと、ドームの下に出た。林道からドームまで巨大なレベルが急斜面を走っていて、静寂な山の均衡を破っていた。こここの登山道からは距離も短く簡単に登れそうだ。(平成12年4月29日歩く)  
 △コースタイム 登山口から50分  
 △地形図 20万 1 剣山 5万 1 剣山



丸平山から剣山を望む

奥がきれいな山が連なり、沢筋にはまだ少し残雪が見え、剣山山頂の小屋もはっきりと望まれた。  
 急な登りもなく、口笛を吹きながらでも登れる典型的なハイキング道である。  
 山頂に登り着いた頃から天候が悪化し、真っ黒な雲が押し寄せてきた。予報では夕方から雨のことだったが、山の天気は変化が速いようだ。急いで下山にかかる。ササの小道も天気が悪くては楽しんでもおれず、小走りにくくなって車に逃げ込んだ。途端に本降りになり、何とか雨具を使用せずにすんだ。天候さえ良ければすばらしい山である。

(平成12年4月30日歩く)

△コースタイム▽

登山口から約1時間30分

△地形図▽20万1剣山 5万1剣山

夫婦池の国民宿舎は新しく建て替えられ、ホテル「ラ・フォーレ剣山」となった。日帰り入浴可能である。

雨の午後、時間つぶしにホテル裏の林業資料館を覗く。大した展示物もなく、管理のお姉さんが退屈そうにひとりですーとに当たっていた。ツキノワグマの

跡があったので訊ねたら、高知県の境あたりで少しはいるらしいとのこと。「雨の時の車泊まりなら、見の越のリフトのりばの鉄骨パーキング場の屋根下がよいでしょう。」と教えてくれた。  
 午後の4時半にリフトが止まると、もう人影も登山客の車もない。みやげもの屋も店を閉め、1〜2軒の民宿の明りだけとなる。山は雨と霧に包まれ、静かな夜を過ごした。

剣山(1955m) 一等三角点

5月1日、昨夜の雨も上がり青空が覗いている。夜明けと共に次々と車がやってくる。登り始める人、朝食の準備を始める人で、周辺がにわかに賑やかになる。私には三度目の剣山であり、妻も同行しているのでリフトでゆっくりに登るつもりであった。しかし、9時から運行までとも待ちきれない。地図を広げるとリフト上駅まで50分とあり、今からならリフトの動く時にはすでに山頂に到着できる時間である。登りかけるとばらばらと下山してくる人がある。小屋宿の人たちが「来光を見てください下山してきたのだから。」

の幸運であった。

本日の山開きをめざしてか、京阪神からも何台もの「剣山と石鏡山登山」と記されたツアーバスが来ていた。百名山の人気はあいかわらずである。

(平成12年5月1日歩く)

△コースタイム▽

見の越(50分)リフト上駅(40分)山頂(リフト利用は片道約15分、往復1800円)

△地形図▽20万1剣山 5万1剣山

丸笹山(1713m) 3等三角点

午後、丸笹山に向かう。丸笹山は夫婦池のホテル前に登山口があり、遊歩道のような登山道を登る。塔の丸と同じようなササの山頂で、目の前には剣山がおおいかぶさる。剣の山頂を歩く登山客の姿も見える近きである。低いササの上に軽装がって、白い空、黒い山を存分に楽しむ。本当に山はお天気次第で、きのうの雨の塔の丸とは全く違った風情を見せてくれた。

下山してホテル「ラ・フォーレ剣山」で汗を流す。湯上がりにペランダで景色を楽しみながら缶ビールを傾ける。最上

リフト上駅で神社縁白の道と分かれ尾根の道を登る。きのう走った木屋平から車道が急峻な山腹をぬけているのが見下るせた。

山小屋の前を抜け山頂に向かう。山頂広場は本道のびテラスのようになっていた。円形の石垣に囲まれた1等三角点を確認し、テラスでひと休みする。大きく展望が広がる。北にきのう登った塔の丸や丸笹山を見下ろし、西には緩やかなに次郎坂(太郎坂は剣山)が盛り上がる。その先は三郎や白髪山。はるかに石鏡山奥が望まれる。

リフトも動き出して次々と登山者が登ってくる。山頂の一隅には大きな山小屋や無人の測候所があり、2000以上の山頂にしては人間臭いが、このスケールの大きい展望は、やはり登山者のみが味わえるたまものである。

下山は大剣神社にくだる。神社裏にそそり立つ大岩は剣のようにも見えて、この形から剣山の名が付いたとも言われている。目陰にはまだ残雪がある。四国というと、山の標高も低く雨の感じをいだが、冬山はけっこう雪も深い。見の越に降り立つと、剣神社の前に御

のひとつきであった。

陽も傾いてリフトが止まると、人影は消えて静寂が深ってくる。今夜は天気も良いので駐車場の屋上に車を駐め、屋外でゆっくりと夕食を楽しむ。広大な景色を眺めながらの晚餐は、お金に換算できない贅沢である。

(平成12年5月1日歩く)

△コースタイム▽登山口から約1時間

△地形図▽20万1剣山 5万1剣山

翌日剣山に別れを告げ須谷山村にくだる。観光名所のかずら橋や大歩危・小歩危を見て池田に出ると、後は雲辺寺山(903m)、2等三角点、大川山(1014m)、2等三角点、大藤山(616m)、2等三角点、大平山(479m)、2等三角点)をめぐらした。

これらの山も「四国百名山」に採り上げられていてすばらしい山だが、いずれも山頂近くまで車道があり、登山としての興味に欠けるので記述は控える。

丹沢大山国定公園・丹沢主脈縦走

塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳

日野節雄

丹沢

丹沢主脈縦走路



望するはずだが、きょうは隣の大山は見えてもその下は見えない。

赤土の滑りやすい道をくだり、次は三ノ塔だ。三角点は欠けていて何等か不明。立派な休憩舎があり、避難小屋としても使えるが扉がない。北端から左へ1300ほどくだり、登り返すと烏尾山である。食事をしていたら寒くなった。少し行く之行着の岩路で、ステンレス製のクサリのある岩場が二ヶ所ある。慎重におりよう。この先左に戻るような形で政次郎屋根があるので、エスカープルートとして覚えておきたい。急だが道はよい。急斜面を登りきると新大目、小屋で小さい手形のミミズクを売っている。次の木ノ又大目の小屋はコーヒーがおいしいので評判だ。ここからもうひと踏ん張りで塔ノ岳に登く。

神奈川県に位置する丹沢山は、一等三角点のある狭義の丹沢山と、広義には道志山塊も含めた丹沢全体を指すのがある。深田久弥のいう百名山・丹沢山は「1673」とあるように、最高峰の蛭ヶ岳を含まなければならない。

このころ主脈縦走とは、塔ノ岳(昔は塔ヶ岳)→丹沢山→蛭ヶ岳→御次→焼山を指し、他に、蛭ヶ岳から西に折れ、檜河丸→大室山(大神山)→蘆釣山→三國山への長大な主脈縦走がある。また山仲間には主脈より東を東丹沢、西側を西丹沢と呼んでいる。他に南側を表丹沢、北側を裏丹沢とか道志の山という。丹沢はその名の通り、夏は沢登りでにぎわう山でも

塔ノ岳(1481m)は人の多いこと丹沢一で、五方向から登って来る。きょうは残念ながら展望は良くない。

昭和15年に横浜山岳会が建てたという尊仏小屋に私は泊まったことがなかった。今は尊仏山荘として建て替わっていて、今回初めて泊まる。

山頂には日時計があり、三角点は広場を改修する際に捨ててしまったと聞く。水場は急下降で7分位の所に湧き水がある。山荘では購入できない。夜中に目が覚めたので外に出たら、星

は少しだったが、下界は東京から小田原まで光の帯だった。

朝食は5時半からで早い者勝ち。昨夜関西からバスで来たという、43名の団体は隣の小屋(山荘に隣接)に泊まり、朝食なしで出発してくれたので助かった。尊仏山荘は部屋・寝具・料理・接客すべてによかった。

山荘の裏手から北にのびるブナ林の尾根を行く。今回歩いてみて、蛭ヶ岳までは道が非常に良くなっていて、赤土だから雨の時は困るし、冬は霜柱が20センチ

もなり、それが溶けるのでよく滑る。ブナは40年前頃は、直径50センチ以上がずっと続いていたが、現在はその面影もなくさびしい限りだ。

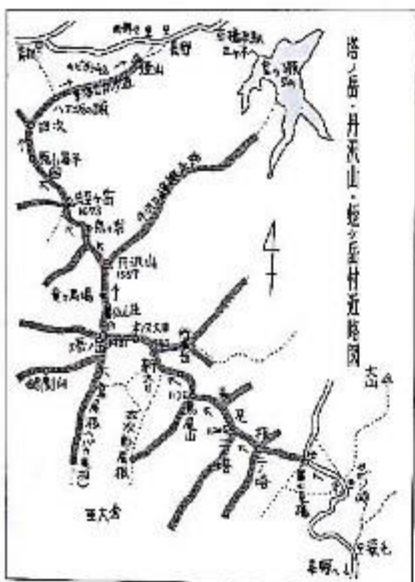
丹沢山と蛭ヶ岳が行く手に見え、富士山が美しく、まさに「秀麗の富士」で、だれでも写真を撮りたくなる。小高い竜ヶ馬場での休みす

る。丹沢山(1587m)に登り着くと一等三角点があり、右折した右側にみやま山荘がある。

そのまま直進する北東への道は丹沢三峰方面で、主脈縦走は山荘と反対の左側へくだる。この峠が蓋ちそうな急坂は階段に変わって歩きやすくなっていた。くだりきると風の通り道だろ、流れる霧にすぐ包まれる。

登りになるとササ原で、まるで関西の大合ヶ原にある背の低いミヤコザナのようなのが道を隠し、樹相もよくてこの山行一番の接線歩歩といった所だ。表尾根の背の高いササと比べ樹相が違ふ。休憩舎が左にある。小巻後樹林に入る。鬼ヶ岩の岩場となるが、暗雪期でなければ、ステンレスのクサリにつかまらなくてもよいほどにくだりやすくなった。しばしば行ってひと登りで丹沢山塊最高峰の蛭ヶ岳(1673m)の山頂に着いた。

大きな山荘があり、自動販売機も置かれ、冷えたビールが飲めるのは驚いた。連れから一口もらい、山頂のビールの一口がこれ程おいしいとは知らなかった。後をひきそう。赤土道には石が置かれて庭園風になっていた。正面に富士山が



# 紅葉の秋山へ出かけよう!

## 一足早い北海道の紅葉

北海道の雄雄 大雪山縦走と愛山渓  
日本一年くて美しい紅葉が見る大雪山へ!  
◆期日 9月15日(金)祝～18日(日)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥129,000

道東の3名山 羅臼岳・斜里岳・雄阿寒岳  
歴史ある3年紅葉の神祭。道東の百名山三座へ参ります  
◆期日 9月22日(金)～25日(日)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥152,000

フェリーで行く 羊蹄山とニセコアンヌプリ  
往時をフリーで、温泉を旅行機で移動します。格別な北海道へ  
◆期日 9月22日(金)～25日(日)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥59,800.1

らくらくプラン 日高山脈 幌尻岳  
山の風情の共同登山部とは登山スタッフが運びます。  
◆出発日 9/14(水)～17日(日)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥218,000

## ブナが美しい東北の紅葉

白神岳・岩木山・八甲田山  
みずの(の)紅葉登山! 自治体の温泉も楽しみます。  
◆出発日 ①10月2日(火) ②10月5日(木)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥112,000

安達太良山・磐梯山・吾妻山  
東北の百名山紅葉登山! 自治体の温泉も楽しみます。  
◆期日 9月22日(金)～25日(日)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥152,000

東北最高峰 尾瀬 至仏山と燧ヶ岳  
東北最高峰の燧ヶ岳と至仏山。専ら紅葉の楽しみます。  
◆出発日 ①10月2日(火) ②10月5日(木)【3泊4日】  
◆旅行代金 ¥112,000

## ベストシーズン! ネパルトレッキング

ロッジ泊で歩く ヒマラヤ大展望  
ブーンヒルトレッキング 9日間  
◆出発日 11/5(日) ◆旅行代金 ¥282,000

憧れのエベレストビューホテル  
エベレスト展望トレッキング 9日間  
◆出発日 11/5(日) ◆旅行代金 ¥338,000

お問い合わせ・お申し込みは・・・ 運輸大臣登録旅行業1366号 (社)日本旅行業協会 ホンド保証会員  
**アムューストラベル(株)** ☎06-6456-3366  
〒530-0011 大阪府大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7F FAX 06-6456-3377

## 紅葉の美しい山々へ!

日本第3位の高峰 奥穂高岳と瀧沢カール  
◆出発日 9/21(木)【3泊4日】 ◆旅行代金 ¥72,000  
朝岳を仰ぎ見る 仙人池～樺平と宇奈月温泉  
◆出発日 9/28(木)【4泊5日】 ◆旅行代金 ¥99,000

雄・穂高連峰の展望 燕岳～常念岳縦走  
◆出発日 9/28(木)【3泊4日】 ◆旅行代金 ¥68,000  
瀧沢カールと屏風の頭パノラマコース  
◆出発日 10/1(日)【3泊4日】 ◆旅行代金 ¥76,000

紅葉の展望コース 南ハッ岳縦走  
◆出発日 10/7(土)【2泊3日】 ◆旅行代金 ¥55,000  
変化に富んだ山旅 鳳凰山縦走  
◆出発日 10/8(日)【3泊4日】 ◆旅行代金 ¥59,000

日光白根山・男林山・草海山  
◆出発日 10/9(月)祝【3泊4日】 ◆旅行代金 ¥63,000  
夜行日帰りで行く 浅間山と高峰山  
◆出発日 10/14(土)【夜行日帰り】 ◆旅行代金 ¥18,800

アルプスの展望台 夢科山と霧ヶ峰  
◆出発日 10/14(土)【1泊2日】 ◆旅行代金 ¥59,000  
長秋父の名峰 甲武信岳・金峰山・瑞穂山  
◆出発日 10/18(水)【3泊4日】 ◆旅行代金 ¥73,000

近畿の巨根を歩く 大峰山縦走  
◆出発日 10/20(金)【2泊3日】 ◆旅行代金 ¥48,000  
日本有数の峡谷 黒部峡谷「下ノ原下」  
◆出発日 10/22(日)【2泊3日】 ◆旅行代金 ¥72,000

峡谷の紅葉 大台ヶ原～大杉谷縦走  
◆出発日 11/3(2泊3日) ◆旅行代金 ¥43,000  
紅葉と富士山の展望 丹沢山縦走  
◆出発日 11/10(土)【2泊3日】 ◆旅行代金 ¥55,000

初心者のためのヒマラヤハイキング  
ロイヤルトレッキング 9日間  
◆出発日 11/5(日) ◆旅行代金 ¥378,000

世界で最も美しい谷  
ランタン谷 ヘルトレッキング9日間  
◆出発日 11/9(日) ◆旅行代金 ¥348,000

世界最高峰の展望台  
カラパタールトレッキング 18日間  
◆出発日 10/22(日) ◆旅行代金 ¥418,000

見え、右の南アルプスは氷河から甲斐駒ヶ岳まで固定できる。八ヶ岳から金峰山まで、奥秩父・奥武蔵と連なる山々。左は奥秩父山、離れて穂積の神山だ。ことに丹沢全山が見えるほどなので、丹沢の山と谷をゆっくりに味わう。なお、丹沢はその名の通り行近一帯にヒルがいるので、夏季は注意が必要だ。

2名の団体は、先に行ったグループと、私たちが追い越したグループに寸断されていたが、どのようなグループなのだろうか。天気が良いからいいものの気にかかると、ここから長月バスまでは遠い。昭文社の地図「丹沢」の歩行タイムは、なぜかいつもまじつと感ずる。したがって、ビールを飲んでゆっくりに歩いてはいい。

山荘の裏の急な階段道をくだる。腰が痛む。階段が少ないので、階段がなくなった後は踏み跡に注意する。登降が少なくなり、原小屋平に着く。右に水場があるらしい。登りにかかると、炬燵が見え、おもわず「やっつ」と笑みがこぼれる。西には大きく大室山が見える。

が鋭く。途中八丁坂の頭で左に背を向ける。道が分岐する。右下に遊楽小屋を見て、遊楽山を左に見上げて登山へ急ぐ。ここがいちばん時間のかせげの所だ。時折折手に丹沢三峰が見え、駒ヶ岳・丹沢山も顔を出す。杉木立ちが大きく、眺めはよくない。

登山は腰の塔のある等三角点の山。三角点は西の草原に埋没している。登ると近年完成した人造湖沼「湖沼」が見える。

急下りの階段がしばらくあり、その後も標高差750mをくだらなくてはならない。だから膝にこける。

長野集落は道路脇に湧き水が引かれ、バス停前に酒屋があるのがうれしい。西野々バス停はトイレに此があり、雨の時などお替えができる。再バス停間は歩いて10分とかわらない。

1時間に一本程度のバスは、一度三ヶ木で乗り換えなければならぬ。私たちがJR中央線の相模湖駅に出た。

(平成11年10月9日～10日歩)

▲登りタイム▼

(一日目) 小田急東野駅・18(バス)

ヤビツ峠 9・04	15	富士見山荘 9・40
13ノ峠 11・05	15	山見山 11・50
20ノ新大目 13・40	50	木ノ又小原 14・05
30ノ塔ノ岳 15・00	(道)	
(二日目) 塔ノ岳 9・20	丹沢山 7・30	
40ノ塔ノ岳 9・40	10	5ノ塔ノ岳 11・40
40ノ12・20ノ塔ノ岳 13・45	55	西野々 15・40
30ノ長野 15・40	16	19(バス) 三ヶ木 16・40
40ノ17・00(バス) JR相模湖駅 16・40	17	54(電車) 高尾駅 18・05
17		
(電通) 東武駅 19・14		

▲費用▼

東野ヒヤビツ峠(バス)	460円	
長野ヒヤビツ峠(バス)	320円	
三ヶ木ヒヤビツ峠(バス)	290円	
相模湖駅ヒヤビツ峠(バス)	1100円	
丹沢山荘(1泊2食付)	5500円	
△地形図▽		
2万5千円 大室・奥野・青野原		
△問い合わせ先▼		
丹沢山荘	0463(88)	11113
みやま山荘	0463(88)	21144
姫ヶ岳山荘	0426(87)	40011
神奈川中央交通(株) バス・タクシー		
秦野営業所	0453(81)	18003
津久井営業所	0427(84)	06661

『万葉集』歌枕紀行

藤白峠と拝ノ峠

北紀

木村 太郎

名高の浦から藤白峠

今年2月産経新聞に、明日香酒船石遺跡の近くに、謎の地盤石遺物をはじめ、巨大な石の祭祀場跡が発掘されたという記事が載った。その昔に「狂心の浪」や「石の山丘」などの途方もない大工事をとり行い、人々の誇りをうけたという斉明天皇関連の遺跡らしいと報じられていた。

『日本書紀』斉明紀四年の条の伝えるに、多くの工事で民を疲弊させた斉明天皇の失敗を改めるべしと、先帝孝德天皇の遺児有馬皇子を敬愛した者がいたという。中大兄皇子に迎合した蘇我赤兄の臣にはまり、謀反の疑いで有馬皇子は齊

明天皇の行幸していた紀の湯へと進行された。

家であれば箱に盛る飯を草枕に盛る

旅にしあれば箱の焚に燃る

屋敷にいれば温かい食膳につけるものを、草に寝起きする旅地では木の薪に盛られた冷めた食事をとるしかない。無事に都へ帰還できるよう、岩代の松の枝に結んだ頼もしい空しく、藤白のみ坂で有馬皇子は十九歳の若き生涯で果ててしまわれた。

その有馬皇子の終焉の地、藤白坂の道を訪ねるために、JRきのくに線で和歌山へと向かう。海南駅で降り立つと、広

藤白神社の大楠と鳥居



場に建てられた大養孝神社の万葉歌碑と再会できた。以前に来た時はこの歌碑が建てられてすぐの、「世界リゾート博」が終わった翌年だった。思い出の紀北路を歩いて、なつかしい万葉集の風景に触れてみたかったのである。

紫の名高の浦のなびき波の心は妹に寄りしものを

(巻十一「二七八」)

藤白をかきたてる名高という、万葉地名が残る海南駅前の道筋を真南に歩く。藤白の峯を前方に見て、山田川に架かる浜橋を渡って進む。日陰下のバス停を過ぎた辻を左にとり紀勢本線の高架をくぐり、街道と熊野古道が交わる三叉路に出合う。この地は昔熊野詣での道沿いにまつられていた王子刺の一つ、藤白王子刺である。

熊野山の一の鳥居をくぐると身を痛めることができたので、葦原の王子名がついたという、古い道跡碑が建つ場所から折れる。通りにはいくつもの熊野古道と

書かれた提灯が吊られていた。去年開かれた「南紀熊野体験博」に合わせて民家の軒先に飾られたものらしい。気分を引き締めて通りを通過し、奉納相模の土俵のある「万葉の丘」を右手に見て、皇社藤白神社の大鳥居をくぐる。

神社は九十九王子を敬える熊野参詣道のなかで、別格の五昧王子の一つに列せられている。境内には上皇御歌の熊野懐紙を納める歌塚の史跡があり、院政時代の華やかな歌会を偲ぶこともできる。観音堂の裏に朱塗りの鳥居があり、有馬皇子神社が鎮座し、かたわらには万葉歌碑

が建つ。皇子の悲話を思い出し、袖を涙で濡らしたという読み人知らずの歌が刻まれている。

藤白のみ坂を越ゆと白たへの我が衣手は濡れにけるかも(巻九「六七五」) 神社を出てゆるやかな坂を歩いて



藤白峠・手ノ峠の古地図

いくと、名高の浦にかかる「むらさき」といって、万葉集の歌詞になった紫川の細い流れに出合う。紫川から西側に少し歩いた藤白坂の登り口あたりが、有馬皇子埋地と伝えられている。土地の古老が「裕の地蔵さん」と呼び、椿の木が繁り生け垣にかかれた一隅には、小石仏に見守られた有馬皇子の墓がある。

表の道には一丁堀が置かれてあり、道の辺に名知らぬ草花を見て気持ちなごむ。そして藤白王子刺の跡のある地蔵峠寺へいざなう急勾配の山道に取りついた。神幸の王子を敬愛しながら坂道を登っていくと、八丁地蔵あたりで視界が開け、南海の青い景色が目に見えこんできた。古に妹と我が見しめばたまの黒牛淵を見ればさぶしも

(巻九「一七九八」)

歌に詠まれた千海は今や埋め立てられて臨海工業地帯になったが、この海の景色こそ神本人麻呂が旅の途中で妻と眠めたという「黒牛の海」であった。藤白坂から見た往時の入江には、潮が引くと千海のかなかに牛さくりの黒い岩が見えた。「黒牛の石の入江」が黒江の地名の由来という。



拝ノ峰近くの万葉歌碑

海の見える水辺道にミカンの無人販売所があり、行く手には清楚なシヤガの花が群生する山道が続く。雑の空で藤原定家が「明月記」に「道能見にして殆く恐れあり」と記した急坂が続く。葦拾松を後にして九十九折りの坂を登りつめると、戸数わずかな小集落が点在している。藤白峰にたどり着いた。

御所の芝から拝ノ峰

地蔵峠寺の裏手には、紀伊水道を見渡せる「御所の芝」と呼ばれる展望所がある。

載る。その作者は不詳とされているが、有馬皇子とその妃による相聞歌だとする見方もある。

妹がため我涙浴ふ神辺なる

白玉寄せ来沖つ白波

(巻九「一六六五」)

朝霧に濡れにし衣干さずして

一人か君が山路越ゆるむ

(巻九「一六六六」)

有馬皇子は都で待つ妻のために、綺麗な日笠を捨て持ち帰りたいと切望している。妃は辛い旅に出た皇子の衣服が、雨風に濡れて身体を壊されないかと案じている。

この二首の歌から、若き恋人たちの切ない思いが聞こえてくる。有馬皇子と妃の非運に同情を寄せ、その後の歌人たちは挽歌を詠んだ。

魂なすあり通ひつつ見らぬども

人こそ知らね松は知るらむ

(巻九「一四四五」)

鳥になって大空を飛翔している皇子の御姿を、山上憶良は見たと詠んでいる。だれの目にも見えていないが、木の国の松はそのことを知っているという。

拝ノ峰を後に、蕨坂王子跡と山口王

る。齊明天皇が「日本書紀」に「山越えて海渡るとおももろしき半城の中は忘れゆましじ」と、詠んだ大海嶺が果てしない広がりを見せている。

中大兄皇子の愛妃建王が幼き八歳で亡くなった後、齊明天皇は病がちゆえに慈しんだ孫を亡くした悲しみを癒すために、白浜への旅に発たれた。行幸の一行はこの時、有馬皇子のいまわしい事件が起ることを知るよしもなかった。縁地でのなくさみに、齊明天皇は額田王に歌を詠むよう御命じになった。

紀の國の山越えてゆけ我が背子が  
い立たせりけむ巖嶺が本

(賀茂島瀧洞みによる巻「一九」)

いまだに定調のない雅解な額田王の歌である。紀の國(木の國ともいう)の象徴のように、海風にあらがいがまっすくに空へのびた樅の木の下で、額田王は恋人大海人皇子の面影を思い描いた。一方齊明天皇はその額田王が詠んだ歌に、建王が生き長らえて王者となり、樹に包まれて立つまぼろしを見ていたと想像される。

御所の芝から海側にのびる雑木林の尾根道を南西へたどると岩峠寺。峰へ戻る途中の分岐に出て、ミカン畑をぬうよう

子跡のあった古い道を一目散にくだる。見えてきた糸我の峯に向かって歩いて行く。霧谷川を越え伏魔の塚を見て道ると、本居直長歌碑の建つ旅の拠点「くまの古道ふれあい広場」にたどり着いた。

ふれあい広場から、熊野への古道は有田川や糸我峠を極え、さらには中辺路へ大辺路へと続いていく。だがきょうの行程を終えた私は、熊野路をあとにしてわが家に戻るべく、「JR紀伊宮原駅をめざした。」

(平成12年5月5日歩く)

- ▲コースタイム▼
- JR海南駅(30分) 藤白神社(5分) 有馬皇子墓(30分) 葦拾松(20分) 藤白峰地蔵峠寺(10分) 藤白山岩峠寺(30分) 岩屋山福勝寺(35分) 山路王子神社(50分) 拝ノ峰(15分) 蕨坂王子跡(30分) 山口王子跡(20分) くまの古道ふれあい広場(10分) JR紀伊宮原駅
  - ▲地形図▼2万5千 海南・湯浅
  - ▲問い合わせ先▼
  - 海南市役所 0734(22) 4111
  - 下津町役場 0734(22) 1212

にくだると福勝寺。今年は冬が遅れて来たのでミカンの花はまだ咲いていない。坂をくだると橋本の地を流れる加茂川に、新しい木橋が渡されていた。また橋名もないが、木の香のする橋を気持ちよく渡った。

加茂谷の集落に入ると、そばを流れる市坪川の浅瀬で小魚を追い廻している子どもたちがいた。都会の川ほどには汚れていないように見えた。秋祭りの「遊き相撲」で知られる山路王子神社では、端午の節句のこの日に春祭りがあるらしく、餅まき神事の餅が溢れていた。坂の急な地形から岩掛と名が付いた集落にさしかかる。急坂を登りきると、拝ノ峰であった。

足代へ行く小為手の山の真木の葉も  
久しく見れば若生しにけり

(巻七「二二四」)

峠を足代(向原郡、いまの有田市)へ向かう所で万葉歌碑を見る。確証はないが、小為手の山ともされる白倉山の山腹を掘くように行くと、眼下に下津港の海が広がる。

「万葉集」巻九に齊明天皇を指す「天皇の紀伊國に幸でましし時の歌」一首が

山の本紹介

上田伸弘著

「大和の三角點を尋ねて」(上・下巻)

奈良県下の1等から3等までの三角點396点の全てを調査した記録の集大成。11年間にわたって尋ね歩いたもので、「奈良新聞」にも連載された。地図・写真付きで山の資料にもなる。

●判型 各B5判416頁

●発行 嶽本よお堂

〒540100026

大阪市中央区内本町1-2-13

☎06-694212410

●定価 (上下巻セット) 5000円

(税込)

○若草書店で販売

近鉄奈良駅前/近鉄桜井駅前/近鉄大和八木駅構内/近鉄橿原駅前/近鉄橿原駅前

○ふよお堂で販売

大阪地下鉄「谷町四丁目」3番出口で

○遠方の方は、直接5000円送金

郵便振替0097016128372

(口座) 上田伸弘まで(送本料不要)



連載

三角点を訪ねて ⑥

# 神秘の池がある静ヶ岳へ 鈴鹿

磯部 純

これまで竜ヶ岳へは登ったことがあるが、その北西にある静ヶ岳・鏡子岳までは往復に時間がかかるので、行けなかった。しかし、地形図を見ると、茶屋川から尾根を登れば周回ルートもとれ、奥深い静ヶ岳の風情を楽しめるのではないかと考え、登るのならせひ茶屋川から尾根を登ってみようと思っていた。

このルートを登る時にはせひ山を駆け下りてくれと言っていた三角点の各氏は静ヶ岳山へ。静ヶ岳へ行くなら誘ってくれと言っていた長老は用事があるとかで時間が出ず、新ハイ会員による個人山行となった。メンバーは岩野氏の「鈴鹿を歩く」例会には常連の、山本さんと大石

さんと私の3人。もちろん、目的は静ヶ岳の三角点を踏むことだったが、山本さんが新ハイ誌(第38号)に紹介している「静ヶ岳をめぐる三つの池」の探訪も目的の一つだった。

8時30分、神崎川橋広場で名古屋から来る大石さんの車と待ち合わせ。ここからは彼も乗せて1台の車で茶屋川の取りつき尾根の麓まで向かう。計画では又川谷の北の尾根を登ることにしていたが、その尾根より「静ヶ岳西方」にのびる長い尾根を直接登ったほうが時間がかからないし、情緒を味わうことができますよ」との鈴鹿通の山本さんの言う通り、推奨のルートを登ることにした。

静ヶ岳・鏡ヶ岳間の二葉山稜にある無名池

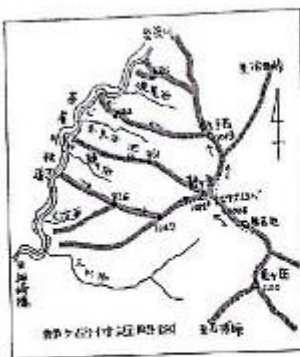


先日、台風の名残が昨夜の雨のせい、茶屋川林道はかなり荒れている。水溜まりもあちこちに残っていて、車を走らせるのに一瞬たりとも気が抜けない。当然連転する私は、あたりの地形を確かめる余裕もなく、2人の言いなりに車を進める。地図では御池林道入口から静ヶ岳西方にのびる尾根の突端までは、車で行きたい距離ではないが、水溜まりを避けゆっくり

り通まざるを得なく、思ったより時間がかり遠く感じる。

大きなカーブを曲がり、橋を越えた所に車を置く。以前、登ったことがある山本さんがこの尾根に間違いないと言ったからだ。なるほど、地図を見ると出っ張っている尾根の端は地図の地形に合っているように見える。尾根の突端が崖になっている。直接尾根に取りつくことができなかった。山本さんの誘導で橋のたもとから尾根に取りつく。ところが10分も登り尾根が上がると、その向こうにさらに高い尾根が張り出しているではないか。

ここで再度地図で現在地の確認をするが、思い込みとは恐ろしいもの、予定通り



りの位置に居るように標高で見るから不思議だ。疑うことなく斜面をくだり登り返す。その尾根は地図で見ると急勾配で、粗い尾根も長く続く。至る所に台風で倒れた木が行く手を遮り歩きにくい。しかし、2次林の尾根には人の跡もほとんど形跡は全くなく、気持ちよく登ることができた。登り始めに頭に浮かんだ「尾根を間違ったのでは？」などという疑問も、どこかへ消えてしまった。が、一人大石さんだけは時々地図を見ながら、「どうも南に振り過ぎていたようだ」とブツブツ言っている。この辺に池があるはずと言っていた標高700付近地点にはヌクヌク状の沼地はあったが、池の様相とは程遠い。今度は山本さんが「おかしー、おかしー。この辺に池があったはずだが……」を連発。尾根対面はますます急になり、そして細くなっている。

なからも登りきると、そこは静ヶ岳山頂ではなく、単なる鞍部だったのである。要な所に出てしまったと地図を広げ、現在位置を確認しようとする。一登る尾根を間違っていた！と大石さん。何とその場所は826分の北にある鞍部で、目的の尾根の一つ南の尾根を登っていたのだった。1時間登って今だに826分の鞍部では、まだ行程の半分も登っていないことになる。登る途中で北に見えていた本来登るはずだった尾根を見て、「あの尾根が降りにくくなる鏡子岳からの尾根だ」と悟っていたのだから、笑い話にもならない。

現在地を確認した後、先は長かったが気を取り直して登ります。取りつき口を間違ったことはさておいて、「これまで岩野さんをはじめだれも登ったことのない新ルートを登ったのだ」と山本さんが言っていたが、これだけがせめてもの慰めかも知れなかった。

2次林の急な尾根をあえぎ登り、1047分に近きナナを過ぎ分け尾根に出ると、やっと展望が開けた。眼下に又川谷、その向こうに大尾の尾根、竜ヶ岳が横たわっている。目的の静ヶ岳は二つのピー

## 新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編  
改訂2版/上製本/日6判 350頁/定価1690円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 花の山を行く** 松本雪枝 著  
3刷発売中/上製本/日6判 350頁/定価1895円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 山旅素描** 足立真一郎 著  
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1895円 山岳画家足立真一郎の山旅の随筆集
- 第8巻 旅がらすの山** 富田弘平 著  
3刷発売中/上製本/日6判 388頁/定価1895円 内容豊かな紀行文の傑作を収めた
- 第9巻 一等三角点の名山100** 富田弘平/松本雪枝 共著  
3刷発売中/日6判 330頁/定価1895円 一等三角点100山の紀行・案内文集
- 第13巻 甲斐の山山** 小林経雄 著  
改訂2版発売中/日6判 360頁/定価1895円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著  
2刷発売中/上製本/日6判 380頁/定価1895円 話題豊富な著者の紀行と随筆集
- 第15巻 日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和喜 共著  
9刷発売中/A5判 320頁/定価1895円 新ハイキングの精鋭5民営地踏査のガイド
- 第16巻 日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和喜 共著  
6刷発売中/A5判 320頁/定価1895円 陸路・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 城跡ハイキング** 中山権四郎 著  
2刷日6判 354頁/定価1680円 歴史を巡る城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本雪枝 共著  
2刷A5判 340頁/定価1680円 一等三角点の山100山の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編  
日6判 320頁/定価1680円 山の随筆集。55名が執筆の随筆
- 第20巻 一等三角点の山々** 山江ゆき子/横山隆/高橋生雄/川越はじめ/岡村英樹 共著  
A5判 370頁/定価1680円 第1、18巻の山と重複しない80山の登山コースを紹介
- 第21巻 中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著  
A5判 368頁/定価1680円 歩きやすい中央線の山107コースの紀行と案内
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編  
A5判 367頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社** 〒116-0223 東京都北区常盤川7-3-13  
電話/Fax 03-3915-8110 営業 03130-9-148915  
●同梱は送料込み ●最新のご注文は送料当社負担

クのかたに頼んでいた。  
尾根のササやぶを抜け、西斜面の林のなかを進む。最初のピークではかなりのササやぶを抜いたが、それを越えたと再び二次林の斜面となる。ピークから見ていたほどはかからず、11時20分に静ヶ岳(1088.6m)山頂に到着した。  
結匪の山に入っている人は多いと思われるが、この山まで足をのばす人は少ない。一般道を歩くと、三重県側から登るにはアブローチが長過ぎ、余程尾に自信のある人しか来ないからだろう。ただ、懸石だけが広場の真ん中に立っている。三角点の向きは西側。樹間から見ると、すぐ側に静ヶ岳が映っていた。  
昼食にはまだ早く、静ヶ岳方向へ向かう。尾根の途中にある無名池へ行くためだ。1000m以上のピークの裾野にある池である。この尾根は二重山麓になっ

ていて、縦走路は二重山麓北の尾根の北側を走っている。池に気づく人もなく、知る人ぞ知る池だそうだが、言われる通りの静かな池で、まるで庭園を思わせるようだった。池は10×20m程度の広さだろうか。水を一杯に溜めた池と周囲のコササと自然林とが何ともささめぬコントラストを成している。  
しばしの間、この風景を楽しんだ後、登山道を静ヶ岳分岐から静ヶ岳方向のヤブノコバへ向かう。あたりも地形的に二重山麓になっていて、黒崎峠と静ヶ岳への尾根に挟まれ、水谷谷の源頭帯に当たっている。一部は日本版図を思わせるシロモジの多い二次林で、その間に静かに水を溜めた池があった。  
池のまわりは黄色に色づいた葉が秋を感じさせていた。この道で景観とする用意してきたラーメンをつき合せてのほら。個人山行ならではのくつろぎのひとつときであった。  
せっかくなので来て静ヶ岳を踏まなければ悔いが残ると静ヶ岳へ向かう。シロモジの静かな二次林をいったんくたつてまた登り出す。標高差わずか1000m程度だが、食事の後の登りは本当につらい。やっと思いで静ヶ岳山頂へ到着すると、それまでの苦労を忘れてくれるだけの展望が待っていた。山頂から北方の展望が抜群だ。藤原岳や雲の中に頭を突っ込んだ静ヶ岳の姿は、何とも言いようがない程神々しくそびえ立っていた。  
帰路は、「登りに足根を間違ったため、

見ることもできなかった池を見に、静ヶ岳西尾根をくだりましよう」と言われたが、私は再び静ヶ岳まで登り出す気力がなく、2人に無理を言っただけ、そのまま予定通りの静ヶ岳西尾根をくだることにする。この日の目的の一つは静ヶ岳にある三つの池をめぐることだったが、最初に尾根を間違えたこともあり、静ヶ岳西方にのびる尾根の池は、次のチャンスに對することにした。  
静ヶ岳から下山する西尾根は、南斜面が杉林で北斜面が自然林、その中間をくだることになる。最初は緩やかな尾根も伐採斜面になるとやぶがうるさく、足を出すのに苦労するほど。楽しんでくたるのにはあまり快適な尾根とは言い難かった。それでも思っていたより早く、1時間25分で茶屋川林道へ下山することができた。(平成10年10月31日歩く)

△コースタイム▽  
茶屋川林道(1時間) 826m(静ヶ岳) (45分) 1047m(35分) 静ヶ岳(10分) 無名池(15分) セキオノコバ(35分) 静ヶ岳(1時間25分) 茶屋川林道

八淵の滝めぐり

秦 康 夫

今回は涼感とスリルを求めて「八淵の滝」めぐりをする。比良山系の著名な滝としては、湖西線から見える北小松の楊梅の滝（ようばいのみたし）、爽快な明王谷の三の滝、白濁谷にあるファミリーハイク向けの大崩流などがある。

しかし、沢登りをするならともかく、通常の登山ルートからはいずれも単発的に一つ、二つの滝が見られるだけである。その点、八淵の滝めぐりは、整飾されたルートをとるだけで様々な姿・形をした滝や淵を連続して探訪することができ、そのうえ、水着を浴び適度のスリルを味わうことによって身も心も涼しくなる。夏にはうってつけの納涼コースといえる。

きょうのメンバーは男性3名、女性？名の計15名。JR近江高島駅から、十曜・休日と夏のシーズンに出る「ガリバー旅行村」行き江若バスに乗車。レンゲ畑が広がり、道脇に水車の廻るのどかな鹿ヶ瀬の集落を眺めているうちに、25分ほどで料金所のあるガリバー旅行村のゲートに着いた。

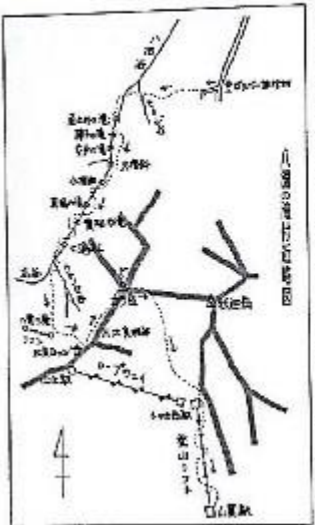
八淵の滝めぐりの最初の滝は「魚止めの滝」である。一般的なルートは、ここから遊歩道を30分程登り、急坂を八池谷におりた所が発点になるが、日照りの遊歩道歩きを避けて、起伏の少ない近道をとることにした。

歩き始めて1、2分、遊歩道が大きく曲っている。左岸を登って右上に出た所にも小さな滝があり、その上流に「獅子の滝」が見えてきた。幅の広い滝だ。滝の周囲の岩に獅子の顔のような根が入っているのが名前の由来らしいが、じっくり眺めてもよく分からない。

二段になった上の滝は10分位か。水音が流風に乗って漂ってくる。滑りやすい岩場をおりて下段の滝の淵に立ち、流れに横たわる大きな丸太の上をそろりそろりと歩いて対岸に渡った。川幅はせいぜい3、4分だが、ここがきょうのコースでは一番慎重を要する所だ。

対岸には大きな岩が待ちかまえているが、ありがたいことにJ字型になった黄色い金属製の足場が岩に打ち込んであり、丈夫なクサリも設置されている。これを登ると、上段の滝の大きな淵の上に出た。岩を右に廻り込んで間近に眺めるとなかなかの迫力である。流の飛沫で、あっという間に眼鏡が曇ってしまった。

滝の流れと逆に鉄ハン



滝の梯子



左に面する所に、右に入る細い地道がある。両側から雑木の生い茂る涼しい木陰の道だ。すぐ十字路になるが、まっすぐ進むと道はやがてやや左（西）方向に向きを変え、水の流み流れる川水路が現れた。あとは、ずっとこの用水路沿いに歩けばよい。

間もなく、小庭園風にきれいに整備されたモミジ谷（妙谷）に出合う。堰堤の

ゴを登り、続く急斜面の岩場をロープを伝ってよじ登ると滝の落ち口の上に出る。上はきれいなナメ滝の連続である。あとは垂れ下った何本ものクサリと木の根と、岩角をつかんで急坂を駆け上がり遊歩道に出た。このまま「大崩流」まで行こうと思ったが、一氣に登ってきたため全員大汗をかいて呼吸が荒い。しばらく休んで息を整えてから歩き始めた。

三番目の滝は「唐（かぶ）戸の滝」である。数分歩くと矢印が表示が出ていたが、道脇からのぞき込んで見えない。河原におりてそばまで近づいてみたが、落ち口と下の相長い淵が見えるだけで流の全容は拝めなかった。「大崩流」のそばでまた休憩。流れは幅が広くて短いが、その名の通り大きくてゆったりした淵を持っている。淵の広さは六十坪あるそうだ。

「大崩流」の右岸を登るとナメ滝が続く。その上流の岩に囲まれた淵が「小崩流」といって、知らぬ間に通過してしまっただ。なおもナメ滝沿いに足場を伝って岩場を歩き、丸太を二本束ねた橋を左岸に渡る。やや高揚き気味に登ったと思ったらすぐまた河原におりて、石垣いに右岸



屏風の滝

に渡り返す(先程の橋を渡らずに、そのま  
ま右岸をへつって来るルートもあるようだ。  
ほどなく六番目の「屏風の滝」が見え  
てきた。三段になった滝だ。上の流の真  
ん中にチョッキストーン状に大きな岩が  
挟まっており、水流が二条に分かれてい  
る。落差4、5尺、二段目の流が2、3  
尺、三段目の流が5、6尺で一帯大きい。  
滝の周囲には名前の由来の通り、屏風を  
立てたような縦長の岩が屹立している。  
滝にはそれぞれ名前が付けてあるが、感  
覚的に名前と実物が一致するのは、この  
「屏風の滝」と「大増鉢」くらいのもの  
ではないか。

大きく見える。まっすぐ一箇所に落ちて  
くる。八淵の滝群のなかでは、最も形の  
よいすっきりした滝だ。ここから木の幹  
に巻きつけられた一本のクナリを頼りに、  
崖面に近い岩壁を懸垂下降のように水際  
までおりる。初めての人には若干勇氣を  
要するところだが、足場もしっかりして  
いるので慄直にくだれば問題はない。お  
りた所からの流の眺めもすばらしい。  
以前ここに架けられていたアルミの橋  
はなくなっていた。クナリをつかんで岩  
はなれに對岸へ渡り、大きな岩に架けられ  
た鉄ハシジを登る。岩を少しへつり、次  
に数本のクナリを伝って岩溝をよじ登る  
とやうと流の落ち口の上に出た。グルー  
プの数名は、初めからクナリやハシジを  
使わずに、岩角に手がかり足がかりを求  
めてクライミングを楽しんでいる。この  
あたりが、ちょっとした岩登りのスリル  
も味わえる、きょうのコースの核心部で  
ある。

きれいな斜線が見えてきた。八淵の最後  
の流「七返返しの流」である。その下流、  
丸太を四本束ねた橋を左岸に渡った所か  
らの眺めがいい。

あとは大きな流はないが、連続する中  
小の滝群の様相が、変化に富んでなか  
かおもしろい。途中、懸断というほどで  
はないがクナリ場も多く、滑りやすい岩  
場をこわごわとへつったり、垂れ下って  
いるロープを頼り子のように使ったりと  
こいうコースもなかなか楽しいもので  
ある。

これで「八淵の滝」の探訪は終わり、  
道は谷を健渉して右岸に移り、間もなく  
「左オガサカ道から釈迦岳」右八雲ヶ原  
から武奈ヶ岳」の道標が現れた。分岐を  
右にとり、左から入ってくる小さな沢  
(ウマノセ谷)を渡ると、中洲のような感  
じの疎林帯になる。河原近く、葉林な石  
積みケルンのある所で昼食をした。こ  
のケルンは旧い山の友を認んで、数年  
前におわれが建てたものだ。初めは小さ  
かったが、毎年石を積み足して今ではた  
いぶ大きくなっている。

1時間はどゆっくり休憩して出発。し



貴船の滝

しばらく広谷(八池谷の上流)右岸の河原を  
歩いてから沢を離れ、山道に入る。「ま  
ぼろしの流展望所を経て八雲ヶ原」の道  
標に従って左に折れてから、細根根に出  
るまでの登りはしんどかった。ロープも  
あり足場もしっかりしているが、砂地で  
滑りやすいうえに傾斜も急である。午前  
中の「隙子の流」から遊歩道への急登は  
どではないが、たらふく食べたあとで身  
体も重く、きょうのコースでは一番汗を  
かいた登りだった。

た。

「まぼろしの流」の表示がある。ここ  
が展望所ようだ。だれかが近くの木に  
登って見下ろしてみたが谷は深く、はる  
か下のほうから流らしき音が聞こえるだ  
けである。「まぼろしの流」というだけ  
あって、涼しくなくて当たり前なのかも知  
れない。

ここからは少しの登りで、芝生の広か  
る八雲ヶ原スキー場に出た。初心者用ゲ  
レンダの一番上のあたりである。小憩後、  
比良ロッジへの広い道を登り、カラ岳・  
釈迦岳方面への分岐を左にくると比良  
明神への階段がある。七体のお地藏さん  
を脇に促した小さなお社だが、ここを通  
る時はお参りするにしている。全員  
で参拝し、元の道に戻った。

しばらくは満開のシタクナゲを愛でな  
がらの尾根歩きが続く。午前中の緊張か  
ら解放されて余裕が出てきたのか、あち  
こちに花を見つけて女性たちがにぎやか  
である。白いツツジの道には薄いピンク  
のドウダンツツジやイワウチワ。シヨウ  
ジョウバカマは色はあせても健気にまだ  
咲き続けている。

関西電力無線中継所のあるカラ岳を過

ぎ、釈迦岳への縦走路と分かれて右の山  
腹をからむトラバース道に入る。始めは  
迷途脱路で、自然林のなかの歩きやす  
い道だが、くだるにつれ荒れ道となつて  
くる。釈迦岳直登ルート(入口を過ぎた  
あたりから登山リフトの音が聞こえ始め、  
ジグザグに折り返してリフトシヤカ岳駅  
に着いた。

駅の本ベンチで休憩して、あとはリフト  
の下を二度、二度と横断するリフト沿い  
の登山道をゆっくりにくだり、リフト山麓  
駅には15時20分頃到着した。

(京都市北山グループ例會。  
平成12年5月21日歩)

△コースタイム▽  
ガリバー旅行村バス停(15分) 鴨川(八  
池谷) 林道出口(20分) 魚止めの流(20  
分) 大橋(10分) 貴船の滝降り口(20  
分) 貴船の滝上(30分) オガサカ道への  
分岐(40分) 八雲ヶ原ゲレンダ(40分)  
カラ岳(5分) 釈迦岳への分岐(25分)  
リフトシヤカ岳駅(50分) リフト山麓駅  
△地形図▽  
2万5千1比小松・比良山  
昭文社「比良山系」

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第21回)

## 離島と北海道の山旅

坂井久光

「1等三角点研究会」会員で現在は理事をしている富田弘平氏が、「日本三百名山」や「1等三角点百名山」に登った同じく会員の田中三郎氏とで、屋久島の1等三角点・志戸子岳(908m)に登る計画を知らせてくれた。私も再度挑戦することにした。

平成2年3月17日、田中氏と待ち合せて大阪南港からフェリー・サンフラワー号に乗り、翌日鹿児島島の志布志港に到着した。バスで鹿児島市へ行き、月山町の「小島旅館」で泊まった。

19日、8時出港の屋久島丸に乗船し、13時に宮之浦港に着いた。暇つぶしに近くの釣魚店(552号・3等三角点)に登っ

てから「みよしや旅館」に入った。夕刻に「栞杉旅館」に泊まっている富田氏を訪ね、明日の打ち合せをした。

20日、6時10分に「栞杉旅館」に集まった1行27人はバスで出発した。宮之浦林道に入り、前回の登路より一つ手前の小谷の作業道を登路にとった。今回も前回と同じように屋久島電業の社員が案内役をつとめてくれた。これも富田氏のコネのお陰である。前回の登路とは谷を一つ隔てた手前の屋根筋道を登ったが、始めはよかったものの、徐々に道が怪しくなり、案内人が迷って予定より2時間も遅れて14時頃やっと志戸子岳に登頂できた。

志戸子岳にて(左から富田・田中・坂井)



登路は踏み跡程度でけもの道と見分けがつかないほど、一度登ったぐらいいでは迷っても当たり前だった。途中は、常緑樹林がうっそうと茂っており、ヘゴノ木(シダ植物)を始め、めずらしい木や山野草が生えていた。シダの茂みをかき分けて登頂した時は一同大喜びだった。三角点は15°角で、岩間のシダの茂みに隠れていたのを富田氏が見つけた。

この山に登山者が登らない山で、登山を目的としての登頂はわれわれが最初と言えよう。快晴で、真南の宮之浦川の源頭になつかしい宮之浦岳がそびえていた。また、途中の尾根からは、以前登った一渡岳もよく見えた。一同感激の万歳三唱して小狼ののち往路を下山した。18時頃に登山口に下山して、一同民宿「宮之浦荘」に宿泊。夕食は豪華で、屋久島電工側からもビール・デザートを差し入れがあり、大いに盛り上がった。

21日、一行と別れて屋久島温泉へ行き、斐子岳(1295m)へ登り、「牧旅館」で一泊した。

22日は園遊岳(1523m)・2等三角点に登り、翌23日の13時発の船で夕方鹿児島に戻った。その日の夜22時発の十島丸に乗り、口之島へ出発した。

25日、5時に到着し、「民宿」はまゆう荘でひと休みした。朝食後、セララム温泉へ行くつもりで、温泉の鍵を借りて南中へ出発した。無線塔の立つ楳岳(500m)に登ってみたが、1等三角点の前岳(628m)は雨で見えず、楳球竹の葉いやぶで今回は登頂をあきらめて帰った。夕食後、21時発の船で鹿児島へ。

26日、5時に鹿児島に戻り、西鹿児島駅からJRで熊本駅へ、乗り換えて阿蘇駅へ行き、登山バスに乗って西阿蘇へ着いた。それから中岳を越って高岳へ砂千里を登った。高岳は1592m・3等三角点で「深田百名山」の一つだ。往路を下山して、阿蘇駅から大分駅経由で別府へ行き、一泊してから、翌27日の関西汽船に乗船し、28日帰宅した。

同年4月5日から、当時は「1等三角点研究会」の会員だった富田氏と2人で伊豆大島へ出かけた。JRで熱海に行き、フェリーで伊豆大島へ渡り民宿で一泊。初めてアシタバを食べた。翌6日、噴煙を上げる三原山(604m)へ登った。椿がたくさん咲いていた。椿岩や火山岩の荒涼とした外輪山の一角に点検を見つけた。2人で万歳三唱して下山した。

同年5月2日、JRで松本へ行き、フェリーで北海道へ。4日、小樽港へ着き、JRで然別駅へ行った。駅前の酒屋で八内岳の情報を訊ねたところ、運よく居合せた山菜採りの人の車に便乗させてもらった。林道の奥まで行けたので時間的に助かった。然別川の二股出合で降りた。その先も林道やブル道が続くが、除雪が

済んでいず、樹雪で川伏の林道を歩き、終点からはブル道を登った。奥の渡渉点からは、アイゼンを用いビッケルで支屋根に取つき、急斜面を登って稜線に出た。コルから北のピークに登るとハイマツが出てきた。南にコルを隔てて白銀のピークがそびえ立っている。いったんくんだり、斜面を登って八内岳(944m)の山頂に立った。積雪は50cm程だった。周辺の山々や積丹の海も見えた。雨が降りだしたので急いで往路を下山した。おりしも二股で山菜採りに来ていた仁木町の臨時老人の車に拾われ、仁木町のガソリンスタンドまで乗せてもらった。車内でいろいろと山の話(彼は別荘でヒゲマの話もを聞いた。札を添えて別れ、小樽から札幌に行き、すすきののカプセルホテルで泊まった。

5日は雨で、バスに乗って余市に行き、乗り換えて美濃の旅館で泊まった。

6日、同宿の人の車で積丹岳の登山口まで送ってもらい、左に小屋を見て、林道終点から山道に登った。スキーヤーが滑っているのが見えた。強風が荒れ狂っていたが、ジグザグの急斜面を積丹岳(1295m・3等三角点)へ登り着いた。



八内 岳

山頂でスキーヤーと会った。小樽の人で下の小屋に泊まっているとか。上口氏を知っていると古い、余別岳へは深いコルがあつてこの強風ではこの先危険だと思つてくれた。単独行でもあり、ここは思いとどまっていっしょに下山した。山小屋へ向かつたが分岐で迷ひ、美雨川の支流梶野川の支店根をくだつて牧場に出た。林道をくだり道路に出てヒッチして美雨へ戻つた。バスで余市へ行き、JRで蘭越へ。旅館から知人の安士氏へ電話したらすぐ来てくれた。明日の予定を話すとして、「橋別岳の登山口まで送つてあげよう」と言つてくれた。彼の友情に感謝した。

## 丹生から信仰の山 櫃ヶ岳・栃ヶ山登山

コースとコスタタイム 近鉄下市口駅(バス45分)→八幡神社(20分)  
①(三原寺)②(三原寺)③(三原寺)④(三原寺)⑤(三原寺)⑥(三原寺)⑦(三原寺)⑧(三原寺)  
⑨(三原寺)⑩(三原寺)⑪(三原寺)⑫(三原寺)⑬(三原寺)⑭(三原寺)⑮(三原寺)  
⑯(三原寺)⑰(三原寺)⑱(三原寺)⑲(三原寺)⑳(三原寺)㉑(三原寺)㉒(三原寺)㉓(三原寺)㉔(三原寺)㉕(三原寺)

奈良県下市町南部の丹生川流域は古代の丹生庄で、近世の丹生・長谷・黒木・月原・谷・西山の各村は、市町村制で両支野村となり明治四十五年には丹生村と成つた。昭和二十一年には丹生村と秋野村は下市町に編入され、近世の村名が大字となつた。  
丹生は水銀の産石(長砂)や赤土の土壌にちなむ地名で、集落は丹生川本流のV字型深谷や傾斜地に点在する遊楽地域である。大部分が山地で戸数は三つの大字合せても四百戸未満、畑作農業と林業が主な仕事であり、今は他所へ勤める会社員が増えている。丹生や黒木で生産されていた伝統のある薄くて堅平な吉野

7日、彼の車で名取町の林道終点まで行った。そこからの谷筋は雪が多かつたが、尾根筋は雪が消えカククリやボコボコジャンクが吹き飛ばれてた。昨年登つた3等三角点でひと休して、現地のハイマン帯を抜け、破線の残雪をたどつて標別岳(892m)へ登頂した。快晴で展望広大、ニセコ・羊蹄山が白銀の姿を見せていた。しばし展望に時を過ごし、往路を下山した。安士氏の車で彼の農場の公民館へ行き、しばらく話し合つてからJRで蘭越へ行き、民宿で一泊した。  
8日、バスで亀田半島の丸山(891m)へ向かつた。しかし、出発が遅くなつた。バスの連絡も悪く、登山口まで時間がかりすぎ、手前のピークまで登つて時間切れ、あきらめて下山した。再登を期し、バスで湯の川温泉に行き民宿で一泊した。  
9日、JRで木古内へ行きバスで知内へ。ここもバスの便が悪いので、タクシーでナマコ岬の無標塔のゲートまで行つた。長い林道を登つて無標塔へ。ひと休みして山道を登り後山へ出た。雪が消えやぶが出ていて、古い切り開きはネマガリタケでおおわれていた。1、2本のやぶこぎ

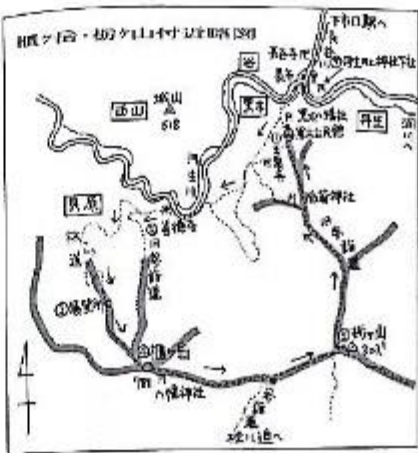
## 中村 敏文

経遊業はすっかり覚えていた。  
近鉄下市口駅(時15分)の洞川温泉行きのバスは長谷が9時56分。南流する長谷川が丹生川に合流する長谷南郷は、旧丹生村の中心で、下市町丹生支所・丹生郵便局・長谷寺・丹生川上神社(社)がある。吉野の菅根ヶ峰を縦断する丹生川は丹生口から北流し、旧丹生村を北へ南へと曲流して西吉野村へ流れる。  
① 玉泉寺(下市町黒木・土手道) 長谷バス停から丹生川を渡り、左折して下黒木への里道を30分程たどる。集落の入り口の里道左上に黒木西境内の集神八幡神社と黒木公民館がある。神社で櫃

をしてやつと丸山(892m)の頂上まで登つた。山頂は平場で広い。1等三角点標は小1時間も探したが見つからなかつた。仕方なく小谷石へ向けて小谷をくだつた。途中、ハクサンコサクラやイワブチが咲いていた。砂防ダムに出て林道をくだつたが、シラネアオイやキンコウカも美しく咲いていた。小谷石に下山し、ヒッチして知内に戻り熊の湯温泉へ行つて一泊した。  
10日、バスで木古内へ行き、タクシーで神明の谷へ。崖落した岩があり途中下車。そこが長い林道を歩いて瓜谷山(549m)へ。林道終点から谷筋をたどり、谷奥で山腹を越く山道に出合い、山頂近くまで行つたがその先はネマガリタケのやぶだった。山頂一帯はブナの森林で、小1時間着付近を探したが点燈が戻つからず残念だった。往路を下山し、神明から湯の川温泉へ。汗を流し、上ノ岡町の保養センターへ行き泊まつた。  
11日、蘭越から長万部経由で小樽へ戻り、ビジネスホテルで一泊して、12日のフェリーに乗り13日に舞鶴に着いた。(改号(こく) 文中の太字は同義。たゞ安士氏の山をさす。)

ヶ岳を遊覧しながら休憩する。下手炬内を抜け上手炬内に入ると玉泉寺がある。室町時代に吉野町飯員の本尊寺御坊・下市町遊行寺御坊を中心に向宗が吉野に広まり、文正年間(1430-1437)に玉泉寺も神宗から浄土真宗に転宗した。現在の本尊は宝曆十三年(1763)に本山より下付された阿弥陀如来である。境内の元禄十二年(1666)銘の梵鐘は櫃ヶ岳山頂の八幡神社神宮寺の施主堂御寺より移されたものである。玉泉寺から南へ白の垣内へ入ると、右手の山坂道を越えて丹生川沿いの県道へくだる。  
② 標別山善徳寺(下市町月原) 長谷・十日市線を少し西へ行くと、左へ分岐する里道が日原の坪手垣内へ通じ、その中央に四間門を構えて西迎する浄土真宗本願寺派の善徳寺がある。  
善徳寺も玉泉寺同様南北朝時代に神宗から浄土真宗に転じ、平安後期の作という立派な阿弥陀如来を本尊に安置している。大日堂安座の大日如来は平安末期の作で、堂内の増長天・多聞天の二天像は鎌倉期の作という。安満左馬尉明武が関心三年(1340)に真宗道場を創

立し、楠木正行に祖し家功を立てた弟の藤太(子意)が兄弟子の後を継承する。古記録に「新助楠木正行暇々有戦功」と記され、現在境内に残る五輪塔が真宗初代の了願の祭と伝承されている。具原は由流する丹生川左岸の中市町南部の広い大字で、坪手・平山・山手・笠嶺の各町内併せても五十戸未滿。北部は西山、東は黒木の町の町内、南は壱ヶ岳を境に西吉野村の大字檜ヶ山と接する。



③ 壱ヶ岳展望所(壱ヶ岳八合目) 壱ヶ岳への登山は山頂の八幡神社が以前は具原・黒木・檜川道の氏神で、これら三つの大字から、それぞれの参詣道が山頂まで整備されていた。現在は具原のみの氏神となり、坪手町内から南へほぼ一直線に登る古い参詣道がある。坪手町内と山手町内からは平山町内を経て山頂まで林道も通じている。

下市町指定の壱ヶ岳ハイキングコースは、旧参詣道より1.5kmも長いが、坪手町内から登り3kmの整備された林道を遊定している。下りは旧参詣道か黒木への参詣道をすすめている。私たちがも勾配がゆるくて歩きやすい林道に登り、黒木へ下る参詣道コースを辿んだ。善徳寺前から約2.5km、山頂まで700mの地点に屋根と観音付きの展望所がある。北から西への展望が良く、広場があるので昼食休憩にする。

丹生川からそり立つ真北に見える城山(618m)は、松岡新大夫の山城跡である。波比売神社が鎮座する黄金岳の扇原(扇原・日郷社の波比売神社のある白瀬川の扇原山・竜王社

を祭る竜王山の、吉野三山も見える。

④ 壱ヶ岳と八幡神社(下市町日見) 遊歩道休憩所からしばらく登ると右側に木造の鳥居が立ち、坪手町内からの旧参詣道が山頂に通じている。林道と旧参詣道の二手に分かれて山頂へ向かう。旧道のほうが2分ほど早かった。

標高781mの山頂は、10m四方の平地で樹木に囲まれて見晴らしは悪い。中央の小祠は壱ヶ岳神大明神や吉野蔵工権現と聞けるが、祭神は不詳である。昔は参詣者も多く参詣した著名な信仰の山であったらしい。

山頂東側の一段下には幅20m長さ50mの矩形の平地があり、八幡神社が鎮座する。一間社のわりに立派な本殿とトタン葺平入の拝殿が東面している。具原の四町内合わせて五十戸未満の大字での祭祀と維持は大変だろう。明治初年までは神宮寺の雲仙寺が存在したが寺跡は見当たらない。

山頂から西へ西吉野村との境を10分も伝うと香登りした竜王社小社がある。大和北部の折原の岳登りと違い、自然の災害を逃れる折原・止雨の岳登りである。

壱ヶ岳から壱ヶ山(809m)へは東へ2kmで作業道へ入る。起伏の少ない尾根の北側は、尾根付近は嶮、谷近くは杉の植林。南側の西吉野村地域は谷の近くまで雑木帯である。

八幡神社から1.5kmの地点で、右へ檜川迫への旧参詣道が分岐する。さらに1.5km近く行くと壱ヶ山との鞍部で、壱ヶ山・黒木・檜川迫への道が分かれる。

⑤ 壱ヶ山(丹生・黒木・檜川迫) 鞍部から右へ分岐して南へ下れば檜川迫の東部山地、左へ分岐して北へくだれば黒木からの旧参詣道へ入る。尾根道をまっすぐに東へ200mほど進むと、作業道を左へ登ると壱ヶ山山頂で



黒木より壱ヶ岳遠望

ある。嶮が成長して見晴らしは悪く、7号台風でそうとう荒れている。

⑥ 黒木公民館(黒木・下黒木)

壱ヶ山から東北へくだって鞍部へ戻り、黒木をめざして旧参詣道に入る。壱ヶ岳の八幡神社の氏子をはずれ、参詣道は道幅も狭くなる。草も生え右コロも露出して道の両側からの小枝も邪魔になる。鞍部から1.5kmほどと左へ上手町内の須寄神社への道が分岐するが、下黒木の八幡神社をめざす。壱ヶ山から40分ほどで八幡神社前の真新しい黒木公民館の広場へ着いた。

下黒木から長谷へは深谷下り道で、丹生川上神社下社へは40分で到着する。

⑦ 丹生川上神社下社(長谷)

丹生川下流三条市域の式内の丹生川神社、西吉野村の丹生神社もあるが、丹生川を前に丹生川を背にした丹生川上神社下社の地域は、延喜式記載の名神大社の鎮座にふさわしい聖地である。丹生の川上は天武天皇四年(678)に神託により聖地として奉斎され、歴代皇室の信託も厚く、平安時代の弘仁九年(818)

の神格は従五位、以後順調に昇進を続けて寛平九年(897)には従一位に進んでいた。

戦国時代からは、墨家との関係を絶たれて神社所在地すら不明となったが、明治四年に江戸初期の白井宗因の「神社啓蒙」記載の「下市の山中にある」に基き、当社を式内社に比定して宮内社とした。その後川上村迫の社を式内社に指定し、大正四年に東吉野村小の観音神社を比定し、大正十一年には川上土社・中社・下社として三社を百幣大社として決着した。

当社は江戸初期の検地帳に「除地式段四畝村中氏神丹生大明神」と記載され、幕末の黒船来航の際、孝明天皇の旨で国体安穩を祈願させている。幕末には当社社人が天謀館に加担したため、彦根藩勢に拝殿・社務所を焼かれていた。

現在の社殿は近代の建築であるが、昔の七井戸のうち二つは残っている。祭神(八幡神)は折原・止雨の水尊で、6月1日の祭礼には長谷・谷・丹生の三つの大字が盛大な太古(太鼓)踊りを奉納する。神社から5分の長谷バス停から下市口駅へ向かう。

# 和泉葛城山へブナ林を訪ねて

松 永 恵 一

天然記念物 和泉葛城山ブナ林

標高858mの和泉葛城山の山頂付近北側には、国の天然記念物に指定されているブナ林が広がる。大阪府下には国の天然記念物に指定されているものがいくつもあるが、森林では和泉葛城山のブナ林のみ。大正十二年(1923)に、ブナの生育できる南限で、しかも低い山であり、ブナの分布から考えて大切な林であるとして指定された。

ブナ林は四季折々の美しい顔をもっており、私たち登山者を迎えてくれる。春が訪れ気温が高くなると、梢枝のようになつていた梢がいつせいに芽吹いて、清々しい新緑に姿を変える。淡緑色の花が咲き青葉が山をおおい、ホトトギスな

どの鳥のさえずりが聞こえてくると夏。涼しいブナの木陰で蚊を楽しむ。木漏れ日が陰をつくり、青葉の陰影がひとしお美しい。

黄金色に染まったブナや紅葉したシラキ・ヤマモミジなどが全山錦を織りなす。木々に絡んだつる草やススキの穂をかき分けながら、カサカサと落ち葉を踏み、木の葉を集めるカンドリスが見られる。夏、青に澄んだ秋空が美しい。

やがて細い枝にしがみついていた葉が落とされ、さびしげな様子を見せ始めると冬。やわらかい陽光が降り注ぎ、落ち葉がカラカラと音を立てて飛んでいく。冷たい雪が雪に変わると、木々の小枝に美しい樹氷の花が咲き、冬山を飾る。

ブナ林



八千平方メートルの地に幹回り50cm以上のもの約450本が美しく成長していたが、近年、大木が枯れるなど、ブナ林の衰退が進んできている。天然記念物に指定された当時の一割程度しか残っていない。岸和田・貝塚両市では、ブナ林の保護増殖調査委員会を発足させ、現況調査から発芽調査、害虫対策、周辺の環境整備などに取り組む。周囲の落葉広葉樹林のなかに、若いブナが育ち始めている。

## ブナ

ブナは日本の温帯落葉樹林を代表する樹木。温帯では最も普通に見られる森の木で、温帯のことをブナ帯とも呼ぶ。近年、木材資源開発のため自然林の伐採が急速に進み、まとまった面積のブナの自然林が少なくなった。「ほろびゆくブナ林を守ろう」という運動が広がり、一番広い面積をもつ秋田・青森県にまたがる白神山地のブナ林が「世界遺産条約」の自然遺産に登録された。

ブナは落葉樹で、涼しい気候を好む。樹皮はなめらかで灰色を帯びる。葉は「五生」、葉の先はとがり、葉の根元はくさびのような形をしている。葉脈はほゞさりして、葉のふちは波打つようにうねり、葉脈がその波のくぼんだ所へ向かう特徴をもっている。

5月頃、同じ木に黄色の雄花と雌花が咲く(雌雄同株)。果実は10月頃熟して落ちる。三角形をした種子で、種子の入り物にあたる殻斗はとても特徴のある形をしている。

芽を出し花を咲かせるようになるまでに60~70年かかり、平均的な寿命は180~210年といわれている。

## 石の宝殿

和泉葛城山は雨乞いの山として知られ、もともと宝仙山と呼ばれていた。山頂は五穀豊饒をつかさどる八大魔王をまつる霊域で、石の宝殿が鎮座します。紀州より遷葬する北面の高麗神社(高麗神社)があり、共に奇中を授けて微笑ましく頂上に並ばれている。

養老道「葛城の峰二十八宿」の第九番の行場。江戸時代の享保年間には岸和田藩主が雨乞いの霊験を体得され、八大魔王をまつり、葛城神社として巨石で社殿を建立した。山頂五ヶ所の総社として岸和田市塔原・相川・河合、日笠市湯原・木積の人たちの手によって現在も手厚くまつられている。昭和三十一年8月、文化財建造物に指定されている。

養老道の塔原道は、松・杉・柏の木におおわれている。昔むした参道を歩くと、江戸時代にタイムスリップしたかのようである。枇杷の木の二つ灯籠、三丁、四丁と数えて登った石。急坂に喉を潤した玉湯泉、石鳥居。享保十四年銘の氏子奉納の手水鉢。昔を今に人々の信仰の姿を語りかけている。

## 葛城おどり

石の宝殿・高麗神社(高麗神社)の祭神を慰めるため、五ヶ所の氏子が山上で「葛城おどり」を奉納し、その技を競ったという。祭神が水の神・雨乞いの神であるため、「雨乞いおどり」ともいう。祭神は「おどりがたいそうお好き」なように、奉納が決まると、その日は不思議に雨が降らなかつたそうである。

おどりには、いりは・大山・お船・東山・お若衆・あやはた……など全部で十一曲ほどある。音頭の節もおどり方もそれぞれ違っているが、それらを総称して「葛城おどり」という。時は流れ、おどりは忘れられられ、塔原に「大山おどり」と「東山おどり」の二曲が継承されているにすぎない。

塔原に伝わるのは輪になっておどるのではなく、おどり子といわれる小学生の男子数人が、太鼓を打ちながらおどるものである。後方には、おどりの実態を伝える新発意が控え、音頭方・はやし方・前方などがついておどりが展開される。

毎年8月14日の夕刻、塔原町赤松寺で奉納される。昭和三十一年8月、岸和田市の無形文化財に指定された。





和泉葛城山のブナ林

コース概観

和泉葛城山は、紀伊半島の盟主たる堂々とした山。山頂北側にはブナの天然林が、南西側にはススキの草原が広がる。ブナ林は新緑の芽吹きに夏の濃緑、黄金色の紅葉に冬の枯木と四季折々に美しく、溪流の美観とも調和して目を楽しませてくれる。林道が整備され車で訪れる人も増えたが、山頂からの眺望を楽しむに、ぜひ歩いて登ってほしい。

南海本線岸和田駅前から塔原行ききの南海バスに乗る。塔原バス停下車。津田川の上流の狭い谷間が少しひろげて、三十戸ばかりの民家が、弥勒寺を中心に屋根を寄せ合っている。茅葺きの民家がまわりの山になじんでいたが、精米のための水車とともに忘却の彼方におしやられた。土間の広い四つ目建ちの家も見事に併わり、茅葺きも上にトタンが貼られた。自家で食べる米作りと、少しのミカンとタケノコ栽培。山林労働が主の谷間の村は農業家となった。四方を山に囲まれ、ホトトギスやカシカの鳴き声も聞かれるほどに、自然に包まれた昔の面影を残す集落だ。

塔原からまっすぐ登っていくと、麓原からの道と合流する。この道は石の宝殿・高麗神社(葛城神社)への表参道。岸和田・貝塚両市の境界を尾根伝いに登る。展望のよい、昔のオドリバ(雨乞い壇)の枇杷平でちょっと一眠。村人たちの雨乞いのおどりを見た石灯籠が今に残る。よく踏まれて歩きやすい尾根道を登る。途中、弘法大師も冷水を汲んで喉を潤したと伝わる玉冷泉の石標が立つ。針葉樹の林から植の深い大きな広葉樹

の林に変わる。ブナの自生林で学術上重視され、天然記念物に指定されている。ブナの実をとるネットが張ってあったり、カウントした標識が残っていたりする。コナラやクモシ(鳥の目)、白い花のタムシバや紅葉のミツバツツジ等も生えていて、新緑と紅葉の頃は特に美しい。大阪近郊には、金剛山・妙見山・和泉葛城山・大和葛城山の山頂付近にブナ林がある。これらのブナ林では、近年大径木の枯死や後継木不足などの問題が指摘され、その衰退が心配されている。

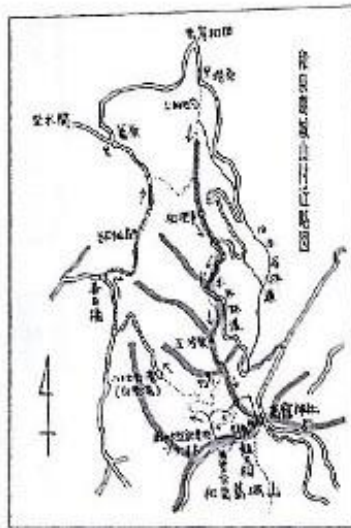
古道の雰囲気が残る長い石段を踏んで山頂へ出ると、五穀豊穡をつかさどる八大魔王をまつる「高麗神社(葛城神社)」別名「石の宝殿」がある。昔から雨乞いの祈願が行われ、祠の扉をあけると雨が降ると言い伝えられている。この宝殿は和泉と紀州の国境に建てられていた。石の宝殿の玉道の南東角が欠けている。これは岸和田藩が玉道をつくった時に、紀州藩(徳三家の一つ)からその一端がはみ出ているとの抗議を受けたため、切り落したという。徳三家の威光を今に伝える。

こんな話が伝わる。岸和田城主が、こ

の山に遊覧して白鹿を獲た。雷鳴振動して、士卒大いに恐れ山下に逃げた。その後、岩室をいとなんで、城より葛城山一言主神を勧請したので、土地の人々は葛城山あるいは石の宝殿というという。

山頂からの眺望はあまりさかないので、展望台へ向かうと、大バノラマが広がっている。南に紀ノ川・高野山連峰、北西に和泉平野・淡路島・六甲など、360度の絶景に目をうばわれる。夕焼けは感動もの。日月下旬には紅葉も見頃となり、デートスポットとしてもおすすめ。

葛城山一等三角点(865.77)は山標とは別の場所にある。山標から東へ、



大石ノ峰密りの鉄塔そばにある。以前は細道のそばにあったのだが、拡張工事によって道が広がったので、道の真ん中に邪魔もののように残されてしまった。

南側にはすばらしいススキの草原が広がっており、幅広い尾根が西へ続く。紀伊高原と名付けられ、和歌山県のリゾート開発が進んでいる。紀伊高原スカイラインが走り、向こうの峠の先にはハイランドパークというリゾート施設がある。「どうもなんだかな」と違和感をおぼえる。

葛城山キャンプ場は、野鳥のさえずりと山間の静寂が味わえるキャンプ場。関西海を眼下に見おろす。

山頂付近は、旧石器時代から縄文時代にかけての葛城山遺跡。ナスカイト製のナイフ形石器や縄文式土器が開発に伴い採集されている。案内における最も高所に位置する道路として知られており、立地条件からキャンプサイト的な道路と考えられている。

登って来た階段をくだり、分岐を左にとって麓原へ向

かう。急な坂をくだるとハシカケノ滝(合流池)。尾根道から谷におりると美しい溪流に出合う。春日橋を右にとり、しばらく行くと左にそがら山荘。「麓原へ化石を掘りに行くぞ」と、アンモナイトを夢見て通った麓原のバス停から寺院園の駅舎の水間駅へ出る。

▲コースタイム▼

南海岸和田駅(南海バス42分)塔原バス停(1時間)枇杷平(1時間20分)和泉葛城山山頂(25分)ハシカケノ滝(25分)春日橋(35分)葛原バス停(水間鉄道バス20分)水間駅(10分)南海貝塚駅  
△地形図V2万5千以内畑・橋井

△費用▼

南海葛城駅、岸和田駅 480円  
岸和田駅、塔原バス停 550円  
葛原バス停、水間駅 470円  
水間駅、貝塚駅 280円  
貝塚駅、南海葛城駅 540円  
△問い合わせ先▼  
南海総合サービスセンター  
06(6643)1005

葛城山キャンプ場  
0736(75)4288



### 忘れられた旗振山

## 二石山(二谷山)

初級コース(★)

柴田 昭彦

「大阪の旗振り通信」(公明堂)が大阪市史(第五巻所収)には、大阪室島と彦根を結ぶ米相場の旗振り通信ルートの中継地点として「二石山」「三ツ坂山」が出てくる。中島伸男「滋賀県内の旗振り通信ルート」(昭和60年)の調査結果では、これらの二つの山の位置は不明であった。三ツ坂山については、筆者が本誌52号で紹介した相場振山(山中山)のことであろうと思われる。その根拠として、西館にあるバス停名「三ツ坂」をあげることもできる。

二石山は、柳谷西山からの信号を小関山(相場山ともいう。小関越の南にある。標高385.5m)へ送るための中継地点である。

るが、従来、その場所は判明していなかったようである。中島氏による東山今熊野方面での昭和59年頃の調査は不詳のままに終わっている。

筆者はこのような状況を残念に思い、調査を進めたところ、二石山についての資料を得ることができたので紹介しよう。

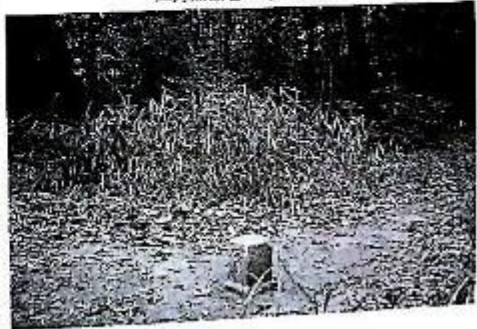
まず、中継地点の位置関係から、二石山は稲荷山・大岩山付近であろうと推定できる。

安永九年(1788)の「伏見鑑」に「砂川 龍何の砂二石山より出る川なり」と記す。

「京都府記伊部誌」(大正4年)の深草村の雑論を見ると「砂川は水源を二石山に発し、直達橋九丁目を過ぎて高瀬川に注ぎ、七瀬川は水源を深草山に発し、直達橋を過ぎて高瀬川に入り」とある。深草山の頂で「木村氏の園に在り、北は稲荷と云ひ、大辻街道を隔て二石山となり、南は木幡山に連る」とある。其は南東で、木幡山は柿山(伏見山)を指す。

以上のことから、広義の深草山(深草にある山のうち、大岩山(寛政の深草山)と稲荷山を除く地域に二石山が存在する

三角点標石のある山頂



ものと考えられる。ここで標となるのが「砂川」であるが、国土地理院発行の1万分の1地形図「東山」と「伏見」を見ても砂川は記載されていない。七瀬川は大岩山を水源としていて明確であるのだが……。

「山科の歴史を歩く」(山科の歴史を知る会、平成元年)には、相場山について、「大津へは柳谷西山から伏見稲荷側の武



石山、この相場山を経て大津に到着した」とある。この記述の出典である、古谷勝「近畿における情報伝達の歴史的發展―その5「旗振り」(近畿電気通信局、昭和51年)には、「柳谷西山から式石山(深草、伏見稲荷神社の南)、小関山(大津市、三井寺の裏山)を経て大津に到着していた」とある。しかし、伏見稲荷の南には標高100mほどの丘陵しかなく、柳谷西山は見るとしても、小関山方面は違

られており、旗振り信号の中継は無理である。

陸地測量部作成の1万分の1地形図「醍醐」(昭和13年測量)には、深草北陵の東400mほどにある86・8号地点に「二石山」と記入されている。「伏見五十年のあゆみ」(昭和56年)のイラストマップと、「伏見鑑」(昭和10年)の「宗文閣出版」と、平成旦の「深草地質図」に二石山が掲載されている。「醍醐」図をもとにしたらしいことがわかる。

この地点は「伏見稲荷南の雲石山」と矛盾しないが、立地条件は悪く、旗振り通信は不可能であろう。

京都新聞社編著「京都 謎頁 秘められた史跡」(昭和48年初版、同51年増補改訂版)の「稲荷山お滝めぐり」の文中には「先の大岩を越してすぐ右の尾根に取り付くと三三九・三

の三角点があります。むかし通信機関のなかつたころ、大阪の米相場をここで中継して、旗を振っていたとか。そういえばながめはよく、花山天文台から牛尾山にかけて一望できます」とある。

つまり、稲荷山頂上(二ノ峰)の東方500mほど位置する3等三角点(点名「西野山」)のあたりで旗振りが行われていたのである。ここが中継地点としての「二石山」ということになる。今では、頂上に雑木が茂って境界は遮られているが、昭和40年代以前には展望が開けていたことがわかる。旗振山であったことは人々の記憶から消えて久しく、頂上には稲荷山という山名板(稲荷山頂は一ノ峰なので不正)があるだけである。

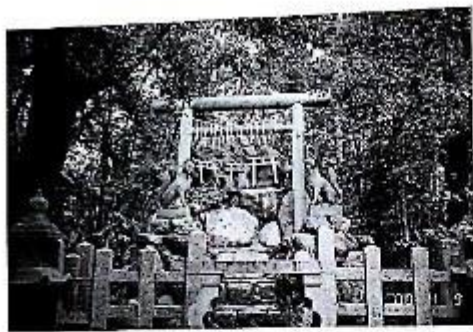
深草在住の芝村文治氏からは砂川と二石山に関して、「京都市TOMORROW」(1993年11月)という小冊子がある。高橋幸子「砂川」は幻なのか?という、砂川の追跡コメントの存在を「教えないでください。これによると、「砂川」の水源は七面山の北側(南谷)と南側(今富池中・高校南東)の二か所があり、地下へもぐったり堆上に現れたりしながら、直達橋九丁目(砂川筋がある)を経て



二つ石のある石積 (同前)

西に流れ、鴨川に注いでいるという(大正の時は東高瀬川にも流れる)。伏見をかつて伏水と書いたように、伏流しており、道理で地図にないわけである。

昭和初期に砂川小学校に土地を提供された今邑家には明治三年の地図があり、当時の複雑な水路が記されている。その地図には、御荷山の東方に「伏見御支配(二谷山)」と記載された山がある。一方、



権現大神

たあと、右手のオール二本のそばを通り抜けて、板敷を渡る。トレイルは右だが、左をとり、三ノ橋川沿いに小滝を見ながら小道をたどる。右に清流大神を見ることが、左へ岩の多い滑りやすい道を行く。ほどなく鞍部に着く。

右手に石積があり、その上に二つの石が仰向き並んでいる。この二石は山名と関係があるのか、それとも単なる同跡に

ドキュメントの文中には、「砂川の」源流を「石山(御荷山より東)に発し、高瀬川に注いでいた」とある。

山名の食い違いは出典の違いから生じたようであるが、明治期に深草村では御荷山の東方の山を「二谷山」と呼んでいたことがわかる。この地図の内容は、『深草西浦町略史』(平成8年)に紹介してある明治3年5月作成の深草村絵図と同じもので、当時、庄屋・年寄が実地立会いの上で描いたものという。

ドキュメントによると、南谷のお社で前の小川を瀬ると草木の流、一番上が末広の流、その先も頂上まで流れが続いている、と女性が話してくれたという。つまり、実際には、三角点線の両西から末広の流に流れてきた水は、鎮守池を経て七瀬川へ注いでいるのだが、地元では末広の流からの流れが砂川につながっていると考えられているのである。この食い違いが二石山の本当の位置のわかりにくさにつながっているようにも思われる。結論として、旗振りが行われたと伝えられる「二石山」は、三角点線に同定され、明治初期には「二谷山」とも呼ばれていた。一方、砂川の源流としての「二

石山」は、弘法ヶ滝の南側の90分ほどの小丘陵に該当するのかもしれないが、末広の流を砂川の源流と考えた場合には三角点付近の山々を指している可能性もあり、明確ではない。

特定のピークとしての「石山(もと、さざ)」は何らかの縁起と想われる。そこを源流とする川は長根寺川と七瀬川支流であり、砂川ではないことを指摘しておく。

今回、東福寺から旗敷地点の三角点に至り、権現山に寄らないで、石鐘寺方面に出るコースを紹介する。

京阪・JR東福寺駅から伏見街道(水町通)を南下して高架下をくぐる。「夢の浮橋 旗敷」がある。源氏物語にもなんだ命名という。東福寺北大門から入り、洛東園のそばから日吉ヶ丘高校の南側を通る。大雲院南谷別荘の案内を右に見たあと、次の止の手前に泉涌寺への道標が左手にある。ここは京都一高トレイル東山コース(本誌9号の巻頭の記事と「歩く地図京福野」を参照)にあたり、右に道なりに進むと、右手に大木のある五社大明神。正面が板道になる手前で右折し

すぎないのだろうか。右側にある谷沿いの道をとっても三角点に出られるが、その左手の竹林に「三角点」と記した竹があった。矢印の方向に道が見つかる。始めは薄暗いですがすぐに明るい良い道となり、やがて三角点に着く。展望はないが、かつて旗振りができたという明治時代を想像するのもよい。両側の道は二本あり、左をとって大左神社へくんだり、岩屋寺・山科神社から谷道を登って戻ってくることもできる。

三角点から右をとって南へ区根道を進めば、右手に祠跡の石積と古井戸を見たあと、権現大神の祠の前に出る。そこからくんだり、途中で左側にある西への近道をとれば、岩壁を背負った大岩大祠に出る。近道は不明瞭なので、鞍部までくんだり左をとってもよい。露岩に鎮座する大岩大神は大己貴尊(大己貴命)であり、雷災に対して靈験あらたかという。

雷災ただよう末広の流に下り、舗装道は登りとなったあと、再び下りで、右にある道標に注意して止い路通に入る。やがてコンクリート板を敷いた細い道となる。竹林を縫う竹乃下道を通りながら、伏見神宮神社、伏見御荷裏社・大社を

経て、京阪伏見御荷駅・JR御荷駅に出ることもできるが、秀吉時代の新しい砂川を築きに阿谷に出よう。

大岩大祠を過ぎて、トタン板に仕切られた弘法ヶ滝のそばを過ぎてすぐ、左手に竹を横に渡して囲った道が見つかる。その細い道をたどると厄除社の横に出る。その左手の方に八島大神がある。砂川の源流はこのあたりのようだ。西へ向かえば分岐がある。左をとり、右側の水流によりやく砂川らしき感じとれる。道なりに進むと草地で道標が現れる。右にはぬりこへ地蔵(もとは西方700分の標取院の増外墓地の途込めの御堂に安置されていた)があるのでこの名がついた。南側によく効くといふ)があり、左は石鐘寺(京福野の赤い門と五百羅漢で有名)に出られる。京阪深草駅またはJR福知駅から帰る。

(平成12年4月9日・22日歩く)

△コースタイム▼

京阪・JR東福寺駅(1時間10分)三角点峰(20分)大石神社(25分)三角点峰(30分)弘法ヶ滝(15分)京阪深草駅・JR福知駅  
△地形図▼2方5千川京福東南部



登山電鉄

回瀬谷山・大倉環湖コース 9月9日(小南送行)中止の理由は...

京福電鉄

▽北山ウイークデーハイキング 「北山・神楽山」 9月6日(雨)...

南海

▽南海・近鉄・鶴岡合同企画、金沢生駒紀勢レインボーアタック2000...

阪神

▽朝日・五私鉄リレーウォーク 「第4回」見沼から海峽の街開石...

分)「ホーム」東二宮駅ー鶴岡神社(愛宕)ー観音寺ー河津ー栗原院...

山陽電鉄

▽神鉄ハイキング「天満神社秋まつりハイイク」10月1日(雨)...

三岐鉄道

▽神座の山を歩こう「宇賀砂山コース」 9月3日(雨)...

三岐鉄道

▽近鉄宮田駅9時「ホーム」宮田駅(電車)大空駅(バス)...



町内に野山あるという10000  
以上の山岳を列記し、その中か  
ら代表的な山を厳選し、ルー  
トと所要時間、野草の種類と花  
期などが詳しくガイドされてい  
るのである。発行は飯沼野で、  
地元山岳会が協力している。  
観光パンフならともかく、こ  
れだけの登山ガイドを一つの自  
治体が作成しているという例を  
私はほかに知らない。「近頃の駅」  
には町内各地の仏像を紹介した  
ボクスターも掲示されていた。  
「村おこし」と称し、大半の  
市町村が入浴のイベントや自  
然環境の開発事業に狂奔する風  
潮の中で、ありのままの自然や  
文化財をのびのびに解説し、同  
時に観光にも役立つようという  
堅実な姿勢には、キラリと光る  
ものがある。(鷲見守廣)

5月23日、Y氏夫妻と朽木・  
巖原橋から登り山に登る。かな  
り難しいコースと危惧していた  
が、心配していたやぶもなく、  
適切な所に道標もあって、比較  
的短時間で登頂できた。  
巖原橋に出た所のお茶屋跡  
付近が多少迷いやすいが、切り

削かれたルートがあると念頭に  
置いておけば、戸惑うこともな  
い。

頂上にあつた風標に平良谷口  
へのルートが表示されていたの  
で、それをたどることにした。  
Y氏の先導で南方向の道(この  
道は途中で途切れており、イチ  
ゴ谷山へは尾根通しには容易に  
行けないようであった)をたど  
らなければならない。すぐ左に赤テ  
ィプがあり急な下りとなった。し  
ばらく行くとなだらかな歩きや  
すい尾根道になる。ルンルン気  
分であったが、尾根が切れると  
ルートもはっきりしなくなった。  
(ここまでは切り開かれたと思  
われる登山道)。前方の粗れ沢  
のような所をくぐっていくと、  
すぐ左に赤ティプがあり、踏み  
跡が見つかつた。くぐつてから  
しばらくは横いて行くが、最後  
はジグザグの急な下りとなって  
林道に飛び出た。途中で踏み跡  
が不明瞭になっていたり倒木で  
進路が邪魔されていたり、思  
いのほか時間がかつた。

休憩後、のんびりと林道をく  
だり平良谷口へ出たが、そこか  
ら巖原橋までの道道歩きには、

いささかうんざりさせられた。  
「近江百山」(オカニシヤ山  
屋)や「比良・朽木の山を歩く」  
(山と溪谷社)に掲載されてい  
るガイド通りに登つて往復もよ  
いが、ルートファインディング  
ができるなら、近回コースもよ  
いのではないだろうか。  
(山屋孝次)

念願だった花の伊吹山北尾根  
を、二年経けて初めました。  
昨年は8月12日、郡内風露を  
はじめ、姫風露・平露・比露  
草・山法師・梅花空木、一輪だ  
け咲つていた山吹草等を薬しま  
しました。

すれ違ふ人は「花が少ない」  
とお嘆きでしたが、私にとって  
は宝の山でした。優雅に舞う深  
山白蝶にも出会えました。  
今年は片栗田当で、5月4  
日に再訪しました。満開には少  
し早かつたようですが、たくま  
ん咲いていて大満足でした。甘  
菜・菫花甘菜・二輪露・翠々椿・  
藍草・富貴草・春虎の尾等の  
花も見られました。  
爽く残雪の白山を望み、駒鳥  
の石に聞き惚れ、最高気分

した。

所どころに藪が見られた山登  
業の賑々頃には、またいつか訪ね  
たいものです。(數木伸人)

山伏と八幡殿は冬に五湖を登つ  
ているが、西ヒックを結ぶ鞍線  
上の大谷嶺は未登なのでぜひと  
も登りたい。それも山梨県側か  
ら。

5月の連休に出かけたが、林  
道井田雨相線は冬期閉鎖中で長  
畑までしか入らず、サイラ雨畑  
の管理人は「長い林道歩きとな  
るので新緑の頃に来てください」  
と断る。この時は入浴だけにし  
て、翌日、高ドマキヨウと買ッ  
岳に登って帰宅した。

6月初旬、再び雨降る林道を  
走り、夕方行田山登山口駐車場  
に着く。後輪一本がパンクして  
いた。  
今朝さわやかな朝もやのなか、  
早川町が整備した作業道は本道  
で雨に濡れて滑りやすく、慎重  
に歩くこと1時間で2000年  
した。21世紀へ向かって、安全  
登山を祈願して下山した。  
(東谷 忠)

6月上旬、能勢の小和田山へ  
七面口から登った。皇太子殿下  
と小和田潤子さんの御遊覧の当  
時、大勢が登つたので道はし  
かりしていいと思つてはし  
かし、後半は雨除けフェンスに  
道を遮られ、何とか踏み跡をた  
どつても、イバラのやぶごきぎ  
強いられた。

内田源監著「京都丹波の山  
(上巻)」に、結婚の儀(3)・  
6・9)には、「私が頂上にい  
る間に120名近くの登山者が  
登つてきて云々」と書かれてい  
るが、頂上ではだれにも会わな  
かつた。下山は、しかりした  
千々畑コースを速攻した。

登山口・下山口はもちろん、  
途中にも小和田山へのルート  
を示す標識類が一切見当たらない。  
頂上に監視の痕跡が全く残つて  
いないのは実に奇異な思いを  
抱いた。  
ただし、頂上に「お疲れさま  
ここは小和田山頂標高6100・  
7です。火の用心。緑の地固消  
防器」と書かれた、古くからい  
標識が現在も直認してホッ  
とした。

明文社の「北摂の山々」(北

部)の地図で、これまでに登  
た山は9山となった。  
(東谷 忠)

山行短歌  
4月20日 北山小野村御岳  
薄緑のドレスを華者に否た君は  
霧にふるえしイワウケツツ溜

4月23日 南北七七頭ヶ岳  
数えてみた花の名前の指に余り  
雨澤池の真珠を飾るかに

4月29日 鈴鹿長石谷ヶ岳  
鈴鹿橋めざしどんどん谷詰め  
手によみがえる夏山の記憶

5月4日 湖北伊吹山北尾根  
明線の屋根にめざめよ交響詩の  
苦符らちらひめカタクリ群れて

5月5日 紀北後白味ヶ峰ノ峰  
月光の滴つ海陸は神の御手に  
下け渡されし塵の昇る道

5月11日 國久島宮之浦岳  
洋上浮かぶは風久島の奥の  
太古なだれし松と岩と川と

5月11日 ヤクスギランド紀元形  
縄文杉の森を創りし海の果て  
そのみなかみの南原陣園

5月16日 鈴鹿赤ヶ岳  
街のビルから僕たちを突き放ち  
光溢れハルリンダワの初夏  
5月18日 北山曇岳山

四日市市なすび製粉協会のハイク  
上野地・車道山へ 冬はスキー  
けそを滑りし頃の宿 白鹿園  
03399-1500  
〒339-0150  
長野県上野原町安曇野製粉協  
会 026-261-2600

さわやか信州  
露天風呂 山吹の露  
湯田中温泉 湯屋(宿)  
026-261-0400  
日野 風城 館  
〒388-0400 長野県日  
高市日野ノ内町湯田中温泉風城  
026-261-3378

標高2000m以上の温泉  
湯の丸湯峠自然体験林  
ハイキングにXCSキー  
026-261-0000  
長野県上野原町湯田中温泉  
026-261-2000

ハイキングにノスキーにノ  
上野原 石の湯 ロッジ  
バス 熊の湯 平床下草  
026-261-2421  
栗本本社 上野原町新宿3  
30-15(新井ビル)  
ゆきホーンサービス  
03-3641-1021

麓の道 千原商店  
「百八十七峰」標高原  
ホテル  
白馬ブランドシエ  
〒399-0900  
長野県北安曇郡白馬村いわたけ  
026-6172-4453

八ヶ岳南麓の中心地  
ゆきホーンサービス  
ゆきホーンサービス  
オーレン 小屋  
一泊2食付き 6000円  
〒399-0213  
長野県北安曇郡白馬村  
026-6172-1279

北八ヶ岳登山口、冬はスキー  
に最適、北八ヶ岳登山口ま  
で送迎します  
長野県  
ホテル カナール  
〒401-0301  
長野県北安曇郡上水内郡平井  
13の1  
026-661-6712

日本百名山の宿  
標高1000m  
森の宿のへん  
高梨山・高梨山登山口まで送迎  
026-261-0000  
長野県上野原町湯田中温泉  
026-261-2544



別荘者のごとく大断断たることも  
北の台杉突くこともなし

5月23日 北摂東山  
いまは山の中に瑣守の森より  
植務はるけき海都見ゆ  
5月20日 北摂大野山  
アルプスランド風情をみ候等を  
雲上に運ぶいい日いい眺め  
(木村太郎)

鞍山神社も電在車の手味も高  
取城跡。このコースを年に2回  
歩いている。

平成10年8月、鞍山神社を通  
り過ぎた地点で、大型犬と目が  
合ってしまった。私たちが犬の  
前へ来た時、待っていたように  
立ち上がり、歩み出した。首輪  
をしているので野犬ではないよ  
うだ。恐くて距離を置くことに  
するのだが、案内するごとくふり  
返りながらゆったりと先を歩い  
て行くではないか。冬野で直角  
に曲がり、犬が視界から消えた  
時、私たちは犬が先へ進んでく  
れることを願いながら、物陰に  
身を潜めていた。しばらくすると  
犬は戻って来て、私たちを深  
し当て、安心したように先を歩  
きだし、道案内してくれた。

この違いは何だろうか。私は  
これらの名札は山頂に散らばる  
ゴミと同じと考えている。ある  
山頂では、附板に名前を焼き付  
け同板も組み合わせて半畳ほど  
の大きさに地面に敷き、四圍を  
レンガで縁どりしたものがあっ  
たが、これなどは割れてしまえ  
ば始末の悪いゴミ以外の何物で  
もない。このような重積物を持  
ち帰るわけにもいかず、整理し  
て一か所に積み上げてきた。二  
度と登ることのないであろう、  
あの山の頂のあのゴミの山が今  
でも気にかかっている。

(山形 明)

今年の1月から2月にかけて、  
20日あまり風邪に悩まされた。  
その時の救いとなったのは、  
ファイルフリード・ノイスの「エ  
ヴニェスト」と、ヘルマンブー  
ルの「八千米の上と下」である。  
いずれも手に入れた当初に読み  
かけてそのままになっていた本  
である。ノイスの「エヴニェス  
ト」は、私のなかに深くくさめ  
を打ちこんだ。余韻めやらめ  
時に、マロリーの「遺体発掘記」  
を書店で見てもわくわくして入手

山の中では犬も寄り道をする  
ので、斜面を歩いていると急に  
後からやってくる。私の体を谷  
へ押しやり、必ず山側を走り  
抜けて行く。私は三回も悲鳴を  
上げてしまった。

とてもおとなしい犬で、食事  
の時は少し離れた場所まで、じっ  
と待っており、差し出すまで欲  
しがたりしない。草が茂り道  
を塞いでいる所では、犬に導か  
れ助けられ、しまいは頑るよ  
うになっていた。芋峠手前で犬  
が走り去った時には、本来の道  
から外れてしまっていた。

(前川和佳子)

小生の企画した山行に参加さ  
れた方へは小生の個人記録を毎  
日送っている。  
名古屋の近藤徳夫先生と知り  
会ってから山行の記録を毎回送  
すように努めてきた。それを同  
かの参考にと郵便もしくはファ  
クシミリで送っている。  
最近ではファクシミリの導入が  
二、三割の家に進んだようだ。  
しかし、何故か、と思うのは手  
動切り替えをされている家庭が  
ほとんどだということである。

した。もしかして世にエヴニ  
スト症候群という病があるの  
なら、私は運まきながら罹患し  
たことになる。

ある日、三宮で目に留まった  
ジョン・ハントの「エヴニェス  
ト登頂」は五千円の値がついて  
いるうえ、ポロポロなので、か  
わりにメスナーの「エヴニェス  
ト」を買った。数日後、大阪で  
同じハントの本が見つかり値段  
を見るに倍近くする。三宮でとっ  
てかえし、痛んでいても安いほ  
うを選んだ。  
しかし、手許に置くなら薄汚  
ないが本より古びているだけ  
のキレイな本がいいではないか  
と、ケチな言いまじい思惑やら  
優柔不断などが入り乱れたが、  
そのうちに日が経ち返本する機  
会を失った。(藤村静彦)

山行盛衰

5月2日 津田山  
春風に糸をたらしうらやまな  
雲に希望渡氏何がつれるの  
5月3日 滝谷山・サンヤリ・  
天狗堂  
滝谷はシャクナゲの花がウチワ  
タムシバ咲き心洗れる

手動だと留守の時や夜は寝がら  
ないし、切り替えミスで電話が  
切られることがとても多い。  
留守の時や夜中でも連絡が  
入れられるのが「ファクシミリ」  
のよきではないだろうか。設定  
するごとに、ベルを鳴らさ  
ないで連続でき、またベルの回  
数も調整できる。ファクシミリ  
の切り替えは常に自動に設定し  
ておいて欲しいと思う。

(山田明男)

関西の山に登ってまず目につ  
くのは、山頂の木に多数ぶら下  
がる登頂の名札。田圃に彫刻を  
施した大きくて立派なもの、印  
別紙をビニールコーティング  
した永久保存版のものなど……  
さまざまの名札が木の幹に粗や  
鉄線で頭丈にくくりつけられて  
いる。それともう一つ、ほとん  
どの三角点標石の頭が欠けてい  
るのではないだろうか。関西の  
山に登っていると、有名な山・  
無名の山・ポピュラーな山・静  
かな山の、どの山に登っても山  
頂にこのような名札など一枚も  
ない。標石の欠けているものも  
まれである。

天狗堂大岩の上イワウチワ  
ピンクと白の可憐な競演

5月5日 横須津峰  
シャクナゲがあふれるように咲  
き乱れ 横根の峰は花の枝線  
最高峰ミズバジリでんごもり  
風香る中岩壁に立つ  
5月7日 御金明神  
谷深く山も険しい深山の  
怪石奇岩は御金明神  
峰上に開洋橋金の磐安殿  
義経如來の華跡と聞く  
5月11日 近江カルスト花の里  
庭村のオドリソウの賑わいは  
昔を思ふ無言の響き  
青を思ふ無言の響き  
ルリ色のホタルカズラとヤマ  
リソウ 新緑の中鈴やかに咲く  
5月14日 奥山・二四岳  
奥山をピンクに染めて咲き誇る  
シャクナゲの花 翠華岩塊  
5月31日 ダイジョウ・鏡子・  
イブネ  
ヤマシヤクヤタの白玉の花咲き  
誇る 秘境の谷は極上森林  
新緑の熊の爪上知を  
クマタカ一羽悠然と舞う  
冬枯れのイブネの原に咲き誇る  
ハルリンドウは村か紫  
5月23日 近江カルスト花の里  
クリンソウカルストの里咲き誇る

日本唯一の女人禁制の山「大  
峰山」(合志山)の登山口  
御村ヶ岳(女人ヶ原)もあり  
温泉・名水あり

旅記の匡屋裏八  
泊2泊付 7,000円から  
T0930-4311  
奈良県野間町大野山  
07476-10309  
屋久島安房登山口  
屋久島グリーンホテル  
T0991-4311  
鹿児島県志布志市久野安房  
0997-4613021

御在所登山に  
愛知川谷谷歩きに  
止野き神門の集う宿  
朝明茶屋 朝明茶屋  
山小屋 T510-1251  
T510-1251  
三宮西三所池野野町千草  
0593-931788

サービステーションを利用する  
ときは、電話か往復ハガキで  
必ず予約を下さい。  
予約のときに料金を確認して  
下さい。

七段花と村人は言う  
6月4日 日本コバ  
鈴鹿の明神岩はホトトギス  
鈴く鳴いて樹海を渡る  
(岩野 明)

わが家には関係がいて、彼女  
とはよく山へ出かける。その彼  
女は旅先で時々怪宅を拒んで消  
えることがある。彼は、彼女が  
消えたことさえ知らず、旅先か  
ら保護したという連絡を受けて  
初めて気づくという苦悶者であ  
る。彼にはくれぐれも注意する  
ように言っているが、あまり効  
きめはないようだ。そのため、  
せめて彼女には名札を付けるよ  
うにすすめている。  
今度も、水ノ山の山頂で別れ  
てしまった彼女を、警察から連  
絡があり、名札のおかげで無事  
引き取るこができた。  
いつもドタバタ劇を繰り返す  
彼女だが、わが家にとって欠く  
ことのできなない人気者である。  
彼女の名前はコンパクカメ  
ラである。(須藤 明)  
(忘れ物) 3月26日(27日)夜  
嵐山と段ヶ峰 例会の帰路、バ  
スにゾクゾクカバを忘れた方。

(著とし物) 5月25日15時頃、  
 六甲第一宮町下千町「おおしの  
 村」付近で「ふるさと大塚山」  
 の本を落とされた方。左記まで  
 連絡ください。  
 〒671-1126  
 姫路市東区上全部部  
 築路岡橋まで

国土地理院では、自然地名の  
 統一を図るために、「標準地名  
 集(自然地名)」(昭和56年版)  
 と「20万分1地勢図基準、自然  
 地名集」(平成3年)を出版し  
 ているが、今西路司氏が「いっ  
 たいいつにならたら二万五千分  
 1一図に出てる地名までが対  
 象になるのか?、いささか心細  
 い」(1989年)、全集第13巻、  
 536頁)と危惧されていた。  
 2万5千分の1地形図にある全  
 地名の読み方の提供が、最近、  
 ようやく実現したので、ここで  
 お知らせしておこう。

平成12年1月に発行された  
 『数値地図250000(地名・  
 公共施設)』(国土地理院)はC  
 D-ROM版で、長らく待望さ  
 れていた、2万5千分の1地形  
 図データの全面地名の読み方を収  
 録している。これは、国土地理  
 院測図部調査資料課地名情報係  
 が収集したデータであり、地名  
 調査の正確さと異なる読み方も多  
 いようである。山名・村名に関  
 しては、若十、明白な読みも見  
 られるが残念であるが、今ま  
 で整備されていなかったことも  
 あり、パソコンによって、いく  
 らぬ検索が可能であり、真正  
 な財産となっていくことであ  
 る。価格は7500円で、日本  
 地図センターが発売しており、  
 全国主要書店で購入できる。  
 実は、類似のものは、すでに  
 金井私太氏によって作成され、  
 地名三部作(全6巻)および、  
 地図で見える「日本地名索引」  
 (マホックス社、CD-ROM版、  
 1988年)として発売されて  
 いたが、高価であり、地名の読  
 み方については文献や地名によ  
 る確認を経たものではないなど、  
 同一地名にいくつもの読み方が  
 示されていて混乱の場合も見ら  
 れる。また、山名だけを抽出す  
 るといった条件分類ができない  
 などの制約があった。

国土地理院のものには、その約  
 十分の一の手頃な価格であり、  
 条件分類ができるなどの利点も  
 多く、資料的な価値は高いとい  
 える。できれば、「日本山名読  
 覧」のように、書籍の形で手軽  
 に行われて、地名資料が手軽  
 に利用できるようなれば、地理  
 院の地名に終るべきではないだ  
 ろうか。日本人が地形図を見て  
 すべて地名を正しく読めない  
 というのは、おかしなことであ  
 り、地形図の地名のローマ字表  
 記を可能にしていく基礎データ  
 の整備の第一歩として、「数値  
 地図250000(地名・公共施  
 設)」の発行を欲望したい。

「近畿百名山を登る」と題し  
 て山行例会を実施しているが、  
 その山域は、若狭・丹波・因但  
 国境から奥富野・紀南まで、近  
 畿と一口に言ってもその範囲は  
 かなり広い。  
 昨年4月11日の尼ヶ岳・大南  
 山から始めて、日帯りを主体に  
 泊まりも含め、最近7月2日に  
 登頂した宇能堂山まで合計18山  
 を数えた。百名山に選定された  
 だけあって、さすが登ってある  
 とどの山もよかったです。多くの自  
 然に出会い、山頂の風景にも驚  
 まれ大満足である。  
 多数の参加者といっしょに登  
 りたいので、原則的にマイカー  
 山行ではなく、電車やバスを利  
 用して行くことにしている。そ  
 のため、計画するのに頭を痛め  
 る山もあり、全てを完了するま  
 では、まだ十年位かかりそう  
 である。  
 ビークハントに終始しないで、  
 周辺の風物ともふれ合って歩く  
 つもりである。(村田智俊)

### 山行計画 (9・10月)

このページの山行計画には、「公日に限る」と特記して  
 あるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往  
 復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに別  
 着するように申込み先に申し込んでください。電話・F  
 AXでの申し込みは必ずお申し込みください。お申し込み  
 加次後代その他の資料代金をいただくことがあります。  
 山行申し込み後参加できなくなった場合はご連絡してくださ  
 い。体別の扱い方、幼児と預け入りはお断りします。

同会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、保  
 険に保険料日額50円と救護対策費日額50円(合計100円)(夜行日知りの  
 場合は2日にあたり100円)を支出していただきます。  
 死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
 入院保険金額 5000円  
 通院保険金額 2500円

保険の対象は乗合時から降車時まで。事故があった場合は解散までに  
 係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①  
 ビックル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・フカンを持参す  
 ることを明記した山行 ②スキー・使用の山行 ③沢・岩・水雪登はんを  
 目的とした山行 ④泊泊所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)  
 (往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の  
 住所氏名と「様」を記入して  
 ください。

週末ハイク  
 キャンプ&ハイク  
 比良・八潮の滝から武峯ヶ岳  
 (中級向き)  
 期日 9月2日(日)・3日(月)  
 泊2日  
 集合 9月2日 J&近江高島駅  
 15時30分(マイカーの人  
 も)  
 コース ①(2日)近江高島駅(バ  
 ス)②ガリバー旅行村(常  
 設キャンプ)  
 ③(3日)旅行村一八町の  
 滝一八雲ヶ原・武峯ヶ岳  
 一畑川越一大瀬野(旅行  
 村)バス④近江高島駅  
(解散)  
 費用 約5500円(バス・前  
 泊・飲食代等)  
 地図 昭文社『比良山系』  
 ①②③④  
 申込先 0570-01000  
 城陽市寺田大塚10の10  
 新ハイキング園西まで  
 ●受付40名(会費に限り)  
 ●マイカー参加の方は申  
 し込みハガキに明記した  
 さい  
 \*8月25日まで  
 恒例になりました夏の終わりの

山行例会の実施について  
 山行例会は保険を付けたら、  
 登山届を提出しますので、実  
 施日の7日前までに上記記入例  
 の通り、必ず往復ハガキで申し  
 込んでください。人数により前  
 もって、バスなどをチャーター  
 する必要があります。また山で  
 はいかなる事態が発生するかも、  
 緊急連絡先など、記載すべき事  
 項はもれなくご記入ください。  
 申し込みの返信案内は担当が  
 決まり次第、山行日の10日前頃  
 にします。早くから申し込みま  
 した方はそれまでお待ちください。  
 定員のある計画は先着順に受  
 け付けます。  
 記載のグレードは、常日頃山  
 歩きに親しんでおられることを  
 前提にしています。  
 (初心者向) やさしいコース  
 (初級向) なたでも歩けます  
 (一般向) ハイキングの標準コース  
 (中級向) かなり経験者のコース  
 (やや健脚向) (健脚向) は、  
 危険な所があり、キツイ登りや、  
 くだりが長く続くコースと、こ  
 理解ください。

キャンプ&ハイクを今年も開催します。雨天決行

リトル比良・岩阿沙利山 (二般向き)

期日 9月3日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
6時30分/JR近江宮崎  
駅10時25分

コース 近江宮崎駅(バス)音羽  
→丹波野宮→岳山→岩阿  
沙利山→岩阿峠→岩阿  
JR北小松駅(解散16時  
引分)

費用 約2500円(名指票か  
ら、賞券付き)※使用)

地図 明文社「比良山系」  
①小出良登 ○中村英雄  
〒610-0121  
城陽市寺田大陣10の10

期日 9月6日(水) 日帰り  
集合 大阪駅池田山線7時15分  
発に乗車(途中乗車可)

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

滋賀県側からでも面白いイブネ・  
クラシ・純子のトライアングルを  
歩きます。雨天中止

平日ふれあいハイク22  
北山・鹿村八丁から三谷山  
(二般向き)

期日 9月12日(日) 日帰り  
集合 高野山町朝陽バスター  
ミナル7時40分(50分差  
に集合)

コース 出所神社(バス)音羽→  
ダンノ峠→四郎五郎峠→  
八丁スモミ谷→三谷山  
(解散16時頃)

コース 藤山口駅(バス)火打岩  
→水飲み場→三岳→小全  
ヶ丘→コルー車道出口→  
火打岩(バス)藤山口駅  
(解散16時頃)

費用 約3700円(大飯から  
2万5千1割山・村舎  
係) ①湯浅次男 ○青木一雄  
〒569-1138  
高槻市山西町1の18の20  
湯浅次男まで

自然観察山行  
雲道・鍋釜山(二般向き)  
期日 9月9日(日) 日帰り  
集合 JR大塚駅8時40分  
コース 大塚駅(バス)六合→高  
橋谷→鍋釜山→長者の  
里(バス)入道駅(解散  
費用 約3500円(大塚駅か  
らバス・資料代等)

地図 2万5千1割山・村舎・  
谷波・池野  
係 ①湯見守康  
〒504-10828  
各務原市藤原村野町の  
19の5 湯見守康まで  
\*定員30名  
\*8月31日まで

コース 湯見守康から三谷山・スナ  
ラの原を歩きます。自然観察と  
写真撮影に伴う不規則な歩き方が  
苦にならない方へ参加ください。  
小雨決行

鈴鹿を歩く101  
橋本連峰(健脚向き)  
期日 9月10日(日) 日帰り  
集合 河内線「河内国六」の手  
前寺院広場8時30分  
コース 広場(車)現存林道五  
分分岐→橋本→橋本  
→西野→ツツノ峠→五  
分分岐(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社「近畿・伊吹・  
備前」  
係 ①西野 明  
〒610-0121  
城陽市寺田大陣10の10  
新ハイキング関西まで  
マイカー山行

鈴鹿らしい樹林からシャクナゲ  
や赤松の細い岩稜。随所で展望も  
得られ変化に富んだコースです。

期日 9月15日(日) 日帰り  
集合 JR大塚駅8時30分  
2泊3日  
コース (15日)大塚駅(バス)  
→橋本(バス)→三谷山  
→白峰荘(解散)  
(16日)宿→主殿峠→東  
屋山→東屋峠→東屋峠  
→高野山ホテル(泊)  
(17日)ホテル→水ノ塔  
山→登山→三方ヶ峰  
→地蔵峠(バス)大塚駅  
(解散16時頃)

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

地図 2万5千1割在所山  
係 ①山田明男 ○高野秀彦  
〒503-0828  
海津郡海津町松山19の19  
山田明男まで  
\*定員20名

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)  
朝明駐車場→伊勢谷→根  
の平峠→クラシ谷→クラ  
シ→純子イブネ→上水  
呂谷→根の平峠→朝明  
(※)近鉄湯の山温泉駅  
費用 車代5000円(交通費各  
自)

望と高山の秋を楽しみます。  
雨天決行(コース変更あり)

但馬・瀬ノ山と湯村温泉

期日 9月17日(日) 日帰り  
集合 JR西明石駅前新幹線出口  
7時50分(8時発)  
コース 西明石駅(バス)ふれあ  
い広場→瀬ノ山→ふれあ  
い広場(解散20時頃)  
費用 約5,100円(バス代込)  
地図 2万5千1幅ノ山  
係 ①井上 保  
申込み 〒677-4100 57  
明石市大久保町高丘3の  
1・20の101 井上保まで  
\*定員27名(会費優先)

ブナ林のなかを歩きます。\*マ  
イカー参加は別枠で受け付けます。  
申し込みハガキに明記ください。  
雨天決行

鈴鹿・竜ヶ岳(一般向き)  
期日 9月17日(日) 日帰り  
集合 近鉄名古屋駅北口8時30  
分/近鉄富田駅9時10分  
コース 三枚松平大交(タクシー)  
宇賀原→ホタカ谷入口→

分レ滝→泉嶽→豆路→電  
ヶ丘→石神峠→長尾尾籠→  
五階滝→ホタカ谷入口→  
宇賀原(タクシー) 大安  
駅(解散17時頃分)

費用 約3,300円(名古屋駅  
から)  
地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
蓑原」  
係 ①小出良春 ②廣東 邦  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

イブキササの山頂からは360  
度の大展望です。下山は沢道を渡  
り返していきます。長尾滝・五階  
滝はすばらしい滝です。雨天中止  
北山ちよつと歩き  
京都西山  
ボネン山から釈迦岳  
(一般向き)

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR高槻駅北口8時20分  
コース 高槻駅(バス)上の口→  
神峰山寺→本山寺→ボネ  
ン山→釈迦岳→大沢→  
小倉山→天王山→JR大  
山崎駅(解散16時頃)

新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

アミダ峠から北東の宮川(急川)  
エチガ谷山合にのびる長大な尾根  
ほとんど知られていない大知の秘  
線にアタックします(ささやぶあ  
り)。雨天中止

三河・宇連山(一般向き)  
期日 9月24日(日) 日帰り  
集合 JR名古屋駅中央改札口  
7時00分  
コース 名古屋駅(電車)豊橋駅  
(電車)三河植原駅→泉  
民の森→西尾根→宇連山  
→下石ノ滝→奥民の森→  
三河植原駅(電車)名古屋  
駅(解散17時頃分)

費用 3,780円(名古屋駅か  
ら)  
地図 2万5千1海老・三河本  
郷・三河大野・熊  
ヶ小出良春 ②朝倉利巳  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
岩壁が交錯する長い尾根の展望  
コースで、周回はすべて山と川  
すばらしです。下山の下石ノ滝  
もよい。雨天中止

費用 約1,000円(大阪起点  
交通費)

地図 昭文社「京都西山」  
係 ①奥山繁三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
京都西山コースのメインルート  
をのんびりと歩きます。雨天中止

新ハイキング特別企画

マッキンリー展望ホテルと  
アラスカ紅葉ハイキング  
期日 9月28日(日) 28日(休)  
6泊(機中2泊) 7日間  
集合 関西国際空港午前  
行 程 ①22日 アラスカへ  
②23日 リトル・コール  
クリーク・ハイキング  
(約4時間)  
③24日 テナリ州立公園  
滞在(マッキンリーの観  
望と自然観察ハイキング  
などオプショナルツアー)  
④25日 水河が流れ込む  
ポーター湖からアラス  
カリゾートへ  
⑤25日 クロウ・クリー  
クハイキング(約5時間)

地図 丹波・半田山(一般向き)  
期日 9月24日(日) 日帰り  
集合 JR亀岡駅前バスのりば  
9時00分  
コース 亀岡駅(バス)赤熊→地  
蔵堂→半田山→あり渡分  
岐→金輪寺→中野(バス)  
亀岡駅(解散)

費用 約3,500円(大阪起点  
交通費)  
地図 2万5千1植生  
昭文社「北摂の山々」  
係 ①塚元一彦 ②中村 登  
申込み 〒536-0008  
大阪市城東区園日4の9  
の901 塚元一彦まで  
\*定員30名  
\*9月19日まで

新ハイキング関西支部合同  
播磨・丹波・摂津の三国の半分ず  
つが見えるところからこの名がつ  
いた山です。地図とコンパスの勉  
強をしながらのんびりと歩きます。  
初心者歓迎(シルバード型コンパ  
スと指定の地図を持参ください)。  
雨天中止

三重・青山高原(一般向き)  
期日 10月1日(日) 日帰り

②7日 シアトル群山編  
国の達人  
(26日) 午後大阪着  
3,800円

費用 3,800円  
係 ①湯浅俊男  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*9月10日まで(申し込み込  
みの方には詳しい情報等  
を案内します)

(主催・問い合わせ)  
アルパインツアーサービス大阪  
支店 番り6(6444)3030  
絶好のシーズン。カラフルに染  
まる秋のアラスカの大地にはペリ  
ーが来る。産卵のために湖上するサ  
ケの群れやオーロラのチャンスも  
あります。係のほかにツアーリー  
ダーが同行。

三重の山53  
鈴鹿・竜ヶ岳(一般向き)  
期日 9月22日(日) 日帰り  
集合 近鉄湯の山温泉駅前8時  
30分  
コース 湯の山温泉駅(車)一の  
谷茶屋→三ツ口谷山合→  
三ツ口谷大滝→磯原→鎌  
ヶ岳→居峠→大屋の滝→

集合 近鉄名古屋駅北口7時10  
分/近鉄東青山駅9時00  
分  
コース 東青山駅→滝見台→沢道  
→三角点→丸山高原→尾  
根道→滝見台→四季の里  
→東青山駅(解散17時頃)

費用 2,700円(名古屋駅か  
ら)  
地図 2万5千1佐田・二本木・  
伊勢路・阿保  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*集合駅を明記ください  
\*ススキのなかを歩く秋の高原ハ  
イクです。雨天中止

京都北山歩き3  
天ヶ橋から大原(一般向き)  
期日 10月1日(日) 日帰り  
集合 出町筋駅8時30分  
コース 出町筋駅(電車)鞍馬駅  
→美土坂→天ヶ橋→鞍馬  
広原→シャクナゲ広原分  
岐→杉山分岐→鞍馬広  
原→大原バス停(解散16  
時頃)  
費用 約1,000円(京都から

白砂の河原→長谷介分岐  
一の谷茶屋(解散)

費用 1,500円(交通費各自)  
地図 昭文社「舞在所・鎌ヶ  
岳」  
係 ①尾崎英五 ②新町幸夫  
申込み 〒513-0843  
鈴鹿市平田東町4の5  
尾崎英五まで

ホビュラーなコースです。水に  
恵まれた沢沿いの三ツ口谷を登り  
長谷谷をくだります。小雨決行

鈴鹿を歩く102  
芥川谷茶屋(船瀬向き)  
期日 9月24日(日) 日帰り  
集合 河内親興神社前8時30  
分  
コース 神社前(車)中村→P5  
97→P6→P7→P  
627→杉峠→丸山→  
向倉越→桃屋→アミダ  
峠→杉峠→八重葎→栗  
栖(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社「三重・伊吹・  
蓑原」  
係 ①宮野 明  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

2017年  
9/24(日) 300円(8時)

2017年  
9/22(日) 2,700円(8時)

2017年  
9/16(日) 3,800円





**山行報告**  
(5・6月)  
新ハイキングクラブ編

**奈良・経ヶ原山**  
5月3日(祝)晴れ  
近鉄奈良駅南口集合9・40(バス)  
下尾10・38(観音寺)10・45(55)  
宮前山11・30(経ヶ原山)11・50(熊)  
12・30(夏鳥)13・05(大)  
13・30(細腰)15・25(流石館)  
45(冬鳥)16・15(25)流石館社  
16・45(17・07(バス)阪井  
17・35(観音寺)  
(参加者)木村 豊 中島日出雄  
柳川龍雄 永高博子 中村和江  
保田 正 高木 晋 飯田愛子  
原田夏子 福井清之 松本康成  
三浦弘幸 藤田健一 美村孝治  
美村三枝 木下照子 妹尾一正  
(計16名)

**滝谷山・サンヤリ・天狗堂**  
5月3日(祝)晴れ  
(鈴鹿を歩く8)  
若々畑集合8・30(志)ミノガ峠  
9・00(滝谷山)9・55(サンヤリ)  
12・00(天狗堂)12・45(天狗堂)  
45(宮前山)14・55(若々畑)15・25  
(解散)  
滝谷山の周辺にはシヤクナゲ・  
イワウチワ・タムシバの花が咲い  
た。早朝から霧雨となりガスにお  
おわれた。天狗堂では大石の上に  
ピンクと白のイワウチワが生ず  
ていた。宮前山の道標は古びた  
ブナの大木が緑き新緑を呈し  
た。  
(参加者)後藤幸平 伊藤孝久男  
吉藤孝次 西内正弘 森本 勝  
森本淳子 吉岡 仁 瀬木原孝子  
水谷敏之 緒方由子 石田貞由美  
樺田勝利 今井武司 武藤由美子  
河辺俊男 神野孝允 茂合ひろ子  
(計35名)

**谷 守 磯部 純 約地たか子**  
5月3日(祝)5日(祝)2泊3日  
(今日)晴れ JR・南海橋本駅  
集合10・00(バス)高野山奥の院  
12・00(15(バス)立前神社)12・  
50(飯盛)13・20(古釜)13・  
40(寺王)14・00(飯盛)14・20(入  
谷)15・30(バス)恩善野自然の  
里16・30(泊)  
(今日)晴れ 自然の里7・00  
(バス)大股登山口8・40(泊母  
子)11・00(飯盛)11・50(泊母  
子)12・00(流石)12・40(50)  
15(古釜)14・50(15(バス)十  
津川温泉)16・30(泊)  
(今日)晴れ 徳島7・00(バ  
ス)アリノ越9・00(牛廻山)10・  
00(10(大峠)10・40(45(峠の中  
の広場)11・00(飯盛)11・35(五  
味垣)11(高橋)13・20(バス)沼津  
農林宿)13・40(入谷)14・50(バ  
ス)護国神社駐車場15・00(護国  
神社)15・20(駐車場)15・40(バス  
16・30(泊)

**北嶽・中山連山**  
5月5日(祝)晴れ  
飯巻山本館集合10・00(55)満願  
寺分岐10・35(狭尾)10・55(4等  
三角)11・15(中山)12・28(飯巻  
13・10(28)院)13・41(46(大林  
寺)14・08(遊楽)14・38(50)  
15・00(遊楽)15・00(解散)  
酒類等分岐からの道でひと汗  
かくとベースのり、熊野町のサ  
フリーダーに遅れることなく全  
員の足並が揃った。ヤマウツシの  
盛りが過ぎていたことかちよつと  
残念。多くのガイドブックにある

清流から降り山本にくるのよ  
り、今回のコースがよい。急な岩  
場を渡れた足で、急な岩場より、体力  
に余裕のある前半に登ったほうが  
危険が少ない。(記録・兼良 力)  
(参加者)宮下晋一 野田マツヨ  
古橋孝次 木岡 隆 国原義雄  
尾花明男 兼良 力 藤田愛子  
辻村孝治 恩田厚子 中庭美穂子  
村井 武 杉村安代 ○兼良 邦  
○小山良香 (計16名)

**大須賀 直 ○三井社**  
5月7日(祝)晴れ  
近鉄奈良駅集合9・50(10・00  
(バス)観音寺)10・55(局々)神社  
11・15(25)白雲山道)11・50(一  
ガレ)12・00(小峠)12・40(局々)  
13・00(飯盛)13・50(小峠)14・  
05(新道登山口)14・45(50(局々)  
15・15(20(局出)15・48  
(バス)松原)16・40(解散)  
山頂は360度の展望が開け、  
美しい山々が連なっていた。登り  
は旧道を、下りは新道のシヤクナ  
ゲ道を歩いた。花の種類も多く、  
花弁と葉の美しい山だった。  
(記録・徳田博子)  
(参加者)飯田愛子 兼良 邦  
保田 正 田中 明 小林伊佐子  
長谷川天 藤田博子 黒川由子  
小杉 浩 木村和江 高川久美子  
森 晴代 和田直樹 伊藤佳子  
飯田勝利 三井社 伊藤マツロ  
飯田厚子 中庭美穂 山本孝子  
石本節子 鈴木 剛 東 文智子  
石本節子 鈴木 茂 原本英子  
美村孝治 松井和子 若原英代子  
高田明子 ○兼良 邦 (計21名)

**小山良香 ○白雲院**  
5月10日(祝)晴れ  
JR奈良駅集合8・00(15(バス)  
村井9・00(登山口)9・20(松本  
地蔵)9・50(牛ノコ)10・40(原相  
子)11・20(10(倉房)11・40(飯盛  
12・45(中岳)13・00(南岳)13・20  
(10(半井)14・40(野瀬)15・15・  
05(バス)飯田)16・00(解散)  
ブナの新緑が清々しく感じられ  
た。南岳近くでは色の濃いシヤク  
ナゲが見事に咲いていた。晴天統  
さで道が乾いていて歩きやすか  
た。  
(参加者)石本節子 木本志子  
木村 豊 中庭美穂 千葉千枝子  
妹尾一正 藤井孝子 高野由美子  
本岡 隆 原 正志 夢野厚子  
宮下晋子 保田 正 東山登夫  
飯田厚子 藤田博子 小林伊佐子  
加藤三郎 藤田孝子 中上代子  
辻 行子 白根博子 藤澤多美子  
谷 守 北川史枝 光川 英子  
高良乃子 眞田久子 ○兼良 邦  
(計30名)

**週末ハイタツ**  
5月13日(祝)曇り  
JR近江高野駅集合8・55(9・  
05(バス)高野)9・25(40(10(コタ  
ニ)10・25(35(アノ)10・50  
(ボボ)11・00(蛇谷)11・  
50(飯盛)12・50(朽木)13・00(倉  
の森)14・00(高野)14・00(倉  
14・45(朽木)15・15(21  
(バス)聖田)16(解散)  
蒸し暑さのなかをヨコタニ峠に  
登ると、蛇谷々々までは爽やかな  
風を受ける涼感歩きに変わった。  
足袋時には雨が降ってきて、朽木  
村や掛御前を渡った。予定を変更  
し、てんくう温泉へくたつて着席  
者は入浴を楽しんだ。  
(参加者)三井社 高田久美子  
高橋 隆 上田久子 岩田晋正  
高田厚子 中村静香 本岡 隆  
今井武司 船越明男 船越みよ子  
原 光一 秋田博樹 原谷佑美  
山本孝子 飯田勝利 美村孝治  
谷 守 松本忠雄 中庭美穂子  
加藤三郎 森 晴代 則定博夫  
山口雅明 上田正子 ○兼良 邦  
(計30名)

# 山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- \*1 利尻 羅臼・利尻 阿蘇
- \*2 ニセコ 千代山
- \*3 大雪山 十勝岳 穂高岳
- \*4 十和田湖 八甲田山
- \*5 八幡平 妙高 妙高
- \*6 奥羽 奥羽
- \*7 蔵王 蔵王
- \*8 奥羽 奥羽
- \*9 奥羽 奥羽
- \*10 奥羽 奥羽
- \*11 奥羽 奥羽
- \*12 奥羽 奥羽
- \*13 奥羽 奥羽
- \*14 奥羽 奥羽
- \*15 奥羽 奥羽
- \*16 奥羽 奥羽
- \*17 奥羽 奥羽
- \*18 奥羽 奥羽
- \*19 奥羽 奥羽
- \*20 奥羽 奥羽
- \*21 奥羽 奥羽
- \*22 奥羽 奥羽
- \*23 奥羽 奥羽
- \*24 奥羽 奥羽
- \*25 奥羽 奥羽
- \*26 奥羽 奥羽
- \*27 奥羽 奥羽
- \*28 奥羽 奥羽
- \*29 奥羽 奥羽
- \*30 奥羽 奥羽
- \*31 奥羽 奥羽
- \*32 奥羽 奥羽
- \*33 奥羽 奥羽
- \*34 奥羽 奥羽
- \*35 奥羽 奥羽
- \*36 奥羽 奥羽
- \*37 奥羽 奥羽
- \*38 奥羽 奥羽
- \*39 奥羽 奥羽
- \*40 奥羽 奥羽
- \*41 奥羽 奥羽
- \*42 奥羽 奥羽
- \*43 奥羽 奥羽
- \*44 奥羽 奥羽
- \*45 奥羽 奥羽
- \*46 奥羽 奥羽
- \*47 奥羽 奥羽
- \*48 奥羽 奥羽
- \*49 奥羽 奥羽
- \*50 奥羽 奥羽
- \*51 奥羽 奥羽
- \*52 奥羽 奥羽
- \*53 奥羽 奥羽
- \*54 奥羽 奥羽
- \*55 奥羽 奥羽
- \*56 奥羽 奥羽
- \*57 奥羽 奥羽
- \*58 奥羽 奥羽
- \*59 奥羽 奥羽
- \*60 奥羽 奥羽

※昭文社の「山と高原地図」は年間恒として毎年  
新編発行します。この山の情報はなるべく最新  
なものを採用するよう努めてまいりました。  
※2009年版は「大雪山」「奥羽」「奥羽」「奥羽」  
「奥羽」「奥羽」を全面改訂し、新刊として  
「奥羽」「奥羽」を刊行しました。

**昭文社**

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1  
電話03(3566)8111(代) 〒102-8238

支社 大阪市淀川区西中島6-11-23  
電話06(6633)5721(代) 〒532-0011

(インターネットで情報発信中)  
http://www.shoin.co.jp/

樺太神社集合8・30(中)小岐須  
渡谷山の家駐車場8・50(大)大石橋  
9・15(大)水鏡10・20(東)海蔵堂11・  
25(北)龍巻山11・40(夜)12・  
20(小)社林15・50(小)岐須林道終  
点14・50(大)大石橋15・30(小)岐須  
渡谷山の家駐車場16・00(解)解  
登りてこの山にはあらずらしいコ  
マドリの声を聞く。シロヤシオ・  
アカヤシオ・イワカガミ・ツクバ  
ネソウ・テウユリ・シヤクナゲ・  
ツツジ各種を連続で見ると、ガスが  
流れるたびに変化する新緑の山々  
を堪能する。ブドウのような濃紫  
色の切り花は、園路によるとミツ

パフェでした。  
(参加者)和田西郎 石田真由美  
橋川典子 小堀野男 岡本美千子  
川本隆 ○新野平太  
○尾崎英五 (計8名)  
北嶺・御座山  
(地図読み山行) 5月14日(日) 晴れ一時雨  
坂部池田野火ミミナル集合8・  
45(小)9・00(バス)行者口10・00  
50(大)登山口10・30(大)行者山  
11・05(小)六地蔵11・50(大)12・  
05(大)御座山12・20(夜)13・30  
1(大)石橋13・40(大)岐須山14・15

20(大)龍巻の郷15・20(解)解  
新緑を楽しむながら地図とコン  
パスの使い方を勉強。山頂からは  
樺太・丹波の山々の大展望に満足  
した。下山途中、カミナリを伴っ  
た激しい雨に遭ったが、無事に能  
勢の郷に着いた。右志(湯沢)ヒ  
ルのおまけ付きだった。  
(参加者)木村 豊 高橋美由子  
小林 桂 渡辺 徳水知代子  
下村和子 前田三 高月ミツヨ  
奈原理子 山谷美子 岩本いずみ  
秋山 純 東山登夫 日高史緒  
吉生幸子 前田初雄 中山光雄  
板井茂久 澤田惟之 北川良子

前田幸子 ○中村 登 (計2名)  
○塚元一彦  
三田哲・奥山(鈴鹿を歩く)8  
5月14日(日) 晴れ  
百々女神社駐車場集合8・30(大)龍巻  
9・30(大)登山口10・20(大)龍巻山11・  
10(大)龍巻山12・00(夜)13・00  
1(大)龍巻山13・05(大)三角峠13・20  
1(大)龍巻山14・30(大)龍巻山15・  
20(解)解  
奥山のシヤクナゲは今が満開で  
最後、全員が歓喜の声。経走路に  
はカタクリの花が咲き、林道には  
キノコウゲの花が続きヤマフジも

咲きだしていた。  
(参加者)後藤康幸 吉藤孝次  
古岡 仁 森本 勝 森本淳子  
山田景三 福岡 章 武藤由美子  
大石啓美 藤部 純 石川眞山英  
櫻田勝美 高津智美 落合ひろ子  
武野千鶴 河辺努男 駒場たか子  
緒方由子 神野孝允 高村裕二郎  
○岩野 明 (計21名)

木村光江 ○高橋芳彦 (計17名)  
○山田明男  
兼通・伊吹北陽坂  
(自然観察山行) 5月13日(日) 曇り  
JR大垣駅集合8・40(バス)国  
見峠9・45(大)10・00(大)御座山10・  
45(大)11・10(大)大石山12・00  
(夜)12・40(大)御座山13・00(大)  
落平14・50(大)御座山15・00(大)ま  
ざれ右公園16・30(大)17(大)大  
石山18・00(解)解  
吾妻山の北尾根には、ノワウチ  
ワ・ヤマブキノコ・イカリソウ・  
サンカヨウ・ルイヨウボタン・イ  
チリンソウ・ネリンソウ・カタク  
リなど、開花していた草木は62種  
何回訪れても見飽えのある北尾根。  
都合により14日(日)の訪問を繰  
り上げ、申し込みをされた方々に  
はご迷惑をおかけしました。  
(参加者)岩城孝子 加藤由紀子  
沼田直規 堀田 弘 川崎富士江  
鈴木邦雄 幸田正樹 幸田美子  
廣末 邦 中井美子 砂原崇子  
中村和江 吉村 明 藤田美穂子  
森本眞直子 安田文彦江  
○田中 明 ○齋見守成(計18名)

鈴鹿・上水島谷から国見若  
5月14日(日) 曇り  
朝明千種野球場集合8・20(大)  
伊勢谷根ノ平峠9・20(大)30(大)上  
水島谷(ヤシオ会)10・00(大)10(大)右  
保谷(ヤシオ会)10(大)15(大)見  
習(ヤシオ会)11・30(夜)12・30(大)  
青原(豆腐屋)13(大)14(大)40(大)  
14(大)伊勢谷(飛電所)15・00(解)解  
久しぶりの例年に類見知りの仲  
間が揃った。シロヤシオ・アカ  
ヤシオの満開を楽しむ。ブナの葉  
はまだ幼く、山をくぐるほどに緑  
の海は深くなった。  
(参加者)永戸秋治 吉本泰之  
池田孝一 今岡民代 伊藤賢久男  
小川砂子 ○筒井亮吉(計7名)

(解)解  
新芽の期間を満調に歩いた。山  
頂からは南に御在所から後山山  
で、北は御座山が眺められた。足  
元にはハルリンドウが咲いてい  
た。  
(参加者)松井雅子 上田久子  
榎木敏子 松原英樹 平田輝夫  
本 聡子 古橋孝次 保田 正  
岡松雅雄 藤田雄一 砂原崇子  
木村 豊 大森 隆子 高田久美子  
細野敦也 森 茂夫 山本千鶴子  
木岡 隆 本間啓子 岩城孝子  
石原君子 大橋光雄 川崎富士江  
村上勝子 妹尾一正 妹尾次代  
長谷川美 浦上 明 伊藤司徳子  
榎木敏子 佐藤新一 佐藤砂子  
菅生幸子 清水博之 米山(美)子  
中庭博子 清水博之 米山(美)子  
辻 行子 白根清子 松井敏子  
松山みつ 城月満幸 ○中村英雄  
○手井恒夫 ○川上久盛(計26名)

岩ヶ峰・飛越ヶ岳・北山  
(鈴鹿古山) 5月14日(日) 曇り  
近鉄湖の山温泉駅集合9・30(夜)  
大谷10・00(大)大谷11・00(大)海蔵  
11・30(大)峰越峠12・00(夜)夜  
12・40(大)飛越ヶ岳13・00(大)岩ヶ峰  
13・30(大)鐘巻14・15(大)北山14・45  
1(大)大谷15・40(中)湖の山温泉駅  
16・15(解)解  
雨にも降られずイワカガミの群  
落に目を奪われ、アカヤシオの花びら  
のじゅうたん道を踏み歩いた。シ  
ロヤシオも咲き始めていた。鐘巻  
(参加者)木本俊夫 木村正弘  
原 文子 大村博一  
島田信吾 島本廣治 松上美代子  
柳家市郎 上田政子 山野志保江  
石英倫子 安田良嗣 多賀久子

鈴鹿・鏡子ヶ口  
5月15日(日) 晴れ  
JR近江八幡駅集合8・00(バス)  
江越峠登山口9・05(大)20(大)馬尾山  
南麓(須谷川)10・35(大)45  
1(大)谷の分岐11・20(大)30(大)鏡子ヶ口  
東峠11・50(大)50(大)鏡子の分岐12・  
10(夜)夜 13・00(大)西路13・45(大)  
20(大)東峠14・00(大)15(大)打越16・  
00(大)15(バス)近江八幡駅17・15

北山・奥谷山  
5月18日(日) 曇り一時降雨  
出町御駅集合7・40(バス)  
大谷山9・40(大)奥谷山登山口  
10・20(大)30(大)鐘巻山11・00(大)5  
1(大)奥谷山11・30(大)奥谷山西路

北山・奥谷山  
5月18日(日) 曇り一時降雨  
出町御駅集合7・40(バス)  
大谷山9・40(大)奥谷山登山口  
10・20(大)30(大)鐘巻山11・00(大)5  
1(大)奥谷山11・30(大)奥谷山西路





(参加者) 篠原康幸 吉岡 仁  
山田三三 森本淳子 武藤由美子  
高田智美 小林 隆 崎 三保子  
伊藤勇男 水戸敏治 伊藤啓久男  
神野孝丸 河辺政男 石川武由美  
今野民代 小田妙子 的場たか子  
寺井恒夫 落合ひろ子  
◎監修 明 (計20名)

段木・鎌倉山・二池岳  
(釣道百山)

6月4日(日) 晴れ  
近鉄湯の山温泉駅集合9・30(重)  
八咫射撃場10・00―お茶池11・15  
―三池岳11・30―八咫峰11・40  
(昼食) 12・40―中津12・50―仙  
香山13・05―南郷13・20―段木13・  
40―滝谷入口14・30―八咫射撃場  
15・20(正) 湯の山温泉駅  
ドウタンツツシとシロヤシオの  
じゅうたん頂、イワカガミとシヤ  
クナゲの残り花、お茶池ではモリ  
アオガエルの脚が迎えてくれた。  
早白―山行された。  
(参加者) 山村慧男 原 光一  
原 幸子 水谷俊之 川本 隆  
島田信吾 舟本成治 大村俊子  
金森節子 宮田伸子 松上美代子  
徳田陽子 藤堂岡男 山野志保江  
山縣敏夫 安田良嗣 森 美香子

多賀屋(一) 多賀久子 細木美香子  
秋野陽子 秋野美紀志  
◎監修 明 ◎山田明男(計20名)

大峰・西宮峰から流力峠  
6月10日(日) ◎秋野東彦  
\*仕事の都合で中止しました。

比叡・三子山から三子尾  
6月11日(日) ◎小山良啓  
\*雨天のため中止しました。  
若狭・西方ヶ峰  
(近鉄百山止を登る第15回)  
6月11日(日) 曇りのち晴れ  
JR敦賀駅集合9・30(40)バス  
浦原10・10―長命水11・45―55―  
磯ヶ岳12・40(昼食) 13・15―  
四方ヶ岳14・10―30―奥の院展望  
台15・20―常呂15・50―16・30  
(バス) 敦賀駅16・20(解散)  
浦原から磯ヶ岳までは登りか  
いのある長いコースだが、樹林の  
なかで気分よく歩けた。長命水か  
らは尾根になり天岩からは眺望が  
開けた。道筋にササユリの咲くな  
かを下した。  
(参加者) 保田 正 宮村孝次郎  
平田輝美 中倉善子 高田久美子  
岩川育工 飯田夢子 沖 伸

福原 草 栄分治治 野里マツコ  
森 剛代 武部 剛 武部美香子  
熊木秀雄 東山優夫 岡松義雄  
藤原 邦 佐藤新一 佐藤妙子  
福原 一 堀谷香織 中島 隆  
角田 一江 堀田孝子 松尾千佳子  
秋田順郎 加藤浩二 中嶋日吉男  
長沢佑美 稲方由子 石川 敏  
白田中子 渡辺洋彦 松本康成  
高原生夫 石原豊美 三野 旭  
北原博子 竹田善英 和田祐樹  
山藤啓美 ◎長代裕美 (計44名)

横津・飯真山から飯真峠  
6月14日(日) 晴れ  
平日水曜ハイイク29  
JR横田富田駅集合8・30(32  
(バス) 飯原8・45―登山口9・  
10―飯真山10・00―獲合総合公園  
10・50―東海自然歩道合流点11・  
15(昼食) 12・20―青少年キャン  
プ場13・00―桜公園13・30―横津  
坂―上ノ口14・20(解散・バス)  
高柳駅

蒸し暑かったが午後からはしの  
ぎやすくなった。いつも車窓から  
見ている近郊の低山を登った。横  
津坂では、三のグループが川原  
で急車を乗しんでいた。  
6月15日(日) 晴れ  
JR横田富田駅集合8・30(32  
(バス) 飯原8・45―登山口9・  
10―飯真山10・00―獲合総合公園  
10・50―東海自然歩道合流点11・  
15(昼食) 12・20―青少年キャン  
プ場13・00―桜公園13・30―横津  
坂―上ノ口14・20(解散・バス)  
高柳駅

(参加者) 堀原香織 近藤 恭  
渡辺いく 櫻田幹夫 野田美香子  
下北雄代 青藤孝次 高島百合子  
中村静香 松尾隆一 中村千穂子  
真田孝子 藤原健一 千原千枝子  
佐藤孝英 山田隆雄 林尾正  
田田博子 阿川春美 小秋伊佐子  
諏訪絃子 巻田 晃 松尾千佳子  
中村英雄 辻 行子 若木いずみ  
白根博子 木村太郎 成川みさお  
川原隆雄 小谷和子 中上紀代子  
今西光男 林 進 光山 三香子  
櫻原孝子 小谷和子 中西良幸好  
角田一江 堀 久子 横川ゆり子  
◎青木一雄 ◎湯浅政男(計20名)

飛騨・三ヶ岳岳と初穂山  
(自然観察山行44)  
6月17日(日) 18日(月) 泊2日  
(17日) 雨 JR岐阜駅集合8・  
40(バス) 20(バス) 白川スーパ  
ー林道白川郷温泉園地駐車場12・20  
(昼食) 12・50(バス) 三方岩駐  
車場13・00(10) 三ヶ岳山頂14・10  
―三ヶ岳駐車場15・10(バス) 白  
川郷温泉園地駐車場15・30―ア  
ナ林散策―駐車場16・10(バス)  
城山温泉集合(バス) 白川郷温泉17・  
20(解散)

41―神石山12・12(昼食) 13・00  
―14(バス) 35(バス) 梅田山13・45  
―JR新原駅14・15(電車) 各  
古原駅15・34(解散)  
〔東海の屋敷〕と書かれている  
温泉は雨上りのせいで閉鎖とし  
ていた。先に詳しい入りに出ない温  
泉の今古を聞いた。湖川連峰の摩  
訶山・神石山から見る感度はすば  
らしく、遠州越一近き源を見ての  
快遊ハイイクだった。  
(参加者) 長沢佑美 片 ずみ子  
岡本孝子 ◎藤原 邦  
◎小山良啓 (計9名)

(18日) 晴れ 兵部6・40(バス)  
天竺峠?・20―天生温泉5・00―  
カツラの太木 太田温泉8・50―  
分岐9・20―初穂山10・00(昼食)  
10・50 分岐 カツラの太木12・  
30―天生山13・00(バス) 白川ク  
ワバス14・10(入浴) 14・50  
(バス) 岐阜駅17・00(解散)

梅雨明けが北上し、両日とも本  
格的な雨という予報だったが、18  
日は晴れ上がり、交通規制にもお  
つかず幸いした。三方岩岳から  
は向の中でも白山などが望め、山  
中は季節が逆戻りしたように春の  
草木が咲き誇り、初穂山では原生  
林で日本海産フナ的美しさと森林  
の花の深奥さに圧倒された。  
(参加者) 石沢俊子 今津省司  
岩崎孝子 岩田奇士 奥野太一郎  
近江孝子 大村正江 飯野陽子  
近藤 誠 鈴木敏彦 砂野美香子  
田中 茂 藤井健造 森 美香子  
由田代代 藤原博子 藤岡善孝  
本村 昭 ◎三井 一  
◎寛見守康 (計20名)

スズランの入笠口と守屋山  
6月17日(日) 18日(月) 泊2日  
(17日) 雨 JR大津駅集合8・  
30(バス) 入笠山登山口13・15―

入笠温泉14・15―40―マヌスル山  
井15・00(バス) 入笠山15・40―マ  
ヌスル山16・00(泊)  
(18日) 晴れ 山荘?・20―登山  
口8・15(バス) 杖突峠10・  
20―遊歩小笠9・50―守屋山東峰12・  
40―西峰11・00―遊歩小笠13・  
20―杖突峠12・55(バス) 高遠酒  
泉(入浴後・バス) 大津駅18・00  
(解散)

雨の入笠は一面のスズランで目  
い香りに満ちている。翌日は上天  
気になり、守屋山一峰からの大ハ  
ノラマを楽しんだ。守屋山の登山  
口では予期せぬベニバナチャク  
ソウの人混みがあった。  
(参加者) 若松 寛 若原勉十  
木下照子 日高史緒 飯沼美香子  
小田朝子 高田明子 岡田康孝子  
白田記子 渡辺いく 田中まゆ子  
岡 倍弘 岡 繁江 堀谷香子  
家人敏光 家人親子 安倉正樹  
寛本佳子 田中孝子 中西 昭  
平蔵英子 ◎田田 昇  
◎美原弘子 (計22名)

イハイゴ岳から線向山新ルート  
6月18日(日) 曇り  
白山谷林道入口集合8・30(重)

穂尾谷広原9・00―大輪10・00―  
登り谷10・10―30―イハイゴ山11・  
00―神向山12・05(昼食) 13・00  
―ブチの平13・20―遊歩谷広場  
15・15(解散)  
雨上がりで大輪まではヤマヒル  
の歓声を聞いた。ツルベ谷の源流  
ではめずらしいシロウケランを見  
た。ブチの平では鹿の角を拾い、  
あたりを探し回ると何と立派な角  
を7本も見つけた。

(参加者) 湯浅順夫 湯浅みや子  
後藤生夫 吉岡 仁 森本孝子  
高田智美 木村正弘 木村千代子  
今津省司 大石善英 飯沼山孝子  
山三朗男 池田豊美 伊藤啓久男  
中森明夫 高田友彦 辻やす香  
水谷俊之 西内正弘 落合ひろ子  
永戸敏治 加藤正彦 的場たか子  
藤原 純 藤原信吾 石田真由美  
神野孝丸 今野民代 細木美香子  
小林 実 和田四郎 ◎長野 明  
◎田田 昇 (計32名)

三河・重毛温泉と神石山  
6月18日(日) 曇りのち晴れ  
JR豊橋駅9・30(バス) 山崎9・  
40―温泉入口9・47(温泉散策)  
10・47―11時11・05―10―NH  
K中継若11・30―飯原山11・37―

比良・武蔵ヶ岳と初穂山  
(平日木曜ハイイク29)  
6月22日(日) 曇りのち晴  
出府温泉集合7・40(バス)  
坊村8・45(バス) 御殿山11・  
00(バス) 武蔵ヶ岳11・50(昼食)  
12・25―初穂山―イアルキのコバ  
―八雲ヒュッテ13・45―50―北比  
良峠―カモカ台14・45―50―ア  
ケテ―イン谷口15・50(解散)

無敵温泉の飯原山ルートは懐し  
かったが、山頂の展望はますます  
見違えたのしかった。北比良峠  
では待望のササユリが咲いていた。  
5年余にわたる木曜ハイイクに参

新ハイキング選書

第4巻  
改訂第2版

# 一等三角点のすべて

多摩 雪雄 編

◆上製本/96割350頁/図版多数/定価1890円(税込)◆  
都道府県別に一等三角点を地図入りで示している。一等三角点の今までの記録の出所を併せて示している。その他、一等三角点の詳細な解説、高度順一等三角点一〇〇等、最新の地形図による一等三角点の決定版。

水らく絶版のところが、要項も多いところから、最新の記録の出所を加える等改訂しました。

●本誌随伴の折頁用紙でのご注文は送料当社負担  
発行所 **新ハイキング社**  
〒114-0023 東京都北区海野川7-6-13  
TEL/FAX 03-3815-0110

加もりがとうごさいました。  
(参加者) 堀原春雄 水島真砂子  
戸根 成 本間 隆 本間孝子  
東山 登夫 松尾昭子 中塚美智子  
安良陽子 大橋英造 空田美奈子  
岩本孝子 川上久登 松本いづ子  
妹原公代 妹原正 宮坂敏彦  
村上 武 長尾 忠 長尾昭子  
中川光郎 藤井秀子 前田一江  
木村太郎 ○水島真一 櫻(計30名)  
○小林 穂 ◎前中 一

JR長良川線東大寺・40・55(六)の  
野崎10・20(六)寺崎10・45(日)  
00(一)大宮寺崎10・00(昼)12・  
50(一)松崎10・10 天白寺山14・00  
松崎根分岐14・10(一)鉄巻15・  
15(一)20(一)大宮寺崎15・50(一)00(一)  
野崎15・20(一)30(一)六の長良川駅・  
00(昼)12  
シラサガの急登を大古寺跡に登り、寺跡広場で昼食した。水筒で飲み水を補給し、テープに導かれて後継に出た。山頂は狭く樹々で盛望はさかない。松尾昭子の踏み跡をたどり鉄塔をめぐり下山。全く人に出会わない山も大勢で歩

けば楽しい。  
(参加者) 三井敏一 高村孝次郎  
林美智子 向山 豊 野野智雅子  
西原英弥 榎本芳雄 岩田直二  
馬場昭男 中村啓一 松上英代子  
小山 輝 清水昭二 久保田順一  
北村 正 横澤裕春 波多野恵子  
荒木光雄 八木隆雄 中村佳雄子  
東山登夫 入江武史 小原さゆ子  
黒川内葉洋明 片 すす子  
小出良春 木村和志 東 美智子  
白田忠子 市野博文 藤田健一  
加藤 久子 小谷和子 山崎日留男  
田橋 孝次 高橋孝次 船本喜久夫  
石川和芳 秋田純輝 高橋喜孝子

中村敏香 岸本美美 松崎三佳子  
鶴野頼夫 植木俊子 上井美英子  
土井隆夫 白根啓子 吉田ソノ子  
森本節美 森田 晃 辻 行子  
西原定夫 小田昭十 占部信廣  
別定保夫 高橋英治 杉村安代  
重富妙子 竹田登美 林 陽子  
日高正雄 沼本 隆 渡辺清郎  
廣果 邦 榎野計国 榎原おどり  
○北比呂夫 ◎前中 一  
北山・八丁尾根から愛宕山  
(北山よりと歩き10)  
6月26日(日) 曇り時々晴れ  
\*雨天のため中止しました。

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西」の山(隔月刊、年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。

この雑誌は旅行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、情報誌が健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをもとに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和55年発足以来、東京を中心に10年間も好評のうちに活動してきました。関西は平成5年発足で9年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。

若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 5000円(ハッパジ代)  
年会費 3000円(送料共)  
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の応募用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び郵便号からの送付をお願いします。記入してください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。毎号送付にお手元が届きますので便利です。

切手もりの回分を送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。

○新入会員紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会費4299番から4335番まで  
【愛知】 中西美枝 斎藤芳美  
藤本佳吉  
【三重】 黒野賢男 山崎美知子  
高田香奈子  
【滋賀】 吉浦佳子  
【京都】 谷内公天 徳永幸治  
中西浩美 原三枝子 藤田美代子  
江藤昭子 中西浩美 藤沢みゆ子  
西村耕一 前田 政 舟岡千恵子  
【大阪】 森本節美 笠岡尚美子  
藤澤茂一 坂口良枝 松崎千穂子  
角川朝子 渡辺裕子 松崎昭子  
平田知子 今村 祐 長生陽子  
【奈良】 長尾 一 合 迫 恵美子  
山田 敏 白江昭夫  
【兵庫】 平川 隆 岡田比佐志  
城井朝雄 寺田正幸 佐藤としえ  
森 俊夫 田中正幸 佐々木義男

目「ルノ、ピタチ」は「ルノ、ピタチ」が正しい。  
53号(盛夏)77ページ一段目後から2行目「馬ノ駒山」は「馬ノ駒山」が正しい。  
53号(夏)94ページ一段目後から2行目「首尾」は「首尾」が正しい。  
65号(盛夏)99ページ一段目後から2行目「キバナノイナリリン」は「キバナノイカリリン」が正しい。  
なお、53号(盛夏)で草履の一部に出力ミスがあり、左記の通り訂正します。  
35ページの下部10行目「標」は「66」62ページの中段1行目と23ページの下部13行目の「机読神社」は「読機神社」。  
67ページの「時刻表」は「ア時07分」がそれぞれ正しい。  
(編集長)

前にお求めになつた方へ  
前もって書店に毎号ほしいと「新ハイキング」を求めましたとこの書店でもお買い求めいただけます。隔月刊の20日(土)「隔月刊」の発売です。